



愛知県立芸術大学 | 大学案内 |

2019-2020

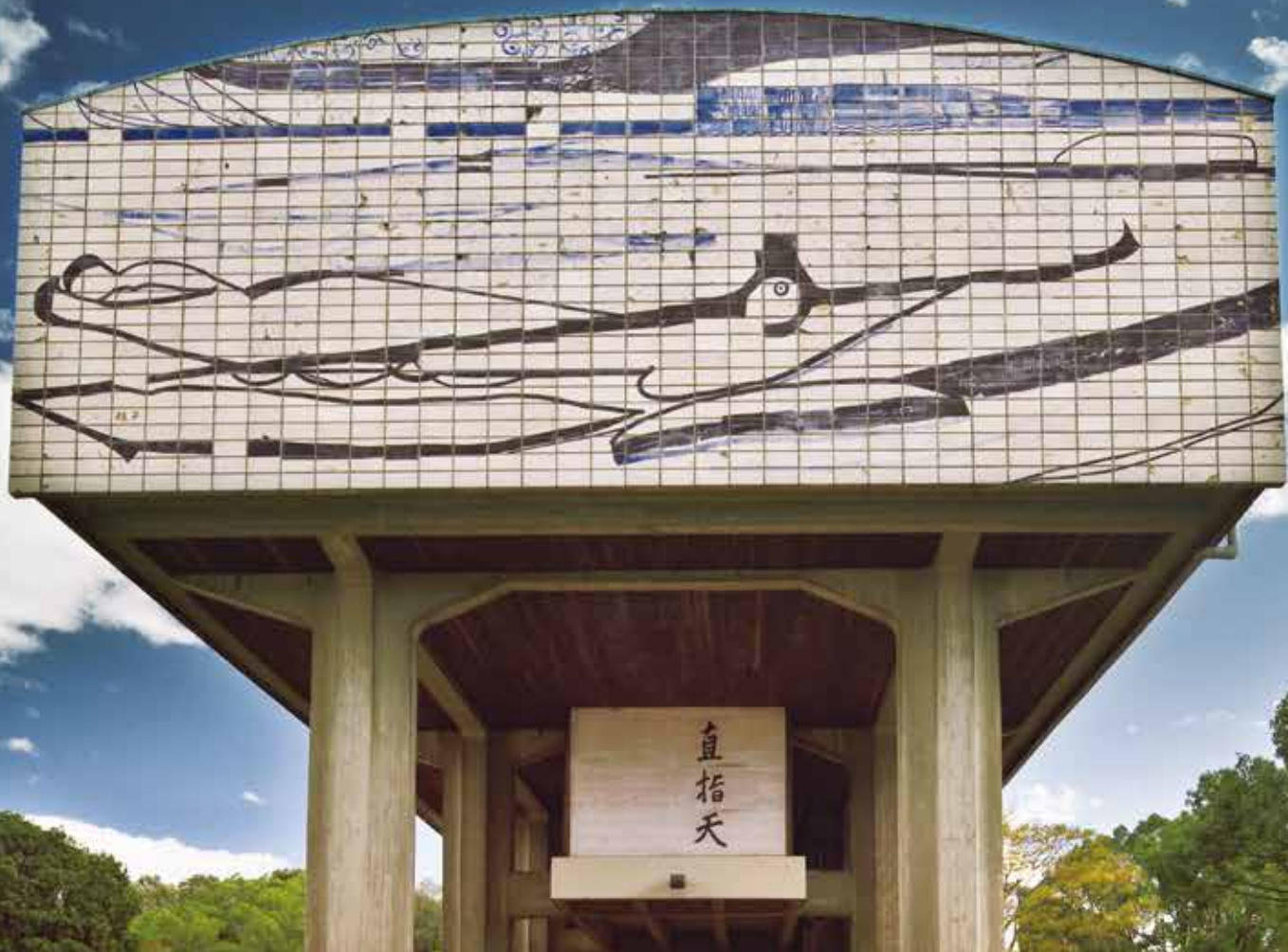


# 直指天

じきしてん

この山に入るものに、  
先ず人界を忘れることをすすめる。  
人間臭を去ることを求める。  
仙境の澄んだ空気を吸って、  
仙人とはなれないにしても、  
せめて天を仰ぐことを忘れるな。

初代学長 上野直昭の言葉より



直指天



# 愛知県立芸術大学 大学案内2019-2020

## 目次

Contents

愛知県立芸術大学の理念	006
歴史と沿革	007
大学組織図	008
美術学部	009
日本画専攻	011
油画専攻	015
彫刻専攻	019
芸術学専攻	023
デザイン専攻	027
陶磁専攻	031
音楽学部	035
作曲専攻 作曲コース	037
作曲専攻 音楽学コース	041
声楽専攻	045
器楽専攻 ピアノコース	049
器楽専攻 弦楽器コース	053
器楽専攻 管打楽器コース	057
教養教育	061
美術研究科・音楽研究科	065
美術研究科 博士前期課程	067
美術研究科 博士後期課程	068
音楽研究科 博士前期課程	069
音楽研究科 博士後期課程	070
基本情報	071
施設・建物	073
国際交流	075
入試情報	077
入試状況・資料請求	078
卒業後の進路状況	079
就職支援	080
教職課程・博物館学課程	081
センター・事業	082
学費・奨学金	083
主な年中行事	084
アクセス	085
お問合せ	086

# 愛知県立芸術大学の理念

## University Philosophy

愛知県立芸術大学は、個性的で魅力ある大学として、また愛知が生んだ芸術文化の拠点として国際的に開かれた芸術文化の核となることを目指し、次の三つの理念をかかげます。

- 学部から大学院までを視野に入れた一貫した教育研究体制の充実を図り、芸術家、研究者、教育者など芸術文化にたずさわる優れた人材の育成を目指す。
- 国際的な視野を持った高度な芸術教育を実践することにより世界に通用する優れた人材を育成し、国際的な芸術文化の創造・発信拠点となることを目指す。
- 教育・産業・生活文化など様々な分野で本学の持つ芸術資源を有効に活用し、地域社会と連携して、愛知県の芸術文化の発展に貢献することを目指す。

その理念と目的に合う人材の育成のために、それぞれの専門分野にふさわしい資質をもつ次のような学生を求めています。

- 芸術を創作・研究する強い意志と感性を持ち、実技の基礎能力がある人。
- 美術界、音楽界、芸術教育界を将来担うべく意欲旺盛な人。
- 広い視野と多様な価値観を持ち、自ら積極的に学ぶことのできる人。

# 歴史と沿革

History

1966 S41.4



愛知県立芸術大学開学。  
美術学部美術科[絵画専攻、  
彫刻専攻、デザイン専攻]、  
音楽学部音楽科[作曲専攻、  
声楽専攻、器楽専攻(ピアノ  
コース・弦楽器コース)]を  
設置。初代学長 上野直昭  
就任。

1969 S44



奏楽堂 竣工

1970 S45

大学院(修士課程)開設。  
美術研究科[絵画専攻、彫刻専攻、デザイン専攻]、音楽研  
究科[作曲専攻、声楽専攻、器楽専攻(ピアノコース・弦楽器  
コース)]を設置。

1972 S47



奏楽堂に、西ドイツ、ヨハネ  
ス・クライス社製パイプオル  
ガン設置。  
第2代学長 小塚新一郎就任

1973 S48



芸術資料館 竣工。

1977 S52

小塚新一郎死去に伴い、学長職務代理に大下正明が就任。  
(S52.9)  
第3代学長 豊岡益人就任(S52.12)

1983 S58

第4代学長 河野孝就任

1985 S60

南京芸術学院と学術交流協定調印

1989 H1



第5代学長 建島嘉門就任  
美術学部デザイン・工芸科の学  
科増設。デザイン専攻が美術科  
から移行、陶磁専攻を設置。美  
術学部美術科絵画専攻を、日本  
画専攻・油画専攻に改組。  
音楽学部器楽専攻に管打楽器コ  
ースを設置。  
法隆寺摸写記念館、新講義棟、窯  
場 竣工

1990 H2

愛知県立芸術大学管弦楽団創設

1993 H5

大学院美術研究科絵画専攻を日本画専攻、油画専攻に改  
組し、陶磁専攻を設置。

1994 H6

大学院オペラ(複合芸術プロジェクト)を開始。  
音楽学部作曲専攻に音楽学コースを設置。同大学院音楽  
研究科作曲専攻に音楽学コース、管打楽器専攻に管打楽  
器コースを設置。

1995 H7

第6代学長 川上實就任

2001 H13

第7代学長 島田章三就任  
美術学部美術科に芸術学専攻を設置。

2007 H19

第8代学長 磯見輝夫就任  
愛知県公立大学法人設立により、大学法人化。愛知県立大  
学と共に、2大学1法人の大学となる。  
大学院美術研究科の5専攻、音楽研究科の3専攻を廃止。  
それぞれ美術専攻、音楽専攻を設置する。

2009 H21

大学院(博士後期課程)を開設。  
美術研究科博士後期課程、音楽研究科博士後期課程を設  
置。

2013 H25



第9代学長 松村公嗣就任  
音楽学部新校舎 竣工

2014 H26

文化財保存修復研究所 設立

2016 H28

創立50周年を迎える

2018 H30

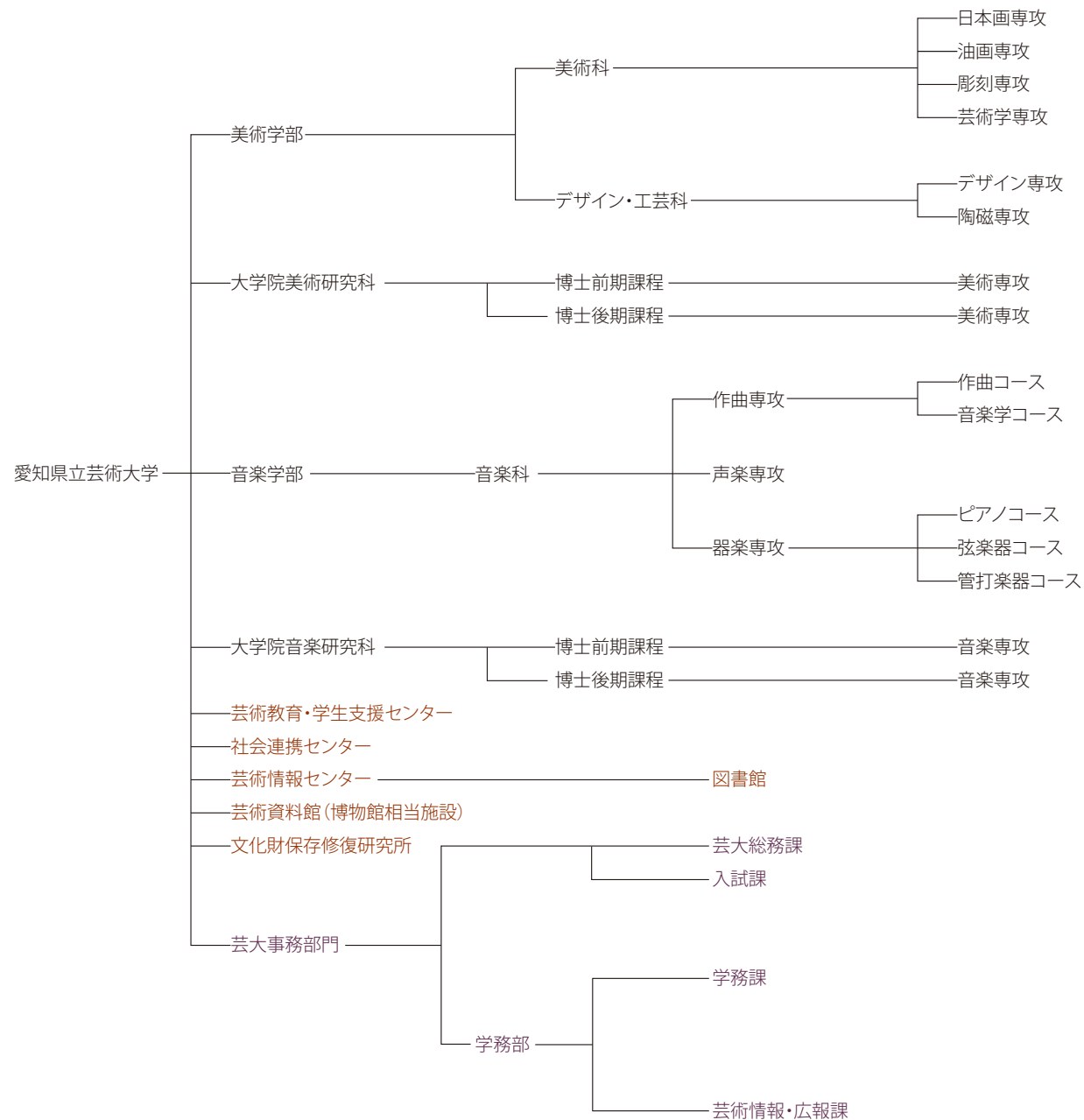
第10代学長 白木彰就任

2019 H31

新デザイン棟 竣工

# 大学組織図

Organization Chart



# 美術学部

Faculty of Art

美術科 Department of Fine Arts

日本画専攻 Japanese Style Painting "Nihonga"

油画専攻 Oil Painting

彫刻専攻 Sculpture

芸術学専攻 Art History, Art Theory and Conservation

デザイン・工芸科 Department of Design and Crafts

デザイン専攻 Design

陶磁専攻 Ceramics



#### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

所定の期間在学し、所属専攻において定める専門分野に関する知識・技能・社会的対応力、幅広い教養を身につけ、最終年次の「卒業制作、卒業論文」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士（芸術）の学位を与えます。

#### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

現代において美術は多様な思想や表現を包括しています。美術学部ではマンツーマンの個人指導を基本に、それぞれの領域の現状を踏まえ専攻ごとの特殊性を尊重したカリキュラムを制定しています。実技系の授業等とあわせ、美術理論、語学、一般教養等、自由に選択可能な科目を幅広く学ぶことも出来ます。

#### アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

愛知県立芸術大学は、地域から世界への発信を目指し、活発な芸術活動で質の高い研究、教育、社会貢献を展開しています。美術学部では芸術家、デザイナー、研究者など美術全般で専門性の高い人材を育成、供給するため、専攻が独自のアドミッションポリシーを制定しています。

# 日本画専攻

Japanese Style Painting "Nihonga"

■美術学部 ■美術科 ■日本画専攻

## 専攻概要

日本画における絵画表現は千数百年前から連綿と積み重ねられている伝統的なものです。日本画は、鉱石を砕いて作った岩絵の具という粒子の粗い絵具を、接着剤である膠にかわと混ぜて画面に書いていく、日本で千数百年続いてきた絵画表現です。岩絵の具の持つ輝きに魅了された学生が日々制作活動に励んでいます。日本画専攻の特色のひとつは、個人指導に重点を置いた少人数教育にあります。4学年の学生合計40名に対して、専任教員6名、非常勤講師約30名が指導にあたり、1対1の個人指導を基本としています。

## カリキュラム

1年次、2年次には日本画表現における基礎的な技法の習得を目指します。動植物制作、風景制作等の課題を通して、膠、絵具、紙、筆等の材料研究を行います。また古典衣装や模写を通して、日本画の伝統的な色彩や線描表現、及び技法を学びます。3年次には1・2年次に習得した基礎技法を踏まえ、より応用的な制作に入ります。各個人の発想や、取材をより必要とした課題が多くなります。古美術研究旅行では、絵具、紙、墨の製造現場を訪ね、材料研究を深めます。また、仏閣等を訪ね、障壁画等に見られる伝統的な絵画表現の研究を行います。4年次には予備制作に続き、学部の集大成として卒業制作(卒業制作展での発表を含みます)を行います。大画面の制作を行う事で各自が作品発表の指針を模索すると共に、より専門的な日本画表現を目指します。

## 教員

梅原 幸雄	UMEHARA, Yukio	客員教授	日本画
北田 克己	KITADA, Katsumi	教授	日本画・模写
岡田 眞治	OKADA, Shinji	教授	日本画
井手 康人	IDE, Yasuto	准教授	日本画
吉村 佳洋	YOSHIMURA, Yoshihiro	准教授	日本画・模写
岩永 てるみ	IWANAGA, Terumi	准教授	模写・保存修復
阪野 智啓	BANNO, Tomohiro	准教授	模写・保存修復

## 非常勤講師

川瀬 磨士 / 清水 由朗 / 藤森 民雄 / 芝 康弘 / 王 培 / 並木 秀俊 / 他

## 文化財保存修復研究所

有賀 祥隆 / 脇屋 助作 / 鈴木 晴彦 / 鈴木 貴夫 / 青木 智史 / 他



## 美術学部専門教育科目

### 専攻科目

#### 1年次

##### 日本画実技Ⅰ

植物制作Ⅰ・Ⅱ：植物の制作を通し日本画の技法全般の基礎を学ぶ。

剥製写生：精密描写を通して、写実の重要性を認識する。

動物制作：動物の制作を通して動物の骨格や動作などを学ぶ。

風景制作：夏休み中に風景スケッチを課題とし、その写生を元に制作を行う。

裸婦制作：裸婦デッサンをもとに日本画におけるの人物表現を学ぶ。

絹絵制作：絵絹の扱いを学ぶ。雛人形を課題とし、日本画の様式美や平面描写を学ぶ。

自画像制作：自画像を通して人物表現の研究を行う。



学部1年 アトリエ



1年 動物制作  
東山動物園でのスケッチ(1週間)を行い、それをもとに30号サイズで制作します。



1年 自画像制作  
1年生最後の課題は、大きな鏡を使って自画像制作を行います。

#### 2年次

##### 日本画実技Ⅱ

人体デッサン：裸婦のデッサンを行う。

植物制作：植物の精密写生をもとに植物制作を行う。

植物絹絵制作：植物写生及び制作を参考にして、絹本に基底材を変えて制作を行う。

人物と植物の組合せ：植物写生とデッサンをもとに人物と組み合わせ画面構成の基礎を学ぶ。

風景制作：夏休み中に風景スケッチを課題とし、その写生を元に制作を行う。

群像制作：2人以上の人体を組み合わせ構成し、制作する。

人物自由制作：人物を発想豊かに構成し、制作を行う。



2年 植物制作  
植物園や緑豊かな大学内など、自由に植物写生を行い、少し大きめの日本画制作をします。



2年 絹絵制作  
現在では珍しい絹絵の制作を、準備の段階から丁寧にを行い、絹絵特有の技法も身に付けます。

#### 3年次

##### 日本画実技Ⅲ

人物制作(裸婦)：人物における日本画の表現方法を研究する。

自由制作：各自でテーマを決め、自由課題で制作を行う。

模写制作：「国宝 一遍聖絵」を課題として現状模写を行うことで古典絵画の表現や技法を学ぶ。

風景制作：夏休み中に風景スケッチを課題とし、その写生をもとに制作を行う。風景における日本画の表現方法を研究する。

自由制作：自分が表現したい対象物を見つけ出し、自由な発想で制作する。

古典と現代の組合せ：古美術研究旅行で研究した内容をもとに、古典的要素と現代的なものを自由な発想で構成する。



3年 古典模写

2年次で紙本、3年次で絹本の古典絵画の模写を行い、伝統技法を学びます。



3年 古美術研究旅行  
福井の和紙工房や、京都・奈良の寺社を巡り、古文化財や日本文化に直接接する貴重な1週間です。



3年 人物制作

人物デッサンの機会は4年間にたくさん設けられており、それらを活用して人物制作を行います。



3年 古典と現代

古美研での経験と現代の感覚を融合させた制作を目指します。

#### 4年次

##### 日本画実技Ⅳ

人物デッサン：裸婦デッサンを行う。

自由制作：卒業制作に向けて150号の大画面に制作を行う自由課題。

卒業制作：4年間で学んだ総合的な研究成果を150号の自由課題で制作し、卒業制作展にて発表する。



4年 卒業制作  
卒業制作を150号以上で行い、学内で発表します。



学部4年 講評会



学部4年 卒業制作

## 専門講義

日本画実技以外にも、多彩な講師陣による専門講義が組み込まれ、様々な技法や知識を学びます。

【日本画表現】川瀬 磨土、神谷 浩ほか

【表具実習】脇屋 助作

【裏打ち実習】鈴木 貴夫

【截金・金箔実習】並木 秀俊

【人体デッサン】藤森 民雄

【材料研究】増田 勝彦、成瀬 正和ほか

【日本美術史】有賀 祥隆、谷口 耕生ほか



裏打ち実習



金箔実習



材料研究

### 古美術研究

関西地方の寺社仏閣や日本画材料製作工房を訪れ、古美術を研究する。

## 卒業後の進路

作家活動(院展・日展・創画会・個展ほか)はじめ、教員、企業、アニメーション関係と幅広く活躍しています。

### 教員

愛知県立芸術大学美術学部日本画専攻、愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所、東京藝術大学美術学部絵画科油画、東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学保存修復日本画研究室、上越教育大学、名古屋学芸大学短期大学、愛知産業大学、名古屋造形芸術大学、京都造形芸術大学、名古屋市立工芸高等学校、愛知県立旭丘高等学校美術科、東邦高等学校美術科、岐阜県立加納高等学校美術科、三重県立飯野高等学校、他小学校、中学校、高等学校多数

### 就職等

河合塾、鳴海製陶、松坂屋、メナード美術館、瀬戸市美術館、スタジオジブリ、小倉工房、サンゲツ、スタジオワイエス、テレコムアニメーションフィルム、舞台美術、コナミ株式会社、表具師、版画家、漆芸家、映像作家、漫画家、学芸員、画家多数

### 進学/留学等

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程、東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程、文化庁派遣在外研修員、チェコスロバキア、中華人民共和国、セントラル・セントマーチンス(イギリス)

### 企業・アニメ関係(近年)

河合塾、個人画塾、松坂屋、コナミ、スタジオジブリ、小倉工房、スタジオワイエス、テレコムアニメーションフィルム、漫画家、映像作家ほか

### 卒業生の動向

画塾講師、中学教員、画廊、高校教員、高校非常勤、留学(チェコ)など

## 活躍する卒業生・在学生



河本 真里

2016年 大学院博士前期課程修了  
第101回再興院展 奨励賞受賞  
第22回天心記念茨城賞受賞  
現在 日本美術院 院友  
愛知県立芸術大学非常勤講師



岩田 明子

2013年第98回再興院展 初入選  
2018年大学院博士後期課程修了  
現在 日本美術院 研究会員  
愛知県立芸術大学非常勤講師  
愛知県立芸術大学保存修復研究所  
研究員



石谷 滋規

2014 愛知県立芸術大学 日本画学科 博士課程前期 卒業  
第69回春の院展 初入選  
2015 第100回再興院展 初入選  
現在 日本美術院 院友  
愛知県立芸術大学 非常勤講師



玉井 伸弥

2015年第70回春の院展 初入選  
再興第100回院展 初入選  
2016年アートフェア東京 2016  
2018年愛知県立芸術大学大学院博士前期課程  
日本画領域 修了  
ART TAIPEI 2018  
現在 日本美術院 院友、愛知県立芸術大学  
非常勤講師



外山 諒

2016年「Seed山種美術館 日本画アワード2016」  
審査員奨励賞  
2017年愛知県立芸術大学日本画専攻 卒業  
「第7回トリエンナーレ豊橋 星野真吾賞展」  
入選  
2018年再興第103回院展 初入選  
愛知県立芸術大学大学院博士前期課程  
修了予定



平林 貴宏

2008 愛知県立芸術大学美術研究科  
日本画専攻 研修課程 修了  
2005 第90回再興院展 初入選  
2007 第62回春の院展 初入選  
現在 日本美術院 院友



川島 優

損保ジャパン美術賞 FACE2014大賞。星野真吾賞  
展 優秀賞(2014) 第99回再興院展 奨励賞(2014) 第  
6回東山魁夷記念日経日本画大賞 入選(2015) 2018  
年 大学院博士後期課程修了。現在 日本美術院院  
友。愛知県立芸術大学非常勤講師。



森下 麻子

第65回春の院展・第98回再興院展 初入選  
2015年 大学院博士後期課程修了  
現在 日本美術院 院友  
愛知県立芸術大学非常勤講師

### 展覧会

在校生、卒業生を中心とした主なグループ展  
・"にほんが"っていいね。展(名都美術館)  
・風雅の会日本画展(松坂屋美術画廊)  
・若鶯会日本画展(三越美術画廊)  
・勢の会日本画展(松坂屋美術画廊)ほか



若鶯会(2015年)



勢の会(2015年)

## 文化財保存修復研究所

2014年度より研究センター「文化財保存修復研究所」日本画部門が立ち上がりました。本研究所は専門の技術者・研究者の指導のもとで、絵画文化財の修復および模写と、それに関わる人材の育成を行っています。



修復作業



表具作業



模写事業（「応徳涅槃図」）



模写研究（「聖徳太子絵伝」）



## 入試

### 求める人物像

- 観察によって発見したよこびを表現することに、強い意欲をもっている人
- 自分の可能性を信じ、目標に向かって粘り強く取り組める人
- 時代やジャンルを問わず、幅広い芸術表現に興味がある人
- 新たな発想と表現力を身につけ、社会で活かしたいと思っている人

### 入学前に身につけてほしい学習成果

- 観察力と描写力（デッサン、着彩）

### 入学試験の基本的な方針・考え方

受験生の能力を適切に評価できるよう、大学入試センター試験による学力と、石膏デッサンと着彩による二種類の実技試験を行います。

### ■一般入試

- 一次試験では、石膏デッサンの実技試験の得点と、学科（大学入試センター試験）の合算により可否を判定します。
- 二次試験では、着彩による実技試験の得点によって、最終合格判定を行います。モチーフは年度によって変更します。大学入試センター試験や一次試験の得点は加算されません。

専攻	募集人員	試験内容			
		科目	配点	合計点	
日本画	10名	1次	石膏素描(6時間)	1000点	実技+センター600点 計1600点
		2次	水彩画(8時間)	1000点	

## 専攻サイト

<http://japan-paint.aichi-fam-u.ac.jp>  
合格者作品はこちらからご覧ください



# 油画専攻

Oil Painting

■美術学部 ■美術科 ■油画専攻

## 専攻概要

### 「絵画」を起点にした表現

芸術が多様化し、さまざまな試みが繰り返される現在、作り手が独自の表現を見つけ出すことは容易ではなく、新たな創作の手がかりをつかむには、内面をより深く掘り下げた思考と着想が必要とされます。油画専攻では、新たな創作を追求するために「絵画」を起点とした表現を中心に据えながら、学生の「個」の力を見いだし、指導を展開しています。具体的には、学生たちは与えられたカリキュラムをこなすだけでなく、自ら学びたい授業を選択し、教員との対話を通して各自の創作を追求していきます。このことは学生の「個」を尊重し、結果的に表現する上での自立心と探究心を養うことにつながっていきます。このように油画専攻では、学生と教員がともに考えながら表現することの喜びを分かち合います。また、多様なカリキュラムにより学生一人ひとりの創作意欲を高め、将来社会で活躍するアーティストを育成することを目指しています。

## カリキュラム

### 個の力を重視した少人数制

1学年25名の学生に対し、12名の教員が担当する少人数体制は、充実した指導と、学生への丁寧な対応を可能にしています。油画専任教員は、それぞれの視点から、学生の多様な発想や表現を見逃すことなく、学生と共にその可能性を育んでいきます。

1年次では油画を制作することの他に、技法材料、壁画研究、版画研究、空間表現など、基礎的な実技を学びます。2年次からは、教員がさまざまな講座を開講し、学生が自主的に選択する授業になります。学生は講座を通し価値観を横断的に学ぶことができます。3年次からは、学生の自発的な制作を軸に授業が展開されます。学生が教員を選択し、対話をしながら制作をおこなうチュートリアル授業や、作品の講評をおこなう講評週間など、学生は指導教員を自主的に選択し、創作を実践していきます。4年次も個別選択授業が継続され、集大成である卒業制作に向かい実技指導をおこなっていきます。また、油画専攻では、非常勤講師を招聘し写真講座や文章講座など専門性の高い講座を開講しています。非常勤講師は、美術作家やキュレーターなど多分野から30名程度を招聘しており、学生の思考や視野をさらに広がっていきます。

## 教員

馬場 駿吉	BABA, Shunkichi	客員教授	美術批評・医学・現代俳句評
寺内 曜子	TERAUCHI, Yoko	教授	立体・空間・インスタレーション
設楽 知昭	SHITARA, Tomoaki	教授	絵画・現代美術
阿野 義久	ANO, Yoshihisa	教授	絵画表現
倉地 久	KURACHI, Hisashi	教授	版画・版表現
額田 宣彦	NUKATA, Nobuhiko	教授	絵画
井出 創太郎	IDE, Sotaro	准教授	版画
高橋 信行	TAKAHASHI, Nobuyuki	准教授	絵画
白河 宗利	SHIRAKAWA, Noriyori	准教授	絵画・技法材料
岩間 賢	IWAMA, Satoshi	准教授	絵画表現・現代美術
大崎 のぶゆき	OSAKI, Nobuyuki	准教授	版画・現代美術
猪狩 雅則	IGARI, Masanori	准教授	絵画
安藤 正子	ANDO, Masako	准教授	絵画

非常勤講師

約30名



1年生

### 制作の基礎 可能性

1年次と2年次は制作の「基礎」と「可能性」と位置づけ、様々な講座を開講しています。1年次では油画の技法・材料や壁画、版画などの実習や、風景、人物、立体などの講座。2年次からは教員が開講した講座を通して絵画制作の基礎的な技術を身につけていきます。



#### 材料研究

描画材料に適した絵画の下地研究、油絵の具製作及び講義、テンペラ絵具と油絵具を用いた混合技法の実習などをおこないます。

#### 版画研究

木版、銅版、リトグラフ、シルクスクリーンなどの版画技法の習得と版の特質を理解しながら、自己表現としての版画を探求していきます。



2年生

#### 講座制

2年次になると、各教員が開講する講座を受講します。各講座は教員自身の制作思考や開講時期によって内容が変化し、多彩な講座となっています。学生がそれぞれ講座を選択でき、さまざまな価値観を横断的に学び、制作の思考を育んでいきます。



3年生

### 応用 作品の成立

#### チュートリアル

3年次4年次は、学生の自主的な制作をもとに授業が展開されます。チュートリアルは、学生が自発的に教員を選び、2ヶ月ほどの長い期間、教員と対話しながら制作をおこないます。丁寧な対話によってそれぞれの可能性を伸ばし、制作の思考や技術的な質を高めていきます。



#### 卒業制作演習、そして卒業制作へ

4年次は1年間を通し卒業作品を制作します。チュートリアル授業による教員との対話によって、制作の質をさらに高めていき卒業制作に挑みます。また、学内の芸術資料館にて卒業制作演習をおこないます。卒業制作演習では常勤教員による指導の他に、非常勤講師による指導もおこなわれ、創作の視野を広げ制作に展開していきます。専攻の特色でもある少人数制が、この時期の丁寧な指導を可能にし、学生の制作を充実させていきます。



#### 卒業制作展

卒業制作展は学内でおこなわれます。オープニングレセプションの開催など集大成にふさわしい展覧会で、非常に多くの人足を運びます。



#### 古美術研究旅行

3年次に日本の古典美術の基礎的視野を広げる目的で奈良・京都の文化財を現地に赴き学びます。一般には公開されない屏風や仏像など、特別に拝観できます。



#### 油画特別演習 他

美術作家、評論家、キュレーター、学芸員など、多角的な分野から非常勤講師を招聘し、講評やレクチャーなどがおこなわれます。また、写真の基礎知識と基礎実技を学ぶ写真講座や文章の書き方の基礎を学ぶ文章講座など、さまざまな分野の授業を開講し学生の視野と知識を広げていきます。



## 卒業後の進路

### 作家として

画家、版画家、美術家、造形作家、映像作家、写真家、キュレーター、CGクリエイター、デザイナー、漫画家、音楽家など、多岐にわたりさまざまな表現者として活躍しています。

### 進学/留学

現在、いくつかの海外の大学と提携をすすめており、在学中の交換留学などを可能にすべく交流を深めています。

### 卒業後の主な進路、留学先

愛知県立芸術大学大学院美術研究科、東京藝術大学大学院美術研究科、京都市立芸術大学大学院美術研究科、フランス政府給付留学、文化庁芸術家在外研修員、ミュンヘン美術大学、デュッセルドルフ芸術アカデミー、ウィーン国立芸術大学、ニールンベルグ美術大学、ロイヤルカレッジ・オブ・アーツ、チェルシーカレッジ・オブ・アーツアンドデザイン、ゴールドスミスカレッジ・オブ・アーツ、シラバコン大学など

### 就職

大学では、教員免許状や学芸員資格を取得することができ、中・高等学校教員や美術館、博物館への就職を可能にします。また、一般企業を含め、大学教員、版画工房、テレビ局、新聞社、広告代理店、アニメ関連企業、エンターテインメント関連企業、IT関連企業など、大学で学んだ経験を活かし、多様な職種に就いています。

## 活躍する卒業生



### 山本 富章

1975年大学院修士課程修了。圧倒的なスケールと強烈な色彩の絵画作品によって国内外で評価されている。豊田市美術館や碧南市藤井達吉現代美術館での個展など、精力的に制作を続けている。



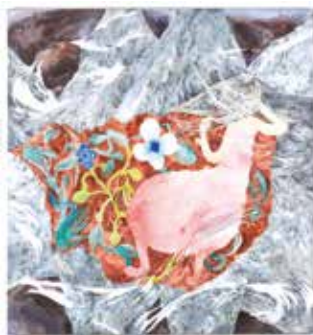
### 奈良 美智

1987年大学院修士課程修了。絵画や彫刻、また絵本やエッセイ集の出版など多様な表現で制作を展開している。日本国内をはじめ世界的に活躍している。



### 小林 孝亘

1986年油画専攻卒業。バンコクの滞在を経て、現在は日本を拠点に制作活動を行っている。横須賀美術館での個展やエッセイ集の刊行など、多方面で活躍している。



### 村瀬 恭子

1989年大学院修士課程修了、デュッセルドルフのアカデミーで学び、ドイツを拠点として制作・作家活動を行っている。近年では豊田市美術館で個展を開催、詩情あふれる作風は国内外で高く評価されている。



撮影:大西正一

### 小林 耕平

1999年美術学部油画専攻卒業。埼玉県を拠点に活動。あいちトリエンナーレや瀬戸内国際芸術祭への参加など、国内外で精力的に発表し続けている。



### 坂本 夏子

2012年大学院博士後期課程修了。学生時代より《Ties》シリーズなどの作品が注目され活躍。図版の作品は卒業制作作品《Tiles, Powder room》で本学芸術資料館収蔵に収蔵されている。



### 阿部 大介

2004年大学院修士課程修了。2009年モノ・コトの貌 (INAXギャラリー2/東京) 2016年皮膚感覚阿部大介展 (美濃加茂市民ミュージアム/岐阜) など多数。近年では、滞在制作なども行っており、積極的に作品制作を展開している。



### 横山 奈美

2012年大学院修士課程修了。東京を拠点とし作家活動を展開。「日常生活で見つけた消耗品や廃棄されていくものをモチーフに静物画を描いている。」  
2014年手探りのリアリズム (豊田市美術館) 2015年VOCA展2015 (上野の森美術館) 2016年第8回絹谷幸二賞 奨励賞受賞



## 入試

### 求める人物像

- 美術・絵画に強い関心と探究心をもっている人
- 美術・絵画に関する基礎的表現力があり、大学においてさらに表現力を深めようとする人
- 芸術家として自己実現を目指す人

### 入学前に身につけてほしい学習成果

- 基礎的な描写力(デッサン)
- 絵画表現力(油画・水彩画)
- 豊かな創造力と絵画表現を試みる力

### 入学試験の基本的な方針・考え方

受験生が能力を最大限発揮できるよう試験問題、試験時間、制作作品のサイズなどを工夫した入学試験を実施します。

### ■一般入試

- 一次試験では、素描の実技試験の得点と、学科(大学入試センター試験)の合算により可否を判定します。
- 二次試験では、油画または水彩画による実技試験の得点によって、最終合格判定を行います。  
モチーフは年度によって変更します。大学入試センター試験や一次試験の得点は加算されません。

専攻	募集人員	試験内容		
		科目	配点	合計点
油画	25名	1次 素描(6時間)	1000点	実技+センター600点 計1600点
		2次 油画又は水彩画(8時間)	1000点	

## 専攻サイト

<http://oil-paint.aichi-fam-u.ac.jp>

過去の合格作品(一部)と過去の入試モチーフ情報はこちらからご覧ください



 Facebook



 Instagram

aichigeidai\_yuga

# 彫刻専攻

Sculpture

■美術学部 ■美術科 ■彫刻専攻

## 専攻概要

彫刻は、地球を構成する石・木・土・金属といった基本的な物質や、人類が自ら作り出した様々な物質を材料とする触覚的な表現分野です。彫刻は常に人類の歴史と共にあり、石器や土偶などは、そのかわりの長さ、深さを今に伝えます。

一方、我々の生きる21世紀は、効率が優先される時代であり、AIの誕生による変化が象徴するような、人間の在り方そのものが問われる時代です。

しかし、どのような時代であっても、人類がその歴史と共に培ってきた触覚的な造形世界が失われることは無いと我々は確信しています。

彫刻専攻は、そうした“人間の原点に根ざしたものづくり”に必要な基礎的造形力と新しい表現を生み出す力＝創造力を育みます。

## カリキュラム

愛知県立芸術大学は、愛知県長久手市の緑豊かな森の中にあります。校舎の設計者は、モダニズム建築で有名な建築家吉村順三で、学生達は、緩やかに起伏する丘陵を取り込んだ美しいキャンパスで、伸び伸びと学生生活を送っています。彫刻専攻は、1学年10人、学部・大学院合わせて60人程度という少人数制です。専任教員6名および多数の非常勤講師による指導で、将来のアーティスト、研究者、芸術教育等の専門家を養成します。

## 教員

金井直	KANAI, Tadashi	客員教授	西洋美術史、近現代美術史
土屋公雄	TSUCHIYA, Kimio	教授	環境芸術
神田每実	KANDA, Tsunemi	教授	複合表現
中谷聡	NAKAYA, Satoshi	教授	彫刻(木彫・石彫)
竹内孝和	TAKEUCHI, Takakazu	准教授	立体表現
森北伸	MORIKITA, Shin	准教授	彫刻・絵画
村尾里奈	MURAO, Rina	准教授	空間表現

## 非常勤講師

23名

## 近年のゲスト講師

青野和子(原美術館 学芸員)	中瀬康志(金沢美術工芸大学 教授)
岩崎貴宏(アーティスト)	西川勝人(彫刻家)
大巻伸嗣(東京藝術大学 教授)	西野達(アーティスト)
岡部あおみ(評論家)	西村公泉(彫刻家・仏師)
北川フラム(アートディレクター)	西村陽平(彫刻家)
栗本百合子(アーティスト)	深井隆(東京藝術大学 客員教授)
黒河内卓郎(彫刻の森美術館 学芸員)	舟越桂(彫刻家)
児島やよい(十和田市現代美術館 副館長)	増山裕之(アーティスト)
小山登美夫(ギャラリスト)	松井紫郎(京都市立芸術大学 教授)
塩田千春(アーティスト)	森淳一(東京藝術大学 准教授)
清水敏男(評論家)	森千花(東京都現代美術館 学芸員)
鈴木典生(彫刻家)	Bernd Halbherr(アーティスト)
棚田康司(彫刻家)	Gim Hongsok(アーティスト)
戸谷成雄(彫刻家)	鷲田めるろ(キュレーター)



# 美術学部専門教育科目

## 専攻科目

### 1年次

#### 彫刻実技I

**塑造I:** 2分の1等身の塑像を造ることを通し、観察することの重要性を学びます。完成後には石膏取り技法を習得します。

**金属:** 金属加工に必要な機械や道具の扱い方を学び、自由制作を通して彫刻の基本的な概念および技術を学びます。

**木彫:** 木彫に必要とされる基本的な道具の扱い及びカービング技術について学びます。

**樹脂:** モデリングにより制作された原型を用いて、成型から塗装にいたる一連の行程を体験しながら、合成樹脂を用いる技法・技術に触れます。



塑造I



金属



木彫



樹脂

**木工実習**  
様々な機械や道具の扱い方を習得し木工の基本技術を学びます。



### 2年次

#### 彫刻実技II

**塑造II:** 各自のテーマに基づき、等身大の人体塑造による表現方法の研究を行います。

**石彫:** 石彫の実技を通して、石彫造形について考えるとともに、石彫に関わる基礎技術を学びます。

**造形:** 「不連続なイメージによる1日1作品」では自分あるいは自分の表現と出会うための実験として、数週間連続して毎日1点作品を制作します。

**テラコッタ:** 各自のテーマに基づいた制作を通して、テラコッタの基本的な技法を学び、土による表現の可能性を探ります。



塑造II



造形



石彫



テラコッタ

**材料研究**  
日本古来から伝わる漆を使った乾漆彫刻の素材と技術を学びます。



### 3年次

#### 彫刻実技III

**彫刻ゼミI・II:** 学生は6人の教員の中から各自の方向性に沿ったゼミを選択し、半期(約4か月)に、教員と密に対話しながら制作を行います。そのことを通し個々の可能性を探り、表現力や造形力を磨きます。大学の特色でもある少人数制の教育がこのことを可能にしています。

**他専攻科目:** 版画の授業を履修し、様々な表現方法を身につけます。版の特性を理解し、版画制作の基礎を習得します。



彫刻ゼミI



彫刻ゼミII



版画研究

**古美術研究**  
講義及び見学を通して、鎌倉期までの日本の立体造形について学びます。



### 4年次

#### 彫刻実技IV

**創作I:** 個人面談や講評会を重ね、卒業制作に向けて各自の方向性を定めます。

**創作II:** これまで研究してきた各自のテーマに基づき、集大成となる卒業制作に集中し完成度を高めます。作品制作と共に研究報告書を作成し、テーマやコンセプトをより明確にします。卒業制作提出後には口頭試問を課し、作品と共に口頭発表を行います。

**卒業制作:** 本学内で開催され、毎年多くの人が訪れます。学外から美術館学芸員や評論家を招き公開講評会を行います。学内の内部的な視点だけでなく客観的な見地から作品講評をしていただきます。



創作I・II



卒業制作

## 卒業後の進路

彫刻専攻の学生の多くは、在学中から学内外で様々な作品発表の機会を得て、実践的な作家活動の基本を学んでいます。本学が運営する名古屋市内の「サテライトギャラリー」や学生が自治で企画・運営する学生会館2階のギャラリースペースでの展示をはじめ、愛知県内を主とした自主企画の展覧会、団体展、コンクール等に積極的に出品しています。また卒業生の多くは、本学で学んだことを基に様々な分野で活躍しています。表現者として国内外で作家活動を行う人もいれば、留学する人、教員になる人、保存修復の道へ進む人もいます。彫刻専攻は学生の個性を尊重し、個々が目指す方向性を共に考えます。

### アーティスト

彫刻家、美術家、造形作家、漫画家、音楽家等

### 教員

愛知県立芸術大学、名古屋造形大学、愛知産業大学、埼玉純真短期大学、成安造形大学、福岡教育大学、四日市大学、武蔵野美術大学、玉川大学、鳥取大学、新潟大学、長岡造形大学、金沢美術工芸大学、名古屋学芸大学、福井大学、静岡大学、大垣女子短期大学、常葉大学、富山ガラス造形研究所、愛知県立旭丘高等学校美術科、岐阜県立加納高等学校美術科、東邦高等学校美術科、その他養護学校・中学校・高等学校教員多数

### 就職

東京国立近代美術館、福井市立美術館、愛知県陶磁資料館、愛知仏像研究所、アトリエあい、(株)カリモク、ギャラリー象家、ギャラリー+ (プラス)、きりん工房、(株)ジャスト、日本美術院、前田商事、(株)松坂屋、(株)ミキモト、矢橋林業、石塚ガラス、(株)柏木工、(株)文教スタヂオLandscip、(株)パールマネキン、(株)太陽画廊、(株)日動画廊、(株)富士ファニチア、(株)角川大映スタジオ、(株)タケナカ、(株)スタッフサービス エンジニアリング等

### 進学/留学等

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程、ハノーファー美術大学、ベルリン芸術大学、デュッセルドルフ美術大学、国立ウィーン芸術大学、セントラル・セントマーティンズ校(イギリス)、チェンマイ大学(タイ)、フランス政府給費留学、イタリア政府給費留学、ドイツ(DAAD)政府給費留学、文化庁3年派遣(ペルー)、文化庁1年派遣(スペイン)

## 在学生の声



### 細川和音

美術学部彫刻専攻3年  
2018 まがり追悼展(愛知)  
2018 美術科卒業生作品展sequence10(香川)

大学は自然に囲まれた丘の上であり、私は小鳥のさえずりを聞きながら学校に通っています。クラスは10人と少人数のため先生との距離が近く、細かい指導が受けられます。工房も広く設備が整っているため制作に打ち込めます。私のお気に入りには真っ白な壁のアトリエです。集中して制作に取り組むことができます。このような環境で自らの表現したい形を創造し追及してみませんか。

## 活躍する卒業生



### 宮本宗

2012 大学院 美術研究科 博士前期課程 修了  
2017 「ART FAIR TOKYO 2017」東京国際フォーラム/小林海画廊(東京)  
2017 「ナゴコン芸術祭」(愛知)  
2017 「中川運河掘止芸術村」中川リミコライオン・アートプロジェクト(愛知)

在学中は、外に出てから制作を続けていくという具体的なビジョンがどうしても持てず、可能な限り大学に残ることばかり考えていましたが、今では場所を借りてアトリエを立ち上げ、自分のための作業場を手に入れました。今のモチベーションを維持しているのは、恩師からの檄と、先輩方から学んだ技術や経験から得た自信です。



### 川角大和

美術学部彫刻専攻4年  
2018 home展 学食二階次元

長い坂を登る。古いステレオと石を彫る音、タオル巻いて真っ白になった教授を横目にしばらく歩くとアトリエがある。そこには、いつもと同じ顔ぶれ。作品を作り、くだらない話をする。ニャーと猫が訪ねてきたりして。ウクレレの音と共に教授がふらりと現れてポロッと何かを僕の中に残していく。気がつくくとアトリエは夕日に染まっている。そして僕は長い坂を下る。こんな1日に幸せを感じる。



### 占部史人

2013 大学院 美術研究科 博士後期課程 修了  
2013 シャルジャ・ビエンナーレ11 優秀作品賞受賞(シャルジャ、アラブ首長国連邦)  
2014 赤い米の来た道 James Cohan Gallery(上海)  
2016 蜜の流れる大地 GALLERY SIDE2(東京)  
2018 水と土の芸術祭(新潟)

大学のアトリエは、大きな窓から差し込む青白い自然光が乱反射して、そこでは信じられないほど物が美しく見えた。僕はそこで、どこにいても作品は広い世界に繋がっていて、作品があればどこにでも行けるということを学んだ。今は自分のアトリエで島々に残された神話をモチーフにした作品をつくっている。それはとても大きくて広い世界だ。遠い過去と現代を行き来する。これからずっとと世界中を旅して作品をつくり続けたいと思う。



### 杉山 享平

大学院 美術研究科 博士前期課程 1年  
2018 BLACK TICKET 2018(愛知)  
2018 足助ゴエンナーレ(愛知)

私は学部で学んだことをより深く研究するために大学院へと進学しました。大学院では担当教員の指導のもと各々で研究内容、計画を決め、それに主体的に取り組んで行きます。講義もより細分化され専門的な分野まで学ぶことができます。多様性に富んだこの大学では興味があることに気軽に挑戦することができるので、自分がやりたいことを見つけるのに最適な場所です。



### 下平 知明

2013 大学院 美術研究科 彫刻専攻 修了  
2014 「下平知明展」中京大学CSクエア(愛知)  
2016 第13回大分アジア彫刻展大賞(大分)  
2017 ハラバ・福井現代交流美術展(メキシコ・福井)  
2018 第15回KAJIMA彫刻コンクール金賞受賞(東京)

在学中は日々その時を過ごし、気が付いたら卒業を迎えていたが、その後多くの物事を経験する中で、自分が何を学んだのかがジワジワと認識されてきました。この大学では静かに時間が流れています。緑豊かで外界と隔てられているかの様な環境は、彫刻という塊に朴訥と向き合わせてくれます。それを思い返すことが、今の私の活動を支えてくれているのだと感じられます。



### 辻 将成

大学院 美術研究科 博士前期課程 2年  
2018 個展「LINK - 躍動する身体と交差する街」アートギャラリー織部亭(愛知)  
2018 ギャラリー美の舎学生選抜展 奨励賞(東京)  
2018 京都リサーチパーク一般公募作品展 最優秀賞・個展開催(京都)

学部時代は別の大学でデザインを学び、大学院で愛知芸大に入学しました。最初は戸惑いも多かったですが、現在はブレイクダンス・空間デザイン・アート、自分を形成する物事を理解し、作品を作っています。大学院2年時でイギリスのロンドンへ交換留学もできて、表現・知識・経験も増えました。様々な分野の境界線を超えて、作品表現ができるようになりました。愛知芸大に来て新たな夢に出会えました。



### 浅野 健一

2006 大学院 美術研究科 彫刻専攻 修了  
2010 第十三回岡本太郎現代芸術賞 入選(川崎)  
2013 依代プロジェクト 下鴨神社(京都)  
2016 円空大賞展 岐阜県美術館(岐阜)

在学中はとにかくよく遊んでいました。ゲームをしたり、漫画を読んだり、その頃始めた格闘技にも夢中でした。どうでもいい話をし、真剣に盛り上げられる仲間を持てたことがとても刺激的で幸せでした。そうした中で瞬間的にインスピレーションが浮かんだものです。大笑いして過ごした県芸時代が今でも僕にとって宝物です。



## 入試

### 求める人物像

- 自己管理能力と協調性をあわせ持つ人
- 不得意とする事柄に対してまっすぐ立ち向かう強い意志と、忍耐力、持久力、体力のある人
- 先入観に拘らず、自身の考えに対して絶えず異なった観点からの問いを發し、自身の創作によってその答えを模索しようとする人
- 上記のことを含めた意味で、“美術”が好きな人

### 入学前に身につけてほしい学習成果

- 基礎的な描写力・造形力
- 豊かな想像力

### 入学試験の基本的な方針・考え方

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づき、基礎的な想像力・技術力を判定する試験を行います。

#### ■一般入試

- 大学入試センター試験による学力試験および素描、塑造の実技試験の合算により合否を判定します。

専攻	募集人員	試験内容		
		科目	配点	合計点
彫刻	10名 (自己推薦合格者を含む)	素描(6時間)	600点	実技+センター600点 計1800点
		塑造(7時間)	600点	

#### ■自己推薦特別入試

- 自己アピール資料審査と小論文、面接試験により合否を判定します。

専攻	募集人員	試験内容			
		科目	配点	合計点	
彫刻	若干名	1次	自己アピール資料審査 (書類審査)	1000点	1000点
		2次	小論文	400点	
			面接	600点	1000点

## 専攻サイト

<http://sculpture.aichi-fam-u.ac.jp>  
入試参考作品はこちらからご覧ください



# 芸術学専攻

Art History, Art Theory and Conservation

■美術学部 ■美術科 ■芸術学専攻

## 専攻概要

芸術学専攻では、芸術の理論と実践、作品と歴史を結びつけながら、芸術大学ならではの独創的な研究を目指します。実践の場である実技専攻と隣接する創造的な研究環境の下、個性を尊重した少数精鋭の教育によって、美学、現代アート論、西洋美術史、日本美術史を基幹として芸術の理論と歴史を追求します。そして理論・歴史研究に加え、実技学習で培った感覚を備えた、美術史・美術理論の研究者、学芸員、美術評論家や美術ジャーナリスト、文化財保存に関わる高度な専門家を養成することを目標にします。

教員は、美学（哲学）、現代アート論、西洋美術史、日本美術史の各分野に常勤の専門家を備え、その他文化財学および関連諸分野の非常勤講師を多数招聘しています。

## カリキュラム

1、2年次には美術史・美術理論の基礎（日本美術史、西洋美術史、現代アート論、美学、文化財学の概説）や基礎実技（平面、立体、映像等）を学び、美術研究の土台を培います。他にも学科関連の多様な授業が開講され、各自の関心に応じて自由に受講し、自主的に研究の幅を広げることができます。

1年次から3年次まで行う「芸術学総合研究」では、芸術学全教員による研究ガイダンス、および学生による課題研究の発表を行います。「古美術特別研究」（2・3年次合同）は、奈良・京都の古寺や博物館を訪ね、日本の美術の原点に触れます。3年次からは、各領域の研究授業（原典講読）や特講授業、文化財保存修復研究など、少人数のゼミ形式の授業が中心となり、より専門的な学習を行います。

また3年次では「プロジェクト研究」を課し、特定のテーマに絞った文献研究や学外での調査研究を通じて、卒業研究に向けた研究姿勢と方法論を学びます。他に、「東洋美術史特講」「文化財学特講」「近代彫刻史」「映像表象論」「現代文化特論」等の授業も開講され、各自の関心に応じて研究の幅を広げることができます。4年次には、各自の専門分野を確定し、4年間の研究の集大成として、指導教員のもとで「卒業研究」をまとめます。

## 教員

南 雄介	MINAMI, Yusuke	客員教授	キュレーター (近現代美術)
中 敬夫	NAKA, Yukio	教授	哲学・美学
小西 信之	KONISHI, Nobuyuki	教授	現代アート論
高梨 光正	TAKANASHI, Mitsumasa	准教授	西洋美術史・文化財学
本田 光子	HONDA, Mitsuko	准教授	日本美術史・文化財学

## 非常勤講師

秋庭 史典 (美学特講) / 木曾 浩太 (基礎実技・素描) /  
進藤 久美子 (基礎実技・古典技法) / 杉田 敦 (現代アート論特講) /  
高橋 健一 (西洋美術史特講) / 田島 秀彦 (基礎実技・油彩) /  
筒井 宏樹 (現代アート論特講) / 長久 智子 (日本美術史特講) /  
長屋 菜津子 (文化財学) / 丹生谷 貴志 (現代文化特論) /  
藤田 伸也 (東洋美術史特講) / 藤原 幹大 (日本美術史特講・研究) /  
牧野 隆夫 (文化財学特講) / 松井 裕美 (西洋美術史特講) /  
山崎 隆之 (日本美術史概要) / 横川 耕介 (基礎実技・古典技法) /  
渡辺 英司 (基礎実技・現代アート実習) 他



## 美術学部専門教育科目

専攻科目(基礎教育科目含む)

### 1年次

#### 芸術学総合研究Ⅰ

日本美術史、西洋美術史、美学、現代アート論、文化財学の学び方入門篇(前期)。関心ある芸術家を選び、研究発表を行う。



#### 基礎実技Ⅰ

現代アート(写真)、素描、油彩、日本画、彫塑、古典造形の基礎を学ぶ。



#### 西洋美術史概説

日本美術史概説  
現代アート概説  
美学  
文化財学概説  
美術材料学

### 2年次

#### 芸術学総合研究Ⅱ

関心あるテーマを選び、研究発表を行う。



#### 基礎実技Ⅱ

現代アート(映像)、素描、油彩、日本画、彫塑、古典造形の基礎を学ぶ。



#### 古美術特別研究(隔年・3年次と合同)

非公開寺院や町屋、文化財保存現場を中心に、奈良・京都で実地研究を行う。

日本美術史特講・研究  
西洋美術史特講・研究  
美学特講・研究  
現代アート論特講・研究  
東洋美術史特講  
文化財学特講

文化財保存修復研究  
近代彫刻史  
現代文化特論  
映像表象論  
工芸史  
色彩学

### 3年次

#### 芸術学総合研究Ⅲ

関心あるテーマを選び、研究発表を行う。



#### プロジェクト研究

卒論を視野に入れ、特定のテーマに絞って学外での調査研究や文献研究を行い、研究姿勢と方法論を培う。



### 4年次

#### 卒業研究

専攻分野を確定し、個別指導を受けながら卒業論文にまとめる。  
但し、卒業論文以外に、模写・模刻作品+研究報告も可。



卒業制作展における卒業論文の展示パネル



授業風景

#### 博物館・教職に関する科目

・学芸員資格志望者は必修科目を履修し、各地の美術館・博物館で実習を行う。

#### 教養教育科目

・語学科目(英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語)、哲学、心理学、外国文学、日本文学、社会学、自然科学史、身体運動演習等。

## 卒業後の進路

多くの卒業生が美術館や博物館の学芸員となり、また文化財修復の分野で活躍を始めています。また公務員になったり一般企業に就職する学生もいます。大学院へは本学をはじめ、専門に応じて全国の様々な大学院に進学しています。

### 美術館・博物館等への就職

愛知県公立大学法人／愛知県美術館／岐阜県立美術館／宮内庁三の丸尚蔵館／瀬戸市美術館／多治見市美濃焼ミュージアム／名古屋ボストン美術館／兵庫県立美術館／宮城県立東北歴史博物館／中日新聞社

### 進学先

愛知県立芸術大学大学院博士後期課程／愛知県立芸術大学大学院博士前期課程／大阪大学大学院修士課程／神戸大学大学院修士課程／京都大学大学院修士課程／多摩美術大学大学院修士課程／東京藝術大学大学院修士課程／東京藝術大学大学院博士後期課程／東京大学大学院修士課程／名古屋大学大学院修士課程／奈良大学大学院博士後期課程／奈良大学大学院博士前期課程／お茶の水女子大学大学院博士前期課程

## 活躍する卒業生



### 塩津 青夏

あいちトリエンナーレ実行委員会事務局プロジェクト・マネージャー(学芸担当)  
2008年 本学芸術学専攻卒業  
2010年 名古屋大学大学院文学研究科博士前期課程(美学美術史専門)修了  
同年4月より愛知県美術館学芸員  
2017年4月より現職



### 松岡 未紗

岐阜県美術館学芸員  
2006年 本学芸術学専攻卒業  
2010年 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻修了  
2012年より現職

芸術学専攻を卒業後、東京藝術大学大学院の保存修復油画研究室へ進学。現在は美術館に勤めています。愛知芸大の芸術学専攻は少人数制で、美学・美術史以外に実技実習や文化財学の授業があるのが特徴です。私は油彩画の技法と保存について興味があったので、主研究領域の担当教員だけでなく油画専攻の先生からも指導していただきました。こうした専攻の枠を超えた、それぞれの研究に応じて専門性の高い指導を個別的に受けることができる環境は、学生にさらなる意欲や興味を引き出させていると思います。



芸術学では、美術史や現代アート論、そして美学まで、美術に関する幅広い知識を身につけることができます。自分の関心のある分野については、専門的な文献を読み、先生との1対1の指導のなかで研究を深めています。しかし芸術学の勉強は、なにも部屋にこもって、文献を相手にだけするものではありません。美術館やギャラリーの作品、そして実際に作品を制作している身近な学生とふれあいながら、美術について広く考えていきました。現在私が美術館の学芸員として仕事をするなかで、この芸術学で学んだことが、とても大事なものになっています。また現在は、近年のアートシーンでも重要な役割を担っているトリエンナーレや芸術祭と呼ばれる展覧会の仕事に携わっています。その中では、グローバルな現代アートの実践、あるいは地域に固有の伝統や記憶、そして東西の美術に関する知見と批評的な視座が必要になっています。望ましい社会とアートのあり方について考察し、新しい価値観を生み出していくために必要となる専門的な技術や知識を培う場所が、ますます求められているように感じます。



### 河田亜也子

兵庫県立美術館学芸員  
2007年 本学芸術学専攻卒業  
2009年 本学大学院美術研究科博士前期課程修了(芸術学領域)  
2009年 東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論研究室博士後期課程入学  
2013年より現職

愛知芸大の芸術学専攻は、学生の人数が少ないので先生の指導をとても丁寧に受けることができます。また、すぐ近くに実技を専攻する学生が大勢いて、授業以外でも自主的な展覧会企画などで共に活動できるのも魅力です。

私自身は愛知芸大在学中に現代美術の魅力に出会い、また自ら展覧会の企画に関わる内にキュレーター(展覧会の企画をする人)の仕事、展覧会の方法論に興味を持って研究するようになりました。修了後は東京大学大学院で学び、現在は両大学で学んだことを活かして美術館で近現代美術の展覧会企画・運営の仕事をしています。



### 大久保 春野

東北歴史博物館学芸員  
2009年 本学芸術学専攻卒業  
2011年 本学大学院美術研究科博士前期課程修了(芸術学領域)  
同年4月より現職

「人と美術の出会いを手助けする仕事がしたい」という思いから入学し、大学・大学院では特に日本美術史の「雨景表現」という未開拓の研究テーマを設定してそれを中心に美術の知識を深めてきました。特殊なテーマにも、先生方は興味を尊重し少人数学習による親身な指導で研究の道筋を示してくださいます。ともすれば興味が偏ってしまいそうですが、一方で様々な分野で芸術と向き合う学生さんたちとの交流からは常に新たな経験や視点を得、多角的に美術を見つめることができます。深く知ること、広く見ることを通して学んだ美術の魅力を保ち、今後は学芸員として自身の夢を実現していきたいと思っています。



### 成田(杉原) 朱美

東京文化財研究所 文化遺産国際協力センター客員研究員、本学非常勤講師  
2006年 本学芸術学専攻卒業  
2012年 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復油画研究室博士後期課程修了  
その後、東京藝術大学大学院専門研究員、東京文化財研究所文化遺産国際協力センター客員研究員を経て現職

愛知芸大を希望したのは文化財の保存修復に携わりたかったからです。芸術学では座学を中心に修復倫理など基礎を学びました。卒業後、東京藝術大学大学院に進み、修復実習、研究の進め方を学びました。修了後東京文化財研究所で海外の壁画の保存修復に携わりました。また、JICAが行う大エジプト博物館付属の保存修復センターの人材育成に関わることができ、博士論文の技法研究を活かし、彩色専門家として研修を行っています。現在は県芸に戻り、テンペラを教えたたり、修復作品の撮影・調査を教えています。このように、学び経験したことが、今の私を形作っているといえます。



## 入試

### 求める人物像

- 美術作品の鑑賞や研究、展覧会の企画などに強い関心のある人
- 美術史、現代アート論、美学、文化財学等に関心の高い人
- 柔軟な感性と論理的な思考力を持ち、語学力にも優れている人

### 入学前に身につけてほしい学習成果

- 歴史に関する基礎的な知識
- 英語に関する基礎的な語学力
- 基礎的な論述能力
- 美術作品についての基礎的な観察力、鑑賞眼

### 入学試験の基本的な方針・考え方

受験生の学力や感性、適性や意欲が十分に評価できるような入学試験を実施します。

#### ■一般入試

- 一次試験では、大学入試センター試験による学力試験の結果に加え、英語、地理歴史(日本史B、世界史Bのうち1科目選択)の試験を行い、合否を判定します。
- 二次試験では、一次試験の結果に加え、小論文、素描、面接の試験を行い、最終合格判定を行います。

専攻	募集人員	試験内容			
		科目	配点	合計点	
芸術学	5名	1次	英語(90分)	300点	英語+地理歴史+センター600点 計1200点
			地理歴史(90分)	300点	
		2次	小論文(90分)	200点	小論文+素描+面接+センター+1次試験 計1700点
			素描(鉛筆)(3時間)	200点	
	面接	100点			

一次試験は、英語と地歴の筆記試験です。英語では主として長文和訳問題、地歴(日本史または世界史)では論述・記述問題が出題されます。

二次試験では、素描、小論文、面接を行います。実技の素描は、基礎的な観察力や、実技を行う適性を見ます。小論文は、一つのテーマについて論理的に論じる力、文章構成力などを見ます。普段から芸術論や美術に関連する本を読んで、思考力を鍛え、美術館に行つて本物の作品をよく観察して感想を書くなどしておくといよいでしょう。面接では、きちんと受け答えができるかといった基本的なことを確認し、また芸術・美術を学ぶ意欲等を見ます。

### 専攻サイト

<http://art-h-t-c.aichi-fam-u.ac.jp>



# デザイン専攻

Design

■美術学部 ■デザイン・工芸科

■デザイン専攻

## 専攻概要

デザインは人の生活を創造性豊かに導き、快適で美しく、心地よいモノ、場、空間、情報等を、時代をふまえて社会へ提案する研究領域です。この専攻においては、視覚伝達デザイン、プロダクトデザイン、環境デザイン、メディアデザインの4つのデザイン領域を縦系に、デザイン方法論や理論を横系として、人々の多様な生活様相や先進的技術に対応できるデザイン概念の構築とそれを具現化する技術の修練としての実技を軸としたカリキュラムを構成しています。また、幅広い総合力のある人材育成を目的としてデザインの基礎教育の充実とともに、実技課題だけでなく、多様な専門領域の知識や技術の習得のために社会で活躍する各分野の専門家による講義や現場見学、調査等を行っています。特に近年では工業化社会から情報化社会そして循環型社会へと移行するなかでデザインの重要性が高まっていることから、新しい文化の創造性に貢献する方法や手法を審美的視点からさまざまなデザイン領域で研究活動を行っています。

## カリキュラム

### 基礎からじっくり学べる共通基礎

現在のデザインの世界は幅が広がり、また高度化しています。そんな時代だからこそ、どんなデザインの世界にも共通する基礎的な力を身につけることが大切になっています。1年生から2年生前期までは専門のデザイン領域に分かれず共通の課題に取り組み、どのようなデザイン領域にも対応できる基礎的な造形力や表現力を身につけます。

### やりたいとができる課題選択制

現在のデザインの現場は多様なデザイン分野が絡み合って成り立っているため、デザイナーにはトータルな視点が求められます。デザイン専攻の2年後期からのカリキュラムは、多様なデザイン領域の課題から自由に課題を選択することができますので、幅広い視点と自身の志向にあった能力を獲得することができます。また、複数のデザイン領域にまたがる課題があり、よりトータルな視点とスキルを身につけることができます。

## 教員

加藤 芳夫	KATO, Yoshio	客員教授	商品化デザイン
中島 聡	NAKASHIMA, Satoshi	教授	プロダクトデザイン
関口 敦仁	SEKIGUCHI, Atsuhito	教授	デザイン理論
水津 功	SUIZU, Isao	教授	環境デザイン
柴崎 幸次	SHIBAZAKI, Koji	教授	メディアデザイン
石井 晴雄	ISHII, Haruo	教授	メディアデザイン
今尾 泰三	IMAO, Taizo	准教授	視覚伝達デザイン
森 真弓	MORI, Mayumi	准教授	メディアデザイン
夏目 知道	NATSUME, Tomomichi	准教授	環境デザイン
佐藤 直樹	SATO, Naoki	准教授	視覚伝達デザイン
本田 敬	HONDA, Takashi	准教授	プロダクトデザイン
春田 登紀雄	HARUTA, Tokio	准教授	視覚伝達デザイン

### 非常勤講師

約120名



美術学部専門教育科目

専攻科目

1年次

デザイン実技I

色彩、立体、空間、時間の構成、工房実習など、様々なデザインの基礎を学びます。

前期課題：工房実習I、観察と描写、色彩と構成、構造と形、時間と表現



後期課題：ダンボール玩具、食に関わる課題、立体造形の研究、コピーライティング、セルフポートレート、インフォグラフィックス、リサーチ・デザインシンカー



2年次

デザイン実技II

前期では4つのデザイン領域の課題に順次取り組み、自分の個性を磨き、志向性を見極めます。

前期課題：メディアデザイン概論「無形のデザイン」、視覚伝達デザイン概論「イラストレーション」、プロダクトデザイン概論「風のかたちを探る」、環境デザイン概論「バンブーハウス」、総合課題知多半島共同研究提案



後期課題：セルフプロモーション、ストーリーをつくる、家具と空間  
GPコラボレーション「時の大切さの提案」  
MEコラボレーション「空間を拡張する仕掛け」  
GEコラボレーション「ショップデザイン」  
MPコラボレーション「地域を活かすグッズとプロモーション」



2年後期コラボレーション課題

3年次

デザイン実技III

専門領域の課題を選択して、専門的な知識と技術を習得します。

視覚伝達デザイン領域

ポスター、広告、編集、タイポグラフィ、パッケージ、イラストレーション等のグラフィック表現を幅広く扱う専門領域です。  
課題：ことばで伝える-フォントデザイン、メッセージを伝える-ポスターのデザイン、情報を組み立てる-編集のデザイン、人を動かす-広告のデザイン、人に届ける-パッケージのデザイン、自分を演出する-100のかたち、視覚伝達研究-1、2自主研究



プロダクトデザイン領域

日常生活で使用される製品や機器などのデザインを、心地良さ・安心・持続性等を目指して提案する専門領域です。  
課題：オブザベーション[観察]からのデザイン、対象を見つめる-食にまつわる道具の提案、エコロジーとデザイン、セラミックのデザイン、「暮らす」を支えるもの、公共のデザイン-海外提案課題、プロダクト研究-1、2自主研究、卒業制作



環境デザイン領域

使いよい椅子、お気に入りの公園、素敵なお家並み、気持ちのよい道や橋などの周囲環境を提案する専門領域です。  
課題：イメージ・スペース・デザイン、住宅設計-住まい方のデザイン、人と自然をつなぐデザイン、公園のデザイン、ライティングデザイン、アルゴリズム・ライティング、環境研究-1自主研究、2地域計画



メディアデザイン領域

webや映像、アニメーション、CM、雑誌の編集など様々な情報伝達媒体に取り組む専門領域です。  
課題：展示を企画する-表現とコミュニケーション、映像をデザインする、Webをデザインする-CMSとGUI、紙をつくる-デザインする-メディアとしての紙、クロスメディアデザイン、フリーペーパーを企画する、媒体研究-卒業制作



4年次

デザイン実技4

これまでに習得した専門的な知識と技術を元に、自身のオリジナルな制作を行います。

卒業制作



関連科目・デザイン関連教養教育科目

デザインコンピュータ基礎

デザイン・工芸論A,B

デザイン史

デザイン文化史特講

デザイン特講A,B

写真ゼミ・グラフィックゼミ・立体空間ゼミ・webデザイン基礎(選択)

## 卒業後の進路

卒業生はメーカーやデザインプロダクション、CM制作、番組制作、広告代理店、広告制作会社、ゲーム、アニメーション、映画、webデザイン、グラフィックデザイン、編集デザイン、パッケージデザイン、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、カーデザイン、造園デザイン、イラストレーション、タイプデザイン、画家、公務員、造形作家、漫画家、フリーランスデザイナーなどの多様な分野や職種で活躍しています。また博士課程などへの進学の道もあります。

### 主な就職先

キャノン、コクヨ、サントリー、サンリオ、GKデザイン機構、資生堂、シャープ、スズキ、セイコーエプソン、ソニー、竹中工務店、電通、東芝、凸版印刷、TOTO、トヨタ自動車、日建設計、日産自動車、ヤマハ、博報堂、ポーラ、本田技研、マツダ、パナソニック、三菱電機、カヤック、クリークアンドリバー、大広、マッドハウス、サンライズ、たぎ工房、新東通信、アオイプロ、電通テック、TYO、HAT、スプーン、ビジネスアーキテクト、バイクデザイン、コナミ、フロムソフトウェア、デュアルソリューション、テレビ朝日クリエイション、メナード化粧品、リクルート、ワコール、文藝春秋社、NHK、ヤマギワ、アクシス、タカラ、マキタ、フレーベル館、郵政省、アルペン、大日本印刷、シマノ、生活の友社、ブラザー、リンナイ、パロマ、TBS、リクシル等多数

### 進学

愛知県立芸術大学大学院博士前期課程(修士) / 大学院博士後期課程(博士)

### 就職支援体制

就職オリエンテーション、企業セミナー、会社説明会、企業研修、企業訪問など、多様な就職支援体制をとっており、就職活動をサポートしています。

## 活躍する卒業生

### 加藤 芳夫

クリエイティブディレクター。1979年デザイン専攻卒業。サントリーデザイン部長を経て、現在食品事業部ブランド戦略部シニアスペシャリスト/クリエイティブディレクター。「ボス」「なっちゃん」「DAKARA」「C.C.レモン」などの飲料パッケージデザイン。



### 秋田 道夫

プロダクトデザイナー。1977年デザイン専攻卒業。ケンウッド・ソニーを経て1988年に独立。1977年度毎日ID賞特選一席、IFデザイン賞、グッドデザイン賞、JIDAデザインミュージアムコレクション選定、2011年第9回国際陶磁器コンペ美濃陶磁器デザイン部門銀賞。



### 鈴木 功

タイプディレクター。1991年デザイン専攻卒業。アドビを経て、タイププロジェクト(株)を設立。AXISフォント、TP明朝、ドライバーズフォント、都市フォント。

AXISラウンド50 Regular  
AXISラウンド50 Medium  
AXISラウンド50 Heavy  
AXISラウンド100 Regular  
AXISラウンド100 Medium  
AXISラウンド100 Heavy

### 小島 幸子

ディレクター。1980年デザイン専攻卒業。ELGC株式会社、エスティローダーカンパニイズ、コーポレートパッケージ&デザインイノベーションアジアパシフィック担当ディレクター。



### 梶田 渉

クリエイティブディレクター。1980卒業。サントリー宣伝部制作室、資生堂宣伝制作部を経て、名古屋学芸大学デザイン学科教授。NYフェスティバル金賞、カンヌ国際広告祭銅賞、クリオ銅賞、グッドデザイン賞等受賞。



### 杉浦 良

カーデザイナー。1999年デザイン専攻卒業。株式会社本田技術研究所入社。S660のエクステリアデザインのプロジェクトリーダーを務め、日本自動車殿堂カーデザインオブサイヤー、JIDAデザインミュージアムゴールドセレクション賞を受賞。



### 新海 岳人

映像ディレクター・脚本家。ショートアニメーションを主とした映像ディレクター・脚本家として、TVアニメ、TV番組、TVCM、PV等で活躍中。代表作に「かよえ!チュー学」「ぐらP&ろで夫」「あはれ!名作くん」等。



### 宮崎知恵

イラストレーター。2010年デザイン専攻卒業。2004年から姉と二人でSTOMACHACHEのユニット名で活動。stomachache.jp



### 大畑 蘭

イラストレーター・グラフィックデザイナー。2006年愛知県立芸術大学に自己推薦で入学。高校時代にデザイン業での地域貢献を目標に掲げる。映像制作勤務を経て地元である島根県大田市にUターン。デザイン事務所Ropeを開業。第41回島根広告賞パンフレット部門金賞受賞。



### 橋本 夕紀夫

インテリアデザイナー。1986年デザイン専攻卒業。スーパーポテト入社、1996年橋本夕紀夫デザインスタジオ設立。2002年第9回空間デザインコンペティション銀賞受賞始め受賞歴多数。主な作品:1996年軍鶏匠、1999年cafe鈴木、2000年 過門香。



### 稲生 淳子

インテリアデザイナー。1996年デザイン専攻入学、1999年渡伊。2001年Istituto Europeo di Design Milano 卒業後、同年TEAM IWAKIRI s.r.l.入社。2006年より帰国し、マセラティ・ディーラー開発のCIAーキテクトとしてインテリアデザインを担当。





## 入試

### 求める人物像

- 日々の暮らしの様々なことに興味と好奇心がある人
- モノ作りや表現に強い関心があり、工夫が好きな人
- 問題を発見し、解決する思考力と行動力がある人
- 様々なものを受け入れる柔軟性がある人

### 入学前に身につけてほしい学習成果

- 基礎的な描写力
- 基礎的な色彩と立体の構成力

### 入学試験の基本的な方針・考え方

受験生が能力を最大限発揮できるように、受験生の特性を活かした様々な入試を実施します。また受験しやすい環境を整え、受験生の将来への可能性を高めます。

#### ■一般入試

- 大学入試センター試験による学力試験および描写、色彩構成、立体構成の実技試験の合算により合否を判定します。

専攻	募集人員	試験内容		
		科目	配点	合計点
デザイン	25名 (社会人入試合格者を含む)	描写(5時間)	400点	実技+ センター600点 計1600点
		色彩構成(4時間)	300点	
		立体構成(4時間)	300点	

#### ■自己推薦特別入試

- ファイル審査(活動や作品解説を含む自己アピール)と面接試験により、合否を判定します。※実技試験、学力試験は行いません。

専攻	募集人員		試験内容		
			科目	配点	合計点
デザイン	10名	1次	自己アピール資料審査 (書類審査)	1000点	1000点
		2次	面接(作品審査を含む)	1000点	1000点

#### ■社会人特別入試

- ファイル審査(活動や作品解説を含む自己アピール)と面接試験、小論文により、合否を判定します。※実技試験、学力試験は行いません。

専攻	募集人員		試験内容		
			科目	配点	合計点
デザイン	若干名	1次	自己推薦資料	1000点	1000点
		2次	小論文	300点	1000点
			面接	700点	

## 専攻サイト

<http://design.aichi-fam-u.ac.jp>  
合格者作品はこちらからご覧ください



# 陶磁専攻

Ceramics

■美術学部 ■デザイン・工芸科  
■陶磁専攻

## 専攻概要

陶磁器は、人々が日常必ず手にする身近な工芸でありデザインです。本学陶磁専攻は、永い伝統と多様な技術力を有する瀬戸・常滑・美濃などの産地を背景とし、創作を展開できる恵まれた環境にあります。立地条件の利と充実した教育設備を生かし、人の暮らしを見据えた陶磁の在り方を模索し、その創造に積極的に関与する人材の育成を目標としています。「用の美」を教育理念とし、暮らしの中の陶磁、建築陶磁など分野を超えて陶磁素材の可能性と表現の自由を探求すべく、陶磁の基本を積み上げながら学生個々の能力を研鑽し、次代をになう人材の教育に全力をあげて取り組んでいます。

## カリキュラム

### 「陶芸コース」と「セラミックデザインコース」

3年次から「陶芸コース」と「セラミックデザインコース」に分かれて制作を行います。

#### ■陶芸コース

湯呑から大皿、大壺までのロクロ成形と鉄絵、染付、色絵などの絵付けを習得します。

土や釉薬の研究では、藁を焼いて釉薬を作り、薪窯を焚いたり、作陶における基本を大切に学びます。

#### ■セラミックデザインコース

日本最大の陶産地に位置する陶磁教育機関として、セラミック産業に貢献するデザイナーの育成を目指します。学生は、デザイン基礎、造形、陶磁技法などの基礎課題を学びながら、個々の創造性を啓発し、今日の生活空間における陶磁器の新たな可能性を考えます。

## 教員

経験豊かな6名の常勤教員が、カリキュラムの組み立てや実技の指導にあたっています。

また、広く社会で活躍する陶芸家・デザイナーや陶磁分野をはじめとする専門家・研究者の先生方約72名が講義を行います。講義を通じて専門的な知識や技術の修得と幅広い教養を養います。

外館 和子	TODATE, Kazuko	客員教授	美術評論家
友岡 秀秋	TOMOOKA, Hideaki	教授	プロダクトデザイン
梅本 孝征	UMEMOTO, Takayuki	教授	陶磁制作研究
長井 千春	NAGAI, Chiharu	教授	陶磁器デザイン
小枝 真人	SAEDA, Makoto	准教授	陶磁制作研究
田上 知之介	TAGAMI, Tomonosuke	准教授	陶磁器デザイン
佐藤 文子	SATO, Fumiko	准教授	陶磁制作研究

## 非常勤講師

井澤 元繁／伊藤 毅／井戸川 豊／今泉 今右衛門／植田 哲哉／榎本 徹／大谷 昌弘／大野 千佳／大橋 康二／岡崎 達也／小川 国亜起／小椋 範彦／落合 勉／唐澤 昌宏／木村 利壽／吉良 文男／工藤 省治／久野 利博／栗原 慶／黒河 兼吉／小林 繁樹／栄木 正敏／阪本 やすき／孫 孝遠／高北 幸矢／竹村 友里／津坂 和秀／出川 哲朗／外館 和子／中島 晴美／中澤 富士雄／西口 勝男／新田 つぎ／野田 耕一／長谷川 善一／服部 文孝／花里 麻理／藤澤 良祐／望月 集／安田 尚史／宮脇 伸歩／弓場 紀知／渡辺 国夫／他28名



## 美術学部専門教育科目

### 専攻科目

#### 1年次

##### 陶磁実技Ⅰ

ロクロ成形の基礎：ロクロ成形の基本を学ぶ。

つくる(自然をつくる)：身近な自然をモチーフに、粘土で立体作品を制作する。自然から得る面白さや感動を大切に作る。

器の調査：身近にある、普段使っている器を調査し、研究することで器に対する意識を再構築する。

筆を使って描く：陶磁器の絵付けに欠かせない筆の扱い方の基本を学ぶ。

石膏技法の基礎：石膏型による陶磁器制作のための、石膏及び石膏ロクロ技法を基礎から学ぶ。

屋外スケッチ：植物などのスケッチを通じて、個々の感性を磨き、陶磁器の絵付けや装飾文様を独自に創る基礎を習得する。

湯のみ・飯碗：ロクロ成形技法の基本として、湯呑みと飯碗を制作し、陶芸に必要な基本を学ぶ。

首(テラコッタ)：首の塑造から、石膏型によるテラコッタ制作をする。造形力の基礎を身につけ、型による張り込み技法を学ぶ。

テクスチャの採集と表現：レリーフを成形する。

#### 2年次

##### 陶磁実技Ⅱ

ユニットによる造形：ユニットの制作を通じて、泥しよう鑄込み技法を習得する。

筆による描写：筆と墨を使い、陶芸の絵付け技法の基礎となる筆の扱い方を習得する。

組鉢：ロクロ成形により、鉢を揃えて制作する。器のもつ機能や目的を研究し、ロクロ成形技法と鉄絵による絵付け技法の基本を習得する。

加飾とデザイン：ロウ抜き、型紙、象嵌、紙染めなど、様々な加飾技法を学ぶ。

磁器に染付：ロクロ成形による磁器の制作(皿・鉢)と染付けと色絵による絵付け技法の基本を学ぶ。

トルソー：トルソーの塑像制作から、立体造形力の基礎を磨く。

#### 3年次

##### 陶磁実技Ⅲ [陶芸]

器(形体と装飾)  
大皿(絵付け技法)  
壺(絵付け技法研究)  
花器(天然原料と薪窯焼成技法の研究)  
(装飾技法)

注器  
合同講評

##### 陶磁実技Ⅲ [セラミックデザイン]

30ヶ造形・注器(押し型成形)  
タイル(圧力成形)  
シルクスクリーン(転写)実習  
ポット(泥しよう鑄込み)  
デザイン基礎3(産学連携課題他)  
合同講評

##### 学外研究

陶磁特別実技Ⅰ

#### 4年次

##### 陶磁実技Ⅳ [陶芸]

成形実技  
形体による成形技法の研究  
器の研究(午前)  
自由研究(午後)

##### 陶磁実技Ⅳ [セラミックデザイン]

デザイン基礎4

##### 学外研究

陶磁特別実技Ⅱ  
卒業制作(各自のテーマによって制作する。)

## 授業・制作環境



ろくろ成形による壺や大皿の制作



鉢山見学-原料を体感する



上絵の具の色彩実験



石膏ろくろ成形



花器の制作



大皿の絵付け



鑄込み成形



窯出し



薪窯焼成



ろくろ場  
ろくろは、1年次から1人に1台あります。湯呑みから大皿や大壺までのろくろ成形を習得します。



窯場  
ガス窯9基、電気窯8基、薪窯2基があります。2週間に一度程度の日程で作品をやきます。



石膏原型成形室  
石膏ろくろは、16台あります。各自がコンセプト立案して、そのアイデアをかたちにします。

## 卒業後の進路

卒業後は、陶磁器デザイナーとして就職したり、陶芸家として各地で精力的な発表活動をしています。また博士課程などへの進学や留学の道があります。

### 教員

愛知県立芸術大学、大阪芸術大学、京都精華大学、佐賀県立有田窯業大学校、上越教育大学、多治見市陶磁器意匠研究所、名古屋学芸大学、明星大学、青江文化産業大学(韓国)、開慶大学(韓国)、国立ソウル産業大学(韓国)、明知大学(韓国)、愛知県立岩倉総合高等学校、愛知県立瀬戸窯業高等学校、愛知県立瀬戸窯業高等学校専攻科、京都市立銅駝美術工芸高等学校、その他中学校教員、高校教員、特別支援学校教員など多数

### 就職等

愛知県陶磁美術館、産業技術総合研究所、岐阜県セラミックス研究所、瀬戸染付工芸館、瀬戸市新世紀工芸館、土岐市陶磁器試験場・セラテクノ土岐、株式会社會田雄亮研究所忍野窯、株式会社青山窯、アクティブG匠工房、イケア・ジャパン株式会社、市原製陶株式会社、株式会社大倉陶園、小田陶器株式会社、花王株式会社、型宮産業有限会社、有限会社コダマカンパニー、昭和製陶株式会社、スタジオM、株式会社セラミックジャパン、株式会社たち吉、株式会社大恵、株式会社鶴弥、有限会社東邦製陶所、鳴海製陶株式会社、ニッコー株式会社、株式会社ノリタケカンパニーリミテド、株式会社丸幸中島、株式会社ミヤオカンパニーリミテド、メイドインジャパンプロジェクト株式会社、一般財団法人柳工業デザイン研究会、株式会社山加商店、株式会社MARUWA、株式会社良品計画など、その他陶芸家、デザイナー多数

### 進学/留学等

愛知県立芸術大学大学院博士後期課程、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程、東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程、中部工業大学博士課程、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程芸術専攻、金沢卯辰山工芸工房、Burg Giebichenstein Kunsthochschule Halle (ドイツ)、Royal College of Art (イギリス) など

## 活躍する卒業生



金峻永

MYONGJI COLLEGE大学 講師  
国際陶磁器フェスティバル美濃'14陶磁器デザイン部門 銀賞  
韓国・日本などの個展、公募展で発表を行っている。



熊澤文太

2012年度 愛知県立芸術大学 美術研究科 博士前期課程 陶磁領域 修了  
名古屋を中心にグループ展や公募展などで発表を行っている。



黒河兼吉

KENKICHI CERAMICS 代表  
大阪芸術大学芸術学部工芸学科 准教授  
愛知県立芸術大学 非常勤講師



兪期天

2014年度 愛知県立芸術大学 美術研究科 博士後期課程 美術専攻 修了  
上越教育大学 助教



明石朋実

愛知県立芸術大学教育研究指導員  
第70回新匠工芸会展 伊砂利彦賞 受賞  
第10回現代茶陶展 入選 等



岡崎達也

ttyokzk ceramic design 代表  
愛知県立芸術大学 非常勤講師  
名古屋芸術大学 非常勤講師



屋我優人

瀬戸市新世紀工芸館陶芸スタッフ  
第49回東海伝統工芸展 中日賞 受賞  
第6回菊池ビエンナーレ 入選 等



イ・キョンミン

Burg Giebichenstein Kunsthochschule Halle (ドイツ) 留学中  
sterwaldpreis 2014(ドイツ) 受賞  
ヴェスターヴァルド陶芸賞 デザイン部門賞



竹村友里

愛知県立芸術大学 非常勤講師  
第8回/パミタ陶芸大賞展/ミネート



富田亮

愛知県立芸術大学教育研究指導員



榊原扶美

2012年度大学院オペラ舞台美術制作と瀬戸内国際芸術祭2010における「MEGI HOUSE - 陶器によるエントランスデザイン」制作に携わる。名古屋を中心に個展などで発表を行っている。



小形こず恵

東京、名古屋を中心に個展・グループ展や公募展で発表を行っている。



制作過程でのディスカッション



組録の講評会



装飾表現の講義



産学連携課題でのプレゼンテーション



作品研究会



合同講評会

## 入試

### 求める人物像

- 暮らしに関わる工芸やデザインに関心があり、想像力豊かな人
- 陶磁分野の可能性を探求し、創作意欲のある人

### 入学前に身につけてほしい学習成果

- 基礎的な描写力
- 基礎的な色彩による表現力

### 入学試験の基本的な方針・考え方

受験生が意欲を持って受験しやすい環境を整えるとともに、基礎的な観察力と表現力を問う入学試験を実施します。

#### ■一般入試

- 大学入試センター試験による学力試験および描写、色彩表現の実技試験の合算により合否を判定します。

専攻	募集人員	試験内容		
		科目	配点	合計点
陶磁	10名	描写(6時間)	600点	実技+センター600点 計1800点
		色彩表現(6時間)	600点	

### 描写

問われるのは基礎的な観察力と描写力です。特にモチーフの形を正確に捉える力、質感表現、画面構成力をしっかり身に付けてください。試験時間は6時間です。

### 色彩表現

色彩表現ではモチーフとテーマが与えられ、それらを活かした構成力と色彩感覚が問われます。モチーフをよく観察し、その特徴を明解に美しく表現できるかがポイントになります。試験時間は6時間です。

### センター試験

センター試験の配点も合否に大きく影響します。実技取り組みの重要性はもちろんですが、学科の勉強もしっかり取り組んでください。

## 専攻サイト

<http://ceramics.aichi-fam-u.ac.jp>



# 音楽学部

Faculty of Music

## 音楽科 Department of Music

作曲専攻 作曲コース Composition (Composition)

作曲専攻 音楽学コース Composition (Musicology)

声楽専攻 Voice

器楽専攻 ピアノコース Instrumental Music (Piano)

器楽専攻 弦楽器コース Instrumental Music (Strings)

器楽専攻 管打楽器コース Instrumental Music (Winds and Percussion)





#### **ディプロマ・ポリシー**（卒業認定・学位授与の方針）

音楽学部では国際的視野に立った芸術・研究活動の展開を目指すような、明確な目的意識と強い気概、実力を伴った人間性豊かな人材の育成を目標としています。

卒業までに、確固とした個性と豊かな感性を養い、音楽における高度な専門実技能力と深い知識、そして幅広い教養を身につけることが求められます。

所定の期間在学し、最終年次の「卒業作品」、「卒業論文」又は「卒業演奏」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士（芸術）の学位を与えます。

#### **カリキュラム・ポリシー**（教育課程編成・実施の方針）

学生の個性を最大限に伸ばすため、専門実技授業では4年間徹底した個人指導による教育を行います。1、2年次では特に基礎教育を重視し、3、4年次には将来の幅広い活動を支えるだけの応用力を養うための様々な実践的授業が用意されています。

実技系の授業等とあわせ、音楽理論、語学、一般教養等、自由に選択可能な科目を幅広く学ぶことも出来ます。

#### **アドミッション・ポリシー**（入学者受入れの方針）

音楽学部では音楽に対する感性が豊かで表現意欲が旺盛な人や、将来国内はもとより、国際的視野にたった幅広い芸術・研究活動を目指すような、明確な目的意識と強い気概をもった人を求めています。

# 作曲専攻 作曲コース

Composition (Composition)

■音楽学部 ■音楽科 ■作曲専攻 ■作曲コース

## コース概要

作曲家は「音」を素材として作品を創造するクリエイターですが、同時に様々な領域をつなぐインターフェイス的側面ももっています。多くの場合、音楽作品は楽譜(五線紙)というメディア(媒体)を介して演奏家によって聴衆に届けられるという形をとります。つまり音楽の領域内でも、作曲家は様々なジャンルの演奏家とのコラボレーションをすることが常に要求されているわけです。さらに最近では楽譜を経由せずにコンピューターの使用により直接「音」をメディア化できるようになったことで、美術や舞踊、映像などとのコラボレーションが盛んに行われるようになってきています。

## 人材育成目標

以下に挙げる人材の育成を目指しています。

- 作曲家・指揮者・演奏家・教育者等、創作能力を生かした活動を通して、社会に貢献し得る人材
- 国際的視野に立った芸術・研究活動の展開を目指す人材
- 明確な目的意識と強い気概、実力を伴った人間性豊かな人材

## 卒業までに身につけるべき資質・能力

- 作曲家としての専門的な能力
- 豊かな感性と、それを表現する技術をもって確かな音楽作品を創作するための表現技法
- 将来の幅広い活動を支えるための応用力
- 時代を読み解き作曲家として社会に貢献する姿勢

## 教員

久留 智之	HISATOME, Tomoyuki	教 授	作曲
小林 聡	KOBAYASHI, Akira	教 授	作曲
山本 裕之	YAMAMOTO, Hiroyuki	教 授	作曲
成本 理香	NARIMOTO, Rica	准 教 授	作曲

## 非常勤講師

鈴木 宏司／岩本 渡／小井 洋明／遠藤 秀安／大河内 俊則／  
板倉 ひろみ／小島 千加子／武野 晴久／小櫻 秀樹／岩田 彩子／  
高山 葉子／石川 泰昭／武藤 綺音／七條 めぐみ／丹羽 菜月／  
アム・セチュン・トニー

## 専攻サイト

<http://composition.aichi-fam-u.ac.jp>



# カリキュラム

## 教育課程の編成方針

個人指導を中心とした専門実技指導、グループ・ゼミや試演会での創作作品の検証、国内外の音楽家による特別講座、公開講座、レクチャー・コンサートの開催等により伝統的西洋芸術音楽の方法論から先端的音楽についての分析法、他領域とのコラボレーションの仕方、邦楽・民族音楽へのアプローチ方法、現代社会とアートの関

わり方等まで学ぶことができるようカリキュラムを編成しています。

## 具体的なカリキュラム構成と特徴

- 徹底した個人指導を中心に、時代やジャンルを問わず様々な音楽の分析(アナリーゼ)や音楽理論を学びつつ、即実践である創作(作曲)へ応用し、グループ・ゼミなどで検証していきます。
- 4年の間に独奏曲から管弦楽曲までの規模の作品を書くことが課され、作曲家としての専門的な能力を養います。また電子音

楽や複合領域的な作品を制作する場もあり、多様な作品を生み出す環境にあります。これらの作品は「作曲作品演奏会」など、実際に演奏される多くの機会も提供されます。

- この他、国内外の音楽家や外国人客員教授による公開講座やレクチャー・コンサート、提携校への派遣留学制度などにより、国際的な学修経験を積む機会が設けられています。

音楽学部専門教育科目							基礎教育科目	教養教育科目	
専攻科目・関連科目									
一年次	作曲研究Ⅰ ・ピアノ独奏曲 ・Violin, Viola, Violoncelloいずれかによる独奏小品 ・弦楽四重奏曲	作曲理論Ⅰ ・対位法	楽曲分析Ⅰ ・和声学と楽式論の観点による古典音楽の分析	ソルフェージュA, B ・基礎的な聴音、初見視唱、様々な音楽の仕組みや形を把握する力を養う	ピアノ奏法Ⅰ ・充実した個人レッスンにより、ピアノ奏法の基礎を学び、ピアノ作品またはピアノという楽器を知る。	指揮法  キーボード ハーモニー  楽器研究(弦・管打)Ⅰ	合奏／日本音楽史概説 西洋音楽史概説	日本音楽史概説 西洋音楽史概説	
二年次	作曲研究Ⅱ ・二重奏(器楽) ・声楽曲(合唱曲を含む) ・様式研究	作曲理論Ⅱ ・フーガ	楽曲分析Ⅱ ・古典から現代までの作品を分析し、創作活動に役立てる。	ソルフェージュC ・音楽表現や聴音について、様々なケースに対応できるような力を養う。  ソルフェージュD		スコアリーディング  楽器研究(弦・管打)Ⅱ ・管打楽器アンサンブル及びウィンドバンドへの編曲・試演	ピアノ奏法Ⅱ／コンピュータ音楽／日本音楽演習／音楽史特講／音楽教育論／音楽心理学／音楽療法／音楽民族学概論／ポピュラー音楽概論／アート・マネジメント／音楽芸術言語		英語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 身体運動・健康科学 情報科学 心理学 芸術論 ほか
三年次	作曲研究Ⅲ ・自由曲 ・オーケストラ作品(1管編成以上)	作曲理論Ⅲ ・オーケストレーション ・トランスカルチュラルミュージックセオリー				楽器研究(弦・管打)Ⅲ	ピアノ奏法Ⅲ／声楽／合唱／音楽学特講／オペラ総論／音楽特講／音声学／楽器学／楽書講読(英)Ⅰ／ピアノ指導法／楽器研究(鍵盤)Ⅰ／音楽学概説	音楽学概説	
四年次	作曲研究Ⅳ ・自由曲＝卒業作品	作曲理論Ⅳ ・コンピュータ音楽 ・ライブエレクトロニクス ・複合芸術	学内発表			楽器研究(弦・管打)Ⅳ	ピアノ奏法Ⅳ／楽書講読(英)Ⅱ／楽器研究(鍵盤)Ⅱ		
	卒業作品								

## 卒業後の進路

### [就職等]

作曲家・編曲家、指揮者多数、団体・企業等:愛知県文化振興事業団、ヤマハ(株)、(株)カワイ楽器製作所、コナミ(株)、サラマンカホール、豊中市立文化芸術センター、新国立劇場、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(音響)、等

### [教員]

愛知県立芸術大学、愛知県立大学、愛知教育大学、名古屋市立大学、東京藝術大学、兵庫教育大学、九州大学、福岡教育大学、昭和音楽大学、国立音楽大学、同志社女子大学、名古屋芸術大学、名古屋音楽大学、名古屋経済大学、椙山女学園大学、修文大学短期大学部、松阪大学、京都女子大学、くらしき作陽大学、四国女子大学、活水女子大学、全国の高等学校、中学校、等

### [進学]

愛知県立芸術大学大学院、東京藝術大学大学院、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)、愛知教育大学大学院、名古屋市立大学大学院、等

### [留学等]

フランス国立高等音楽院、エコール・ノルマル音楽院、リヨン音楽院、ブローニュ=ビヤンクール地方音楽院、ベルリン音楽大学、ミュンヘン音楽大学、ハンブルク音楽大学、アムステルダム音楽院、ハーグ王立音楽院、ミルズ大学、マンハッタン音楽院、コロンビア大学、等

## 活躍する卒業生



### 藤掛 廣幸

1973年大学院(作曲専攻)修士課程修了。国際エリザベート音楽コンクール第1位グランプリ受賞。



### 中村 滋延

在学中のドイツ政府給費生としてのドイツ留学を経て、1977年大学院(作曲専攻)修士課程修了。1997~98年ドイツZKM滞在芸術家、2001~16年九州大学大学院教授(現在、名誉教授)として、情報工学のアート・デザインへの応用に関する教育研究創作活動に従事、著述も多い。作曲作品数は100曲を超える。



### 斉木 由美

1988年作曲専攻(作曲)卒業。愛知県立芸大卒業後渡仏。パリ・エコールノルマル音楽院卒業後、パリ国立高等音楽院を首席一等賞で卒業。2005年IRCAM講習生。日本音楽コンクール、芥川作曲賞等を受賞。これまでにN響、読響、名フィル、MFJ、サントリイ芸術財団等の団体や優れた演奏家から委嘱を受け、主要作品は、国内外の音楽祭、演奏会で紹介されている。2015年に2枚の自作CDをリリース。現在、東京藝術大学、国立音楽大学・大学院講師。



### 西野 淳

1990年作曲専攻(作曲)卒業。1994年洗足学園大学付属指揮研究所マスターコース修了。ミュージカル界で指揮者としても活躍している。第21回読売演劇大賞優秀スタッフ賞受賞。



### 長崎 貴洋

ゲラ・アルテンブルク歌劇場専属指揮者。同歌劇場のコレペティトゥーアとしてキャリアをスタートさせ、現在は指揮者、伴奏者として主にドイツで活躍する。近年ではパッサウ市立歌劇場、エアフルト市立歌劇場、イタリア、フィレンツェ室内オーケストラなどを指揮している。岡田文化財団の助成によりライブツィヒ音楽大学歌曲伴奏科及びピアノ科修了。



### 坂田 直樹

作曲専攻卒業。パリ国立高等音楽院修了。IRCAMIにて研鑽を積む。武生作曲賞、日本音楽コンクール作曲部門入選。SACEM賞、第36回入野賞、武満徹作曲賞第1位、尾高賞、芥川作曲賞など数々の著名な作曲賞を受賞。また、武生国際音楽祭、フェスティヴァル・ミュージカをはじめとして、威信のある音楽祭で作品が取り上げられている。



### 河出 智希

作詞作曲グループ「BOUNCEBACK」の作曲担当。エイベックス・マネジメント所属作家として、J-POP界で活躍。2003年に浜崎あゆみ「No way to say」で日本レコード大賞受賞。2006年AKB48に提供した「会いたかった」はオリコンシングルチャートで60週チャートインするロングセラー作品となる。他にBoA、EXILE、AAA、Hey!Say!JUMP、DJ OZMA、前川清、岩崎宏美等、現在も多数のアーティストに楽曲を提供している。



### 水野 みか子

作曲と音楽学で活動中。国内外での作品発表に加えて、EMS(電子音響音楽国際研究学会)で研究発表や日本大会(名古屋)でホストしたりして、国際的な研究のネットワークを広げています。若者たちと音楽系メディア技術やメディアデザインの可能性を模索中。名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授。

音楽学部棟録音スタジオの様子



愛知芸術文化センターとの協同企画 連続講座「ケージを知る」Vol.1 ワークショップ「リビングルームミュージック」



2014年度のアーティスト・イン・レジデンス事業 作曲家アケセル・ルオフ氏の講演



学術交流校であるカリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) より教授陣を招いて行われた「新しい音楽を創作するための作曲家と演奏家のコラボレーションセミナー」の様子



愛知芸術文化センターとの協同企画 連続講座「ケージを知る」Vol.2 レクチャー&コンサート「クレド・イン・アス」徹底解剖



## 入試

### 求める人物像

- 創作研究に対する、謙虚且つ積極的な姿勢を持っている人
- 感性、知性、表現力、独創性、柔軟性、好奇心、国際性等を持っている人
- 音楽の創作において必要な基礎的能力を身に付けている人

### 入学前に身につけてほしい学習成果

- 基本的かつ十分な作曲能力。特に楽典に基づいた正しい楽譜の読み書きができること、自己の表現したいものを適切な技術で書き表すことができること、和声、対位法等の理論をある程度習得していること
- 音楽の基礎的能力(楽曲分析、ソルフェージュ、ピアノ実技等)
- 西洋音楽史的な素養、特にバロックから近代までの基本的な楽曲を網羅的に知っていること
- 基礎的な学力、語学力(英語)

毎年プロの演奏家を招いて行われる作曲作品演奏会。第51回ではスウェーデンのアンサンブル Curious Chamber Playersにより学生の作品が演奏された。

# 作曲専攻 音楽学コース

Composition (Musicology)

■音楽学部 ■音楽科 ■作曲専攻 ■音楽学コース

## コース概要

本コースは、1994年度に学部と大学院(修士)が同時に設置されました。そして、平成21年度には博士後期課程が新設され、学部から博士前期課程および後期課程に至るまで、内外の優れた人材を受け入れる体制が整備されました。授業は音楽学の専門科目(学部の音楽学研究、博士課程前期の音楽総合研究、博士課程後期の博士研究指導)を中心に行われ、英語、ドイツ語、フランス語など外国語の修得も重視されています。また、音楽の実技や理論を幅広く学び、音楽の実践に密着した研究を展開することができます。在学中には音楽学部の演奏会のプログラム解説の執筆、特別講座などコース内の諸活動にも参加し、実践的な研鑽を積み重ねていきます。

## 人材育成目標

以下に挙げる人材の育成を目指しています。

- 音楽・芸術に対する豊かな知的好奇心・感受性を持ち、社会に貢献できる人材
- 音楽の学問的研究およびそれに関連した業務に携わる人材

## 卒業までに身につけるべき資質・能力

- 卒業後に、一般および音楽関連企業への就職、教職(中高)および研究職(大学)、国内外への進学など様々な活動を行うための基盤となる能力
- 語学をはじめ、実技や理論など幅広い知識と経験

## 教員

ジャン・ジャック・バレ BALET, Jean Jacques	短期外国人客員教授 (2019年度後期)	ピアノを含む室内楽
井上 さつき	INOUE, Satsuki	教 授 西洋音楽史
安原 雅之	YASUHARA, Masayuki	教 授 西洋音楽史
東谷 護	TOYA, Mamoru	教 授 ポピュラー音楽・音楽社会学

## 非常勤講師

小沢 優子 / 七條 めぐみ / 野間 晴久 / 野村 倫子 / 野村 峰山 /  
野村 祐子 / 深堀 彩香 / 山本 百合子 / エドガー・ポープ / 村田 四郎 /  
小林 英樹 / 都築 裕治 / 佐藤 正浩 / 村瀬 香

## 専攻サイト

<http://musicology.aichi-fam-u.ac.jp>



## カリキュラム

### 教育課程の編成方針

学部から博士前期・後期課程への一貫性を見据え、少人数であることを生かしたゼミ形式によるキメの細かい教育を行い、一般および音楽関連企業への就職、教職(中高)および研究職(大学)、国内外への進学などさまざまな進路につながる授業科目、教育体制を編成しています。

### 具体的なカリキュラム構成と特徴

- 1年次、2年次で音楽学の基礎的な方法論を学びます。
- 3年次から各自のテーマに基づく研究に取り組み、4年次で卒業論文を完成させます。
- その過程において語学をはじめ、実技や理論を修得し、そして特別講座や総合ゼミを通じて幅広い知識と経験を身につけていきます。

ます。

- また国外の研究者・アーティストによるゼミや講演、提携校への派遣留学制度などにより、国際的な学修経験を積む機会が設けられています。

### 音楽学部専門教育科目・基礎教育科目

### 教養教育科目

年次	音楽学部専門教育科目・基礎教育科目	教養教育科目
一年次	<p>音楽学研究Ⅰ AB ・音楽学のさまざまな方法論を学ぶ。</p> <p>楽書講読(英語)Ⅰ A・B ・音楽に関する英語のテキストを精読する。英語のリーディング・スキルを身につける。</p> <p>ソルフェージュA、B</p> <p>和声Ⅰ</p> <p>ピアノ奏法Ⅰ</p> <p>西洋音楽史概説A・B ・西洋音楽史の基礎を学ぶ。</p>	<p>楽器研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 音楽教育論 音楽心理学 音楽療法 オペラ総論 アート・マネジメント 楽書講読 音楽芸術言語 合奏 キーボードハーモニー アンサンブル特講 スコアリーディング コンピュータ音楽 指揮法 合唱 楽式論 対位法 楽器学 管弦楽法 楽曲分析 楽曲研究 ほか</p> <p>英語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 身体運動・健康科学 情報科学 心理学 芸術論 ほか</p>
二年次	<p>音楽学研究Ⅱ AB ・音楽学のさまざまな方法論を学ぶ。</p> <p>楽書講読(英)Ⅱ A・B ・英語の読解力を向上させる。</p> <p>ソルフェージュC、D</p> <p>和声Ⅱ</p> <p>ピアノ奏法Ⅱ</p> <p>音楽学概説 ・音楽学へのイントロダクション。さまざまな研究方法について学ぶ。</p> <p>音楽史特講a・b・c・d・e ・さまざまな視点から音楽史を学ぶ。</p> <p>日本音楽史概説 ・日本音楽の基礎を学ぶ。</p>	
三年次	<p>音楽学研究Ⅲ AB ・各自の研究テーマを設定し、研究を進める。</p> <p>楽書講読(独または仏) ・初級の履修を終えた外国語のテキストを精読する。</p> <p>ピアノ奏法Ⅲ</p> <p>音楽民族学概論 ・アジア諸地域の伝統音楽を中心に、基本知識を習得し、アジア音楽を理解する。</p> <p>ポピュラー音楽概論 ・ポピュラー音楽を「文化現象」として捉え、考察する。</p> <p>など</p>	
四年次	<p>音楽学研究Ⅳ AB ・各自の研究を進め、卒業論文をまとめる。</p> <p>学内発表 ・卒業論文の中間発表を行う。</p> <p>ピアノ奏法Ⅳ</p> <p>卒業論文</p>	

## 卒業後の進路

### [就職等]

浜松市楽器博物館、北九州市芸術文化振興財団音楽事業課、豊田市文化振興財団、愛知県文化振興事業団、長久手市文化の家、愛知県内オーケストラ事務局、しらかわホール、ヤマハ音楽振興会、新国立劇場運営財団、豊橋市役所、トヨタ紡織、秀英予備校等

### [教員]

ノース・カロライナ大学グリーンズボロ校、愛知県立芸術大学(非常勤講師)、名古屋大学(非常勤講師)、名古屋市の中学校および高等学校、愛知県の私立高校、東京都立特別支援学校等

### [進学]

愛知県立芸術大学大学院、国内外の大学院等

### [留学等]

フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ音楽演劇大学ライブツィヒ、カリフォルニア州立大学ノースリッジ校、コロムビア大学大学院、イーストマン音楽院大学院、ロンドン大学大学院、モンペリエ大学大学院、プラハ音楽院、オスロ大学大学院

## 活躍する卒業生



### 伊藤 円

富山県出身。2011年度卒業。卒業論文「レベッカ・クラーク研究—その生涯とヴィオラソナタを中心に」。2012年に渡独し、ライブツィヒ・メンデルスゾーン音楽演劇大学指揮・伴奏科(歌曲解釈専攻)修士課程を修了後、同専攻マイスター課程を満場一致の最高点で修了。同大学ピアノ科室内楽専攻でも研鑽を積む。2017年よりドレスデン音楽大学声楽科講師(コレペティートル)として主にリートクラスを担当すると同時に、現在はライブツィヒ音楽演劇大学器楽科講師としても後進の指導にあたっている。アレクサンダー・シュマルツ、ジャック・アモン、カスパー・フランツの各氏に師事。

「県芸在学中は音楽学の講義に加え、特殊研究や大学院オペラ、複合芸術の授業など様々な学科の授業に参加させて頂きました。その経験が今の音楽活動にも繋がっており、音楽を多角的に捉える上での基盤となっています。」



### 石川 実希

愛知県名古屋市出身。2015年度卒業。卒業論文「アドルフ・アダンのパレエ《ジゼル》(1841)研究—楽曲分析を中心とした音楽についての考察」。現在、名古屋市の中学校で音楽科の教員として勤務している。また、合唱部の顧問としての活動にも力を入れている。

「地元名古屋で、子どもたちの成長や、音楽の発展のために頑張ることができる毎日はとても充実していて、素敵なお仕事だなと感じています。」



### 佐藤 さくら

宮城県仙台市出身。2015年度卒業。卒業論文「フィギュア・スケート競技に用いられる音楽—プログラムに用いられた楽曲の分析とその比較」。日本音楽学会全国大会(2016年)のパネルディスカッション「スポーツと音楽」にパネラーとして参加。現在、浜松市楽器博物館勤務。

「楽器博物館の学芸係として展示物の管理や資料整理、来館者へのデモンストレーションといった日々の業務の他に、コンサートやワークショップの実施、近隣小学校へのアウトリーチ活動など、幅広く様々な仕事を行っています。」



### 七條 めぐみ

愛知県知多郡出身。2009年度、愛知県立芸術大学音楽学部ピアノ専攻卒業。2011年度、同大学院音楽学領域修了。修士論文「ゲオルグ・ムッフアートの《音楽の花束》に見られる様式の混合」。2016年度、愛知県立芸術大学とパリ＝ソルボンヌ大学とのコチュテル(博士論文共同指導)の制度に基づき、両大学から博士号を取得。博士論文「アムステルダムにおけるリュリのオペラの組曲版—楽譜出版者エティエンヌ・ロジェ(1665/66-1722)に関する歴史、文献、音楽面からの研究/ Les suites instrumentales issues des opéras de Lully publiées à Amsterdam: études historique, philologique et musicale sur l'éditeur Estienne Roger (1665/66-1722)」。

2012年の夏、パリ＝ソルボンヌ大学のマルク・パティエ先生が愛知芸大にお越しになった際、言いました。「私たちの間には学術協定があるから、コチュテルができて二つの学位が取れますよ。やってみますか?」私は何のことがよく分からないまま、ただ「留学ができる!」という思いだけで「Oui(はい)」と答えていました。それが、すべての始まり。「コチュテル(博士論文共同指導)」とは、二つの大学に在籍しながら博士論文を仕上げるダブルディグリー・プログラムで、一つの論文で二つの博士号を取得することができます。ただしその分、二つの言語で論文を書かねばならなかったり、両大学の審査規定を満たさなければならなかったりと、大変な面も多々あります。さらに、論文を完成させるための資料調査や分析、考察

の難しさも相まって、博士後期課程入学から学位取得までは5年の月日を要しました。途中、何度かコチュテルや博士論文そのものをあきらめてしまおうかと思ったこともありますが、指導教授の井上さつき先生、ラファエル・ルグラン先生をはじめとする様々な方の励ましやお叱りのおかげで、目標を達成することができました。

2017年1月24日に愛知芸大で行われた学位審査会には、日本側の審査員の他にフランス、オランダから審査員が来日され、アカデミックかつ暖かい雰囲気の中で行われました。この経験を生かして、引き続き広い視野で研究を進めていくと同時に、コチュテルのようなダブルディグリー・プログラムがもっと浸透するよう尽力したいと思います。



2017年1月24日、本学で行われたコチュテルの学位審査を終えて。(左から)ラッシュ名誉教授(オランダ、ユトレヒト大学)、ルグラン教授(フランス、ソルボンヌ大学)、七條めぐみさん、井上教授、石井明教授(慶應義塾大学)、樋口隆一名誉教授(明治学院大学)

音楽学コースウェブサイトにも、七條めぐみさんの「留学報告」および、次の5名の「卒業生インタビュー」が掲載されています。

- 初山陽子さん
- 2013年 博士後期課程(音楽学)修了
- 松宮圭太さん
- 2004年 作曲専攻音楽学コース卒業
- 大野悠子さん
- 2009年 修士課程(音楽学領域)修了
- 大西たまきさん
- 1997年 修士課程(音楽学)修了
- 大戸薫さん
- 2002年 修士課程(音楽学)修了



卒業論文ポスター展示  
(2019年3月20日、愛知芸術文化センターコンサートホールのロビーにて)



ジャン・ジャック・バレ先生による授業風景



2018年度専攻・コース別説明会



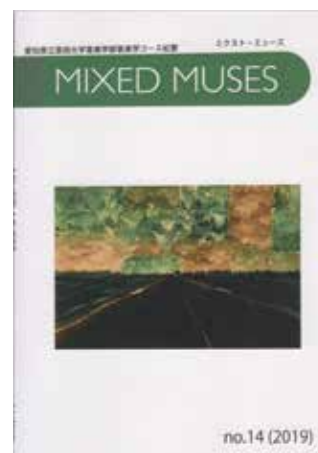
音楽学コース特別講座。イヴ・フェラトン先生をお迎えして。



音楽学コース特別講座。阿部万里江先生をお迎えして。



音楽学研究総合ゼミのフライヤー



愛知県立芸術大学音楽学部音楽学  
コース紀要  
『ミクスト・ミューズ』



## 入試

### 求める人物像

- 音楽に対する知的好奇心をもっている人
- 音楽を研究する上で必要な基礎的能力を備えている人
- 芸術に対する豊かな感受性をもっている人

### 入学前に身につけてほしい学習成果

- 音楽の基礎的能力(ソルフェージュ、ピアノ、楽典)
- 基礎的な学力、語学力
- 論理的思考力および表現力

# 声楽専攻

Voice

■音楽学部 ■音楽科 ■声楽専攻

## 専攻概要

声楽専攻では、長年に渡って、国内外に活躍する歌手を数多く輩出して参りました。現在も、豊富な経験を有する教員により、次期世代の育成が全力を挙げて行われ、毎年、将来を嘱望される卒業生を世に送り出しています。

## 人材育成目標

以下に挙げる人材の育成を目指しています。

- 豊かな心を持ち、幅広い教養と高度な専門性を身に付けた声楽家、音楽分野の指導者
- 演奏家、教育者、合唱指揮者、研究者等として、広く社会に貢献し得る人材

## 卒業までに身につけるべき資質・能力

- 声楽家としての基礎である呼吸法と発声
- 多彩なレパートリーに対応できる豊かな音楽性と演奏技術
- 演奏する作品に関わる歌詞解釈とその発音法など、専門実技に密着した語学力
- 声楽家、音楽指導者に必要とされる基本的な能力

## 教員

戸山 俊樹	TOYAMA, Toshiki	教 授	バス
末吉 利行	SUEYOSHI, Toshiyuki	教 授	バリトン
中巻 寛子	NAKAMAKI, Hiroko	教 授	メゾ・ソプラノ
森川 栄子	MORIKAWA, Eiko	教 授	ソプラノ
川島 幸子	KAWASHIMA, Sachiko	准 教 授	ソプラノ
初鹿野 剛	HATSUKANO, Takeshi	准 教 授	バリトン

## 非常勤講師

[声楽研究] 相可 佐代子 / 大槻 孝志 / 岡崎 智恵子 / 小泉 詠子 / 佐竹 由美 / 五月女 智恵 / 田島 茂代 / 升島 唯博 / 馬原 裕子 / 三崎 今日子 / 三輪 陽子 / 渡部 純子  
[オペラ研究] たかべしげこ / 藤本 淳也 / 井原 義則  
[合唱・重唱] 佐藤 正浩 / 辻 博之 / 永 ひろこ / 長谷 順二 / 石山 英明  
[音声学] 萩野 仁志  
[音楽芸術言語] ロムアルド・バローネ / マーティン・ヴィルヘルム・ニアス / フロラン・ペリエ

Twitter



<https://twitter.com/auamusicvoice>

Facebook



<https://www.facebook.com/aua.music.voice>



2018年度大学オペラ《シンデレラ》

## カリキュラム

### 教育課程の編成方針

学生と教員の対一による実技レッスン、合唱やオペラ関連の実技系クラス授業に、音楽芸術言語などの関連科目を加えた多彩な授業科目とキメ細かな指導で、声楽家として必要不可欠な知識と演奏技術を身につけられるようにカリキュラムを編成しています。

### 具体的なカリキュラム構成と特徴

- 1年次から4年次まで指導教員との対一の個人レッスンを通して、声楽家としての基礎である呼吸法や発声から、多彩なレパートリーに対応できる豊かな音楽性、演奏技術までを身に付けます。
- 並行して1年次からは「合唱」、3年次には「オペラ基礎」「オペラ重唱」、4年次にはそれらを基にした「オペラ研究」が必修科目に組み込まれ、幅広い演奏活動を支える基礎能力を養います。

- 外国語に関しては、教養教育科目としての文法や長文解釈などのクラス授業に加え、特に声楽学習者のニーズに応えるものとして、各人が実際に演奏する歌詞の解釈や発音をネイティブ・スピーカーに学ぶ「音楽芸術言語」のクラスを開講するなど、より専門に密着した語学力が養えるよう配慮されています。また外来のアーティストによるレッスンや特別講座、提携校への派遣留学制度などにより、国際的な学修経験を積む機会が設けられています。

音楽学部専門教育科目					基礎教育科目	教養教育科目	
専攻科目					関連科目		
一年次	<b>声楽研究Ⅰ</b> ・実技レッスン。声楽家としての基礎的な演奏能力を養う。	<b>合唱Ⅰ</b> ・合唱の演奏法を身につける。	<b>ピアノ奏法Ⅰ</b> ・充実した個人レッスンにより、ピアノ奏法の基礎を学び、ピアノ作品またはピアノという楽器を知る。	<b>ソルフェージュA, B</b> ・基礎的な聴音、初見視唱、様々な音楽の仕組みや形を把握する力を養う。	<b>和声Ⅰ</b> ・3和音の基本形、第1・第2転回形、属七の基本形、第1・第2・第3転回形を学びながら、メロディーとベースラインの関係も理解する。	日本音楽史概説  西洋音楽史概説A・B ・西洋音楽史の基礎を把握し、各時代の音楽を理解する。Aではバロック時代までの、Bでは古典以降の音楽を取り上げる。	
二年次	<b>声楽研究Ⅱ</b> ・実技レッスン。声楽家としての基礎的な演奏能力を養う。	<b>合唱Ⅱ</b> ・合唱の演奏法を身につける。	<b>ピアノ奏法Ⅱ</b> ・ピアノ奏法Ⅰで学んだことを更に発展させ、ピアノ演奏の技術を磨き、作品の理解を深めていく。		<b>和声Ⅱ</b> ・転調や借用和音、属七以外の4和音・5和音と転位音を実習して学び、実際の楽曲の和声分析も行う。	ソルフェージュC, D / コンピュータ音楽 / 日本音楽演習 / 音楽史特講 / 音楽教育論 / 音楽心理学 / 音楽療法 / 音楽民族学概論 / ホビータン音楽概論 / アート・マネジメント / 音声学 / 音楽芸術言語	
三年次	<b>声楽研究Ⅲ</b> ・実技レッスン。声楽家としての基礎的な演奏能力を養う。	<b>合唱Ⅲ</b> ・合唱の演奏法を身につける。	<b>オペラ重唱</b> ・歌唱と演技を通して、オペラにおける舞台表現の基礎を体得する。	<b>オペラ基礎</b> ・オペラに伴う身体動作の基本的訓練を行う。		ピアノ奏法Ⅲ / 指揮法基礎 / 合奏 / キーボードハーモニー / 楽式論 / 対位法 / 音楽学特講 / オペラ総論 / 音楽特講 / 楽器学 / 管弦楽法 / 楽曲研究Ⅲ / 楽書講読 / ピアノ指導法 / 楽器研究Ⅲ	英語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 身体運動・健康科学 情報科学 心理学 芸術論 ほか
四年次	<b>声楽研究Ⅳ</b> ・実技レッスン。声楽家としての基礎的な演奏能力を養う。	<b>重唱</b> ・合唱作品、歌曲、オペラの重唱等の作品を通して、アンサンブルに必要な音楽的語彙、語法を経験する。	<b>オペラ研究</b> ・歌手としてのオペラへの取り組み方の基礎を、オペラを実際に体験することを通して身につける。	<b>学内発表</b> ・公開演奏を通して、各人の日頃の研究の成果を発表すると同時に、演奏者としての実践経験を積む。	ピアノ奏法Ⅳ / スコアリーダーリング / 楽器研究Ⅳ / アンサンブル特講	音楽学概説 ・音楽に関するさまざまな研究方法について学ぶ。	
卒業演奏							

## 卒業後の進路

### [音楽活動団体]

新国立劇場、ベルギー王立モネ劇場、アルテンブルク・ゲラ市立歌劇場 等  
東京二期会、名古屋二期会、関西二期会、藤原歌劇団、日本オペラ協会、劇団四季 等

### [就職等]

愛知県立芸術大学、京都市立芸術大学、岡山大学、岐阜大学、愛知教育大学、武蔵野音楽大学、名古屋音楽大学、名古屋芸術大学、大阪音楽大学、大阪芸術大学、金城学院大学、桜花学園大学、名城大学、椋山女学園中学校・高等学校、国内各地の小中高等学校

ベルリン国立歌劇場、シュトゥットガルト国立歌劇場、ボン市立歌劇場、オルデンブルク国立歌劇場、アーヘン市立歌劇場、ドルトムント市立歌劇場、カイザースラウテルン市立歌劇場、ロストック国民劇場、フォアポンメルン歌劇場、ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ、ウィーン少年合唱団、東京混声合唱団、びわ湖ホール音楽アンサンブル、神戸市混声合唱団、防衛省(陸上自衛隊音楽隊、海上自衛隊音楽隊、航空自衛隊音楽隊) 等

### [進 学]

愛知県立芸術大学大学院、ハンブルク音楽演劇大学大学院、シュトゥットガルト音楽演劇大学大学院等、国内外各地の芸術系・教育系大学院、新国立劇場オペラ研修所、二期会オペラ研修所、コンセルヴァトリーオ名古屋二期会 等の研修機関

### [留学等]

オーストリア(ウィーン、ザルツブルク)、ドイツ(ミュンヘン、ベルリン、マンハイム、フライブルク、ライプツィヒ、ケルン、ロストック)、イタリア(ミラノ、ローマ、ボローニャ)、フランス 等

## 活躍する卒業生



小山 陽二郎(小山 洋二郎)  
1992年大学院(声楽専攻)修士課程修了。1994年イタリア・ミラノに留学、数々のコンクールで認められる。1997～1999年ハンガリー国立歌劇場のメンバーとして出演を重ねる。近年は東京において藤原歌劇団の公演を中心に活動中。現在、昭和音楽大学非常勤講師、藤原歌劇団団員。



田口 智子  
1999年声楽専攻卒業。2002年東京藝術大学大学院修士課程修了。2003年パリへ留学。2004年日本音楽コンクール第1位。2005年パリ国立音楽院大学院修了。2009年東京藝術大学大学院博士後期課程修了、博士号を取得。現在、国内外でオペラやコンサートにめざましい活躍をしている。



伊藤 晶子  
1995年大学院(声楽専攻)修士課程修了。ケルン音楽大学アーヘン校卒業。DAAD賞受賞。第4回長久手国際声楽コンクール3位入賞。ドイツを中心に各地のオペラ劇場で活躍している。



吉田 珠代  
2003年大学院(声楽専攻)修士課程修了。2003～2006年新国立劇場オペラ研修所第6期生修了。2006年文化庁新進芸術家派遣研修員としてイタリア・ボローニャへ留学。2008年度ローム奨学生としてミュンヘンに留学。モーツァルト作曲《ドン・ジョヴァンニ》のドンナ・アンナ役等で活躍。第6回静岡国際オペラコンクール第2位、三浦環特別賞受賞。2018年度岩城宏之音楽賞受賞。



國光 ともこ  
1997年大学院(声楽専攻)修士課程修了。二期会オペラスタジオ第42期マスタークラス修了(優秀賞受賞)。新国立劇場オペラ研修所第3期修了。2003年度文化庁芸術家在外派遣研修員としてイタリアに留学。2003年度文化庁派遣芸術家在外研修員。第12回F.チレア国際声楽コンクール第2位、日本モーツァルト音楽コンクール優勝、日本モーツァルト音楽大賞選考会2005大賞受賞、第3回東京音楽コンクール第2位。二期会会員。



能勢 健司  
2003年大学院(声楽専攻)修士課程修了。2005～2006年ドイツ・マンハイムに留学。2007年～2010年新国立劇場オペラ研修所第9期生修了。現在、金城学院大学准教授。



三輪 陽子  
1998年大学院(声楽専攻)修士課程修了。2005年第5回国際ワーグナー歌唱コンクール派遣対象者コンクール最優秀賞と特別賞を受賞。新国立劇場公演、R.シュトラウス《エレクトラ》のマクトII役を皮切りに活躍している。2008年度文化庁派遣芸術家在外研修員としてウィーン、イタリアに留学。二期会会員。現在、本学非常勤講師。



辻井 亜季穂  
2009年声楽専攻卒業。2011年大学院博士前期課程声楽領域修了後、DAAD(ドイツ学術交流会)奨学生として渡独。ライプツィヒ音楽演劇大学大学院オペラ科を修了。チューリンゲン州オペラ研修所、チューリンゲン州アルテンブルク市・ゲラ市立歌劇場専属歌手を経て、マインフランケン劇場ヴェルツブルク専属歌手。



学部4年「オペラ重唱」



声楽専攻特別講座「岡崎智恵子先生公開レッスン」



学部4年「オペラ研究」《魔笛》試演会



学部4年「オペラ研究」《魔笛》試演会全員写真



学部1, 2, 3年「合唱」(男)、学部4年「重唱」試演会ゲネプロ



学部卒業演奏会での独唱

## 入試

### 求める人物像

- 豊かな感受性、想像力を備えている人
- 演奏家としての資質を備えている人
- 積極的に学び、音楽界、芸術教育界を将来担うべく意欲旺盛な人

### 入学前に身につけてほしい学習成果

- 専門実技能力…学ぶ上で大切にして欲しいことは、第一に自主的に学ぶ姿勢と、積極的に表現しようとする姿勢です。そして、各人の資質に応じた無理のない発声を身につけ、音楽と言葉に対する感性を磨くよう努力して下さい。
- 音楽の基礎的能力…基礎的な読譜力と、ピアノの演奏能力を身につけてきて下さい。また音楽についての知識を積極的に吸収するよう心がけて下さい。
- 基礎的な学力、語学力…歌詞を歌う声楽においては、日本語を含む語学力は必要不可欠なものです。加えて作品の背景を知る為にも、歴史や文学に関する基本的な知識を身につけて下さい。

# 器楽専攻 ピアノコース

Instrumental Music (Piano)

■音楽学部 ■音楽科 ■器楽専攻 ■ピアノコース

## コース概要

18世紀の中頃にピアノという楽器が生まれて以来、西洋音楽の歴史はピアノとともに発展・展開してきました。ピアノ作品の数も非常に多く、また多岐にわたっています。ピアノコースでは学生の意欲や探究心、可能性に応えられるよう、個人レッスンを中心とするきめ細かな教育を行う体制をとり、各教員がそれぞれの特色を生かした教育・研究活動を行なっています。

## 人材育成目標

以下に挙げる人材の育成を目指しています。

- ピアノ演奏芸術を専門家として深く理解し、表情豊かな演奏表現を追及できる人
- 演奏、教育、音楽研究等の幅広い分野で専門家としての力を発揮し、広く社会に貢献できる人
- 国際的な芸術活動を行うための技量と人間性を持った人
- 音楽の素晴らしさを社会に広めることのできる人

## 卒業までに身につけるべき資質・能力

- 個性を生かした表現力と専門家としての音色の獲得
- 音楽作品に対する専門的な見識、及び多様な価値観に対する理解力
- 独奏、アンサンブル、伴奏など多様な演奏活動に対応できる力
- 広い視野を持って自らを成長させる力

## 教員

I.チュコフスカヤ	CHUKOVSKAYA,Irina	客員教授	ピアノ
熊谷 恵美子	KUMAGAI, Emiko	教授	ピアノ
北住 淳	KITAZUMI, Atsushi	教授	ピアノ
掛谷 勇三	KAKEYA, Yuzo	教授	ピアノ
内本 久美	UCHIMOTO, Kumi	准教授	ピアノ
鈴木 謙一郎	SUZUKI, Kenichiro	准教授	ピアノ
中尾 純	NAKAO, Jun	准教授	ピアノ
武内 俊之	TAKEUCHI, Toshiyuki	准教授	ピアノ

## 非常勤講師

秋場 敬浩／朝川 万里／伊藤 隆之／伊藤 わか奈／奥村 理恵／川井 綾子／小坂 圭太／榊原 涼子／進藤 郁子／高橋 孝輔／田中 ゆりあ／田村 明子／鶴見 彩／戸崎 由香／永岡 信幸／中畑 淳／廣瀬 啓子／松本 総一郎／宮代 尚子／宮本 いずみ／米川 幸余／安井 直子(チェンバロ)／吉田 恵(オルガン)



# カリキュラム

## 教育課程の編成方針

一対一の個人指導による専門実技授業、伴奏や室内楽などのアンサンブル授業、多くの演奏体験、そして音楽に関する専門知識を修得する理論系授業、これらによってピアノ奏者として必要な表現力と知識及び自らを成長させてゆく力を身につけられるようカリキュラムを編成します。

## 具体的なカリキュラム構成と特徴

1年次から4年間一貫して行われる充実した個人レッスンで各自の実力と個性を伸ばすための学習を行います。

- 毎年度、学内の演奏会場にて演奏試験を行い、専門実技の学修成果を評価します。試験課題はバロック、古典派、ロマン派、近現代と、4年間で様々な時代様式の作品を学びます。
- 3年次では任意のピアノ協奏曲全楽章を課題とする実技試験、及

び30分以内の独奏作品を演奏する「学内発表」が必修とされ、演奏経験を通して専門能力の向上を図ります。

- また歌曲／器楽伴奏法、ピアノ合奏、室内楽、といったアンサンブル実習授業も設け、色々な視点から演奏を考察、実践して応用力を身につけるとともに、外国人客員教授や外来のアーティストによるレッスンや特別講座、提携校への派遣留学制度などにより、国際的な学修経験を積む機会が設けられています。

音楽学部専門教育科目				基礎教育科目		教養教育科目
専攻科目				関連科目		
一年次	ピアノ奏法の研究Ⅰ ・実技レッスン	伴奏法・歌曲 ・声楽の表現法を学びつつ、声楽作品の伴奏に必要な要素を学ぶ。オペラアリア、歌曲の伴奏におけるテキスト理解、ピアノ書法の解釈、演奏上の注意点を学習する。	和声Ⅰ ・3和音の基本形、第1・第2転回形、属七の基本形、第1・第2・第3転回形を学びながら、メロディーとベースラインの関係も理解する。	ソルフェージュA、B ・基礎的な聴音、初見視唱、様々な音楽の仕組みや形を把握する力を養う。		日本語音楽史概説  西洋音楽史概説A・B ・西洋音楽史の基礎を把握し、各時代の音楽を理解する。Aではバロック時代までの、Bでは古典派以降の音楽を取り上げる。
二年次	ピアノ奏法の研究Ⅱ ・実技レッスン	伴奏法・器楽曲 ・「器楽伴奏」の基本的な演奏法・知識を学び、さらにアンサンブル的アプローチ、「リダクション伴奏的」アプローチの両面から、ピアノ伴奏の諸形態に必要な読譜力、理解力を養う。	和声Ⅱ ・転調や借用和音、属七以外の4和音・5和音と転位音を実習して学び、実際の楽曲の和声分析も行う。	ソルフェージュC、D ・ピアノ演奏に必要な、読譜と結びついた音の聴取について、ピアノメソードの演奏実践・創作を通して学ぶ。	ピアノ合奏	コンピュータ音楽／日本音楽演習／オペラ総論／音楽史特講／音楽心理学／音楽療法／音楽民族学概論／ポピュラー音楽概論／アート・マネジメント／楽書講読／音楽芸術言語
三年次	ピアノ奏法の研究Ⅲ ・実技レッスン	対位法 ・旋律と対旋律の関係性を理解する。	楽式論 ・楽曲区分法・構成法（一部形式からソナタ形式まで）を学ぶ。	学内発表		音楽学概説 ・音楽に関するさまざまな研究方法について学ぶ。
四年次	ピアノ奏法の研究Ⅳ ・実技レッスン	卒業演奏				英語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 身体運動・健康科学 情報科学 心理学 芸術論 ほか
						スコアリーディング／楽器研究(弦・管打)Ⅳ／楽器研究(鍵盤)Ⅱ／室内楽Ⅱ

## 卒業後の進路

### [就職等]

愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋音楽大学、北海道教育大学、横浜国立大学、聖徳大学、郡山女子大学、東京音楽大学、国立音楽大学、玉川大学、富山大学、金沢大学、岡崎女子短期大学、愛知学泉女子短期大学、市邨学園短期大学、名古屋女子大学、日本福祉大学、金城学院大学、柳城女子短期大学、桜花学園短期大学、岐阜大学、龍谷大学、京都女子大学、相愛大学、鈴鹿国際大学、大阪音楽大学、大阪芸術大学、兵庫教育大学、兵庫大学、岡山大学、ノートルダム清心女子大学、くらしき作陽大学、エリザベト音楽大学、山口大学、下関女子短期大学、沖縄県立芸術大学、菊里高等学校、明和高等学校、豊橋桜丘高等学校、岡崎学園高等学校、同朋高等学校、加納高等学校、鶯谷高等学校、大阪夕陽ヶ丘高等学校、京都芸術高等学校等

ザルツブルク音楽院(オーストリア)、エコール・ノルマル音楽院(フランス)、ハノーファー音楽大学(ドイツ)、リスト音楽院(ハンガリー)、ヴュルツブルク音楽大学(ドイツ)、シンシナティ音楽院(アメリカ)、カリフォルニア大学(アメリカ)、ニューヨーク・マンハッタン音楽院(アメリカ)等

### [留学等]

ドイツ、オーストリア、ハンガリー、フランス、イタリア、アメリカ等の音楽大学・音楽院多数

### [その他]

ピアニスト、ピアノ指導者多数

## 活躍する卒業生



### 多賀 絵里

2003年器楽専攻(ピアノコース)を卒業後、渡仏。スイスのジュネーブ音楽院コンサーティストコースに入学し、最優秀の成績でディプロムを取得。その後、同音楽院にて研鑽を積み、最優秀の成績で修了。2003年アゼリア推薦新人演奏会最優秀賞、2005年テレザ・ヤクーナ国際コンクール(フランス)第1位。現在、フランスに在住し、“Ensemble Artefact”のメンバーとして活動している。



### 大瀧 拓哉

2010年器楽専攻(ピアノコース)を主席で卒業、桑原賞受賞。在学中から国内外のコンクールに出場し、2006年中部ショパン学生ピアノコンクール大学生部門金賞・中日賞受賞の他、2006年ペトロフピアノコンクール大学一般部門第2位、2010年野島稔・よこすかピアノコンクール第3位、2011年マリア・カナルス・バルセロナ国際音楽コンクールメダル受賞、2016年第12回オルレアン国際ピアノコンクール第1位ブランシュ・セルヴァ賞受賞など。2012年大学院博士前期課程を修了。



### 扶瀬 絵梨奈

2010年器楽専攻(ピアノコース)を卒業。2004年ピティナピアノコンペティション全国決勝大会銅賞、2006年彩明ムジカコンソルソ最高位、第28回大幸財団育英奨学生など。2009年・2010年と本学の定期演奏会に出演。また、2010年に中部読売新人演奏会や本学の卒業演奏会に出演。大学院博士前期課程に在学を経て2011年秋よりEcole Normale de Musique de Parisへ留学。Lagny-sur-Marne国際ピアノコンクール第3位(フランス)。



### 高橋 早紀子

器楽専攻(ピアノコース)卒業。同大学大学院博士前期課程修了。在学中より学内外で多数の演奏会に出演し、オーケストラとの共演など、注目を集める。ピアノソロの他、伴奏者、室内楽奏者、コレパティトゥアとしても活躍。第15回春日井市ピアノコンクール(一般の部)第1位。2012年9月より、ハンガリー国立リスト音楽院に留学。2014年第6回バルトーク国際ピアノコンクール(セゲド)特別賞受賞。



### 三上 絵里香

器楽専攻(ピアノコース)卒業、大学院博士前期課程修了。2008年大阪国際音楽コンクールコンチェルトオーディション部門第3位(1位なし)。2011年ハイメスコンクール第1位、第3回北野財団奨学生。ハンガリー「ブダペスト春の音楽祭」の他、国内外でソロ、アンサンブルで演奏活動を行う。2012年から1年間ケルン音楽大学への交換留学を経て、2013年ミュンヘン国立音楽大学へ留学。2013年ミュンヘンスタインウェイ賞を受賞。2016年Musikpreis Kulturkreis Gasteig(ミュンヘン)第1位受賞。



### 福本 真弓

2015年大学院博士前期課程修了。第22回、第23回日本クラシック音楽コンクール一般の部第5位。第20回国際ピアノフェスティバルin知多大学生一般の部第3位。2014年ドイツMurrhardで行われた国際ピアノアカデミーにてディプロマ取得。ピアノソロの他、伴奏や室内楽にも意欲的に取り組み、在学中に、客員教授のデヴィッド・ノーラン教授(ヴァイオリン)と共演。2014年春より、交換留学生としてケルン音楽大学(ドイツ)へ留学。



アーティスト・イン・レジデンス2018  
ケヴィン・ケナー 公開レッスン



定期演奏会



ピアノコース公開授業  
カルロス・ロドリゲス レクチャー・コンサート



ピアノ奏法の研究(実技レッスン)



授業の様子(学部3年「ピアノ指導法」)



ヨーロッパ各国の音楽大学教授陣  
来校(学校紹介&懇談会)

## 入試

### 求める人物像

- 視野を広く持ち、実力を伸ばすために精進できる人
- 音楽への興味を持ち、ピアノ演奏を通して音楽芸術全般に積極的に関与したい人

### 入学前に身につけてほしい学習成果

- 基礎的な演奏表現能力(音楽に対する感受性、表現力、演奏技術、暗譜力、読譜力) 日々の練習の際に心がけてほしい点(参考例)
  - 音に対する感性を大切にした勉強
  - 感じたことを表現しようとする姿勢
  - 音階、アルペジオをはじめとする継続的な基礎技術の学習
  - できる限り多くの作品を勉強すること
  - 様々なジャンルのクラシック音楽に親しむこと
- 音楽の基礎的能力(ソルフェージュと楽典の基礎)
- 基礎的な学力・・・外国語や一般教科の学習にもできる限り力を入れて下さい。

# 器楽専攻 弦楽器コース

instrumental Music (Strings)

■音楽学部 ■音楽科 ■器楽専攻 ■弦楽器コース

## コース概要

世の中の移り変わりと関係なく、音楽は人の心に働きかけ、精神を豊かにするかけがえのない存在であり続けています。弦楽器コースでは、音楽を学ぶ学生たちがその内容の奥深さを感じ取り、核心に触れる研究の積み重ねによって、演奏家として或いは教育者として立派に成長してくれることを願い、国際的に評価の高い外国人客員教授をはじめ、演奏・教育両面で経験豊富な教師陣が指導を行なっています。

## 人材育成目標

以下に挙げる人材の育成を目指しています。

- プロフェッショナルな演奏家や指導者、教育者として自ら成長・発展していく力を身につけた人
- 音楽芸術の発展に寄与し、国際感覚を持ち、広く社会に貢献できる人

## 卒業までに身につけるべき資質・能力

- 専門家としての高い演奏技術と知識、豊かな表現能力
- 音楽作品に対する深い洞察力
- 独奏、アンサンブル、オーケストラなど、多様な音楽場面で活躍出来る力
- 自主性を持って自己を成長、発展させてゆく力
- 国際性と教養

## 教員

松尾 葉子	MATSUO, Yoko	客員教授	オーケストラ	2019年4月～2019年9月
高関 健	TAKASEKI, Ken	客員教授	オーケストラ	2019年10月～2020年3月
フェデリコ・アゴ스티ーニ	AGOSTINI, Federico	客員教授	ヴァイオリン	
福本 泰之	FUKUMOTO, Yasuyuki	教 授	ヴァイオリン	
白石 禮子	SHIRAIISHI, Reiko	教 授	ヴァイオリン	
桐山 建志	KIRIYAMA, Takeshi	教 授	ヴァイオリン	
花崎 薫	HANAZAKI, Kaoru	教 授	チェロ	
渡邊 玲雄	WATANABE, Reo	准 教 授	コントラバス	

## 非常勤講師

沼田 園子(ヴァイオリン) / 日比 浩一(ヴァイオリン) / 植村 太郎(ヴァイオリン) / 百武 由紀(ヴィオラ) / 野村 友紀(チェロ) / 木村 茉莉(ハープ) / 天野 武子(室内楽) / 平光 真彌(室内楽・楽器研究) / L. カンタ(楽器研究) / 石橋 直子(楽器研究) / 山際 奈津香(楽器研究) / 杉山 怜(楽器研究) / 小森 康弘(オーケストラ) / 太田 弦(オーケストラ)

## 専攻サイト

<http://strings.aichi-fam-u.ac.jp>



# カリキュラム

## 教育課程の編成方針

個人実技レッスン、室内楽、弦楽合奏、オーケストラなどのアンサンブル系の授業を中心に、基礎の徹底から多くの演奏体験などにより、洞察力を持ったプロフェッショナルな表現力、応用力の習得ができるようなカリキュラムを編成しています。

## 具体的なカリキュラム構成と特徴

1年次より4年間一貫して行われる充実した個人レッスンと同時に、アンサンブル教育の重視がコースの特徴です。

●弦楽四重奏を中心とした弦楽器コースの授業でアンサンブルの基礎を学び、より規模の大きなアンサンブルである弦楽合奏、さらにオーケストラの授業へと発展させていくことで、より深く音楽の本質を学ぶと同時に、主体性をもって多様な人々と協働して学

ぶ態度を身につけます。

●室内楽・弦楽合奏・オーケストラそれぞれにおける定期演奏会・学内演奏会などの多くの演奏機会により演奏家としての経験と姿勢を学び、さらに外来のアーティストによるレッスンや共演、提携校への派遣留学制度などにより、国際的な学修経験を積む機会が設けられています。

音楽学部専門教育科目					基礎教育科目		教養教育科目	
専攻科目・関連科目								
一年次				ピアノ奏法Ⅰ ソルフェージュA、B 和声Ⅰ	楽器研究(弦)Ⅰ/ 日本音楽史概説	日本音楽史概説 西洋音楽史概説		
二年次	弦楽器奏法の研究Ⅰ-Ⅳ ・1年次では、まず基礎技術を整えることに主眼を置き、4年間でバロックから近現代までの作品の研究ができるよう配慮しつつ、演奏能力、表現力を養う。 ・学内演奏会、定期演奏会、卒業演奏会で研究発表を行う。	室内楽Ⅰ-Ⅳ ・アンサンブル教育の根幹をなすもので、弦楽四重奏が中心。音程の合わせ方や響きの作り方、緻密で豊かな表現を養う。 ・1年次でハイドン等、2年次ではモーツァルト等の作品、3-4年次ではクラシックから近現代までの作品を自由選択する。コントラバスは二〜四重奏や他の楽器との組み合わせによる室内楽曲、ハープは他の弦楽器、管楽器との室内楽曲を取り上げる。 ・2月に定期演奏会を行う。	弦楽合奏Ⅰ-Ⅳ ・各パートの分奏やトップ分奏を丁寧に行い、室内楽を拡大したような緻密な弦楽アンサンブルを目指す。1-2年が必修で、3-4年が選択。これまでにバルトーク「弦楽のためのディヴェルティメント」、ブリテン「F.ブリッジの主題による変奏曲」、シューベルト(マーラー編曲)「死と乙女」、メンデルスゾーン「弦楽のための交響曲」、ヘンデル「合奏協奏曲」などを演奏。 ・1月に定期演奏会を行う。	オーケストラⅠ-Ⅳ ・第一線で活躍する指揮者のもと、プロのオーケストラ同様に行われるリハーサルが授業の基本。 ・他に弦楽器、管打楽器の教員も指導スタッフとして加わる。 ・定期演奏会、春と秋の特別演奏会、9月のポピュラークラシックコンサートなど1年間で多くのプログラムを演奏する。 ・基本的に2年次からの履修とする。	ピアノ奏法Ⅱ 和声Ⅱ ソルフェージュC	ソルフェージュD/キーボードハーモニー/スコアリーダーディング/コンピュータ音楽/日本音楽演習/音楽史特講/音楽心理学/音楽療法/音楽民族学概論/ポピュラー音楽概論/アートマネジメント/楽器研究(弦)Ⅱ/音楽芸術言語		英語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 身体運動・健康科学 情報科学 心理学 芸術論 ほか
三年次				学内発表	ピアノ奏法Ⅲ/指揮法/声楽/合唱/楽式論/対位法/音楽学特講/オペラ総論/音楽特講/音声学/楽器学/管弦楽法/楽曲研究Ⅲ/楽書講読/ピアノ指導法/楽器研究(鍵盤)Ⅰ/楽器研究(弦)Ⅲ/楽器研究(管打)Ⅲ	音楽学概説		
四年次					楽器研究(弦)Ⅳ/楽器研究(管打)Ⅳ/ピアノ奏法Ⅳ/楽器研究(鍵盤)Ⅱ			
卒業演奏(4年間の学修の集大成としての演奏を行う。)								

## 卒業後の進路

卒業後はソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者(コンサートマスター、パート首席奏者、Tutti奏者)等、演奏家として活躍する他、音楽大学・高校の教員、音楽教室の講師として活動する等、多様な進路があります。

又、博士前・後期課程進学或いは海外留学等の道もあります。

### [就職等]

ブレーメンフィルハーモニー管弦楽団、ハンブルクシンフォニー交響楽団、アーヘン市立交響楽団、トリアー市立管弦楽団、国立パリ管弦楽団、フランス国立ロワール管弦楽団、プラハ国立歌劇場管弦楽団、香港フィルハーモニックオーケストラ、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、中部フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、オーケストラアンサンブル金沢、仙台フィルハーモニー管弦楽団、山形交響楽団、群馬交響楽団、京都市交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、大阪フィルハーモニー、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪シンフォニカー交響楽団、京都市交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団、九州交響楽団、札幌交響楽団、藝大フィルハーモニア(東京藝術大学管弦楽研究部)、名古屋音楽学校、ヤマハ音楽教室等各地の音楽教室等

### [教員]

愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、琉球大学、福島大学、その他各地の音楽高等学校、一般高等学校

### [進学]

愛知県立芸術大学大学院、その他の国内外の芸術系・教育系大学院

### [留学等]

ドイツ、フランス、オーストリア、アメリカ、イギリス、フィンランド、スウェーデンの各音楽大学等

## 活躍する卒業生



山崎 裕幸  
ブレーメンフィルハーモニー管弦楽団首席コントラバス奏者

1978年広島県福山市生まれ。13歳よりコントラバスを始める。愛知県立芸術大学卒業。桑原賞、及び松原桃子賞受賞。その後、ケルン音楽大学にて研鑽を積む。

ソリストとしては、これまでに、ブレーメン・フィルハーモニー管弦楽団、シンフォニアコンチエルトアンテ・ブレーメン、広島交響楽団、リゾナーレ高原音楽祭、ワイマール・ナショナル劇場、等と競演。Kreis Zeitung紙「コントラバスからフレキシブルな、歌のようなきれいな音色が響くことをだれが想像したであろうか。山崎裕幸氏による最高の演奏は、その楽器から緊密な雰囲気や様々な顔を持つ歌手の姿を提示してくれた…」と高い評価を得る。

2009年、2011年イタリア・クネオ市のコンセルヴァトリウムにてマスタークラス及びリサイタルを開催。

オーケストラ奏者としては、ルツェルン祝祭管、ザルツブルグ・モーツァルト週間や東京のオペラの森、サイトウ・キネン・オーケストラ等に出演。

首席奏者としてはマーラー室内管、トスカニーニ・フィル(イタリア)、スタヴァンガー響(ノルウェー)、ドイツ・カンマーフィル・ブレーメン等で出演。

クラウディオ・アバドや、ロリン・マゼール、小澤征爾、ロストロポーヴィッチ、マックスウェル・デイヴィス、クリストファー・ホグウッド、ダニエル・ハーディング、ロビン・ティチャアッティ、マーカス・ボシュナーらと共演。

2005年よりブレーメンフィルハーモニー管弦楽団首席コントラバス奏者。



平光 真彌  
愛知室内オーケストラ・コンサートマスター  
本学非常勤講師

岐阜県立加納高等学校音楽科を経て、愛知県立芸術大学音楽学部卒業。2005年、同大学大学院音楽研究科修了。中村桃子賞受賞。ヴァイオリンを青山泰宏、大久保ナオミ、福本泰之、Ewald Danel、服部芳子の各氏に師事。指揮を紙谷一衛氏に師事。第11回日本クラシック音楽コンクール第3位。第1回宗次ホール弦楽四重奏コンクール第1位。併せて、聴衆賞、オーナー賞も獲得。2007年2010年及び2012年、小淵沢室内楽セミナーにて最優秀カルテットとして「緑の風 音楽賞」受賞。2012年には講師特別賞も同時受賞。これまでにソリストとして、オーケストラとプラームスの二重協奏曲や、ベートーヴェン、メンデルスゾーン、チャイコフスキー、シベリウス等のヴァイオリン協奏曲を演奏。オーケストラはブルガリア国立ソフィアフィルハーモニックオーケストラ、プラハ放送交響楽団、ウクライナチェルニーゴフオーケストラ等。在学中、2000年から岐阜管弦楽団、2004年から愛知室内オーケストラのコンサートマスターを務める他、神戸室内合奏団、中部フィルハーモニー交響楽団などの客演コンサートマスターを務める。その他、ソロ、室内楽の分野でも中部地方を中心とし、積極的に演奏活動を行っており、クラシック音楽を親しみやすくより身近に感じてもらうために、サロンコンサートを精力的に行い地域に根ざした音楽活動を展開している。愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学非常勤講師。2018年愛知県芸術文化選奨新人賞を受賞。

## 在学生の声



新井 千晶  
音楽学部器楽専攻弦楽器コース4年

愛知県立芸術大学の授業は、ソロをはじめ充実した実技系のカリキュラムと、先生方との距離感の近さも魅力の1つと私は感じています。室内楽や弦楽合奏、オーケストラの授業では、自分の師事している先生はもちろん、様々な先生方からも親身なご指導を頂け、自分の中に今までになかった新しい見方や発見があり、より音楽の表現の幅が広がられました。また同級生だけでなく、先輩や後輩とも関わる機会も多いので、常に良い刺激の中で自分を高められ、日々が充実しています。



長谷川 彰子

愛知県立芸術大学を首席で卒業。桑

原賞、併せて中村桃子賞受賞。2006年度日本演奏連盟主催新人演奏会に出演し名古屋フィルハーモニー交響楽団とコンチエルトを共演する。大幸財団より奨学金を受ける。2007年リゾナーレ室内楽セミナーにて音楽賞受賞。サイトウキネン若い人のための室内楽勉強会に参加。第77回日本音楽コンクール第3位。2010年9月よりロームミュージックファンデーションより奨学金を受けライブツィヒ音楽大学へ留学。東京芸術大学修士課程首席卒業。ライブツィヒ音楽大学を最高点で卒業。バーデン州立歌劇場にて研修生として1年在籍。日本に帰国後は、東京、大阪、名古屋など各地で数多くの演奏会に出演し、ソリスト、オーケストラ奏者、室内楽奏者として幅広く活動している。これまでに中島颯、天野武子、河野文昭、山崎伸子、ペーター・ヘルの各氏に師事。九州交響楽団元首席チェロ奏者。



中村 洋乃理  
NHK交響楽団  
ヴィオラ奏者

岡山県岡岡市生まれ。愛知県立芸術大学を経て、東京藝術大学大学院研究科修士課程修了。第8回日本演奏家コンクール最高位受賞。「文化庁舞台芸術フェスティバル・日韓の若い音楽家によるオーケストラ特別演奏会」の日本、韓国公演に首席奏者として参加。ブレールカルテットのメンバーとしても活動。2011年国際音楽祭「ヤング・プラハ」に招かれ、ヤング・プラハ・フェスティバル・カルテットとしてチェコ各地にて演奏。2014年日本では珍しい、ヴィオラ奏者 四人による「Alto de Campagne」を結成し、岡山、鳥取、兵庫、東京での演奏会を毎年開催している。また愛知県立芸術大学の友人達とピアノ五重奏団「パルテンツァ五重奏団」を結成し、毎年名古屋の電気文化会館で演奏会を開催している。2007年から2014年まで東京フィルハーモニー交響楽団フォアシュペラーを務めた。2015年NHK交響楽団入団。現在、次席奏者。ヴィオラカルテット Alto de Campagne、パルテンツァ五重奏団、ナガノチェンバーオーケストラメンバー、横浜シンフォニエッタシーズンメンバー。これまでにヴィオラを江島幹雄、百武由紀、川崎和憲の各氏に師事。



向井 真帆  
大学院音楽研究科博士前期課程弦楽器領域2年

私は今、大学の交換留学制度を利用してケルン音楽大学に留学しています。先生方、先輩方からたくさんのアドバイスやサポートをしていただき、お人柄も演奏も本当に素晴らしい先生と出会うことができました。1年間という留学としては短い期間ではありますが、ドイツの文化を実際に体験でき、毎日新鮮な日々を送っています。愛知芸大では協定校から先生方を招き、公開レッスンや演奏会などが行われています。更に、交換留学というチャンスもあり、挑戦できる場が沢山あると思います。私は現在大学院2年生になりますが、大学での多くの経験がこれからの音楽につながっていくと信じています。



オーケストラ定期演奏会  
(愛知県芸術劇場コンサートホール)



2018年度定期演奏会  
(愛知県芸術劇場コンサートホール)



弦楽合奏定期演奏会  
(三井住友海上しらかわホール)



アーティスト・イン・レジデンス2017・  
シュヴァイカー教授室内楽公開レッスン



室内楽の夕べ演奏会  
(電気文化会館 ザ コンサートホール)



実技レッスン(レッスン室)



実技レッスン(レッスン室)

## 入試

### 求める人物像

- 演奏家としての資質と技術を備えている人
- 将来音楽界、芸術教育界を担うべく意欲旺盛な人
- より高い技術やより深い音楽性を貪欲に求める人
- アンサンブルなど共同での演奏に関心のある人
- 自然を愛し、豊かな感受性、想像力を備えている人

### 入学前に身につけてほしい学習成果

- 専門実技能力
  - 音に対する感性を大切にした勉強
  - 感じたことを表現しようとする姿勢
  - 音階・練習曲等、基礎技術の学習
  - 様々な時代様式の作品の勉強
- 音楽の基礎的能力(ソルフェージュ、ピアノ、楽典)
- 基礎的な学力、語学力

# 器楽専攻 管打楽器コース

Instrumental Music (Winds and Percussion)

■音楽学部 ■音楽科 ■器楽専攻 ■管打楽器コース

## コース概要

人間が植物の茎を吹けば音を発し、また木を打ち合わせれば音が出る事を発見した瞬間から、21世紀へ…。この間に人間の叡智と音の「美」と「色彩」の多様性への強い憧れが今日の音楽界における管打楽器の姿を生み出したことは確かな事でしょう。特に我が国のここ半世紀における管打楽器界の発展は他にその類を見ないといえます。

## 人材育成目標

以下に挙げる人材の育成を目指しています。

- あらゆる演奏形態に対応する演奏技術ならびに表現方法を修得し、豊かな感性と創造性に満ちた活動を行う能力をもった人材
- ソリスト・室内楽奏者・オーケストラ奏者等の演奏活動、また教育者・指導者としての活動を通じて広く社会貢献し得る人材

## 卒業までに身につけるべき資質・能力

- 独奏、アンサンブル、オーケストラなど多様な演奏活動に対応できる力
- 豊かな感性と創造性

## 教員

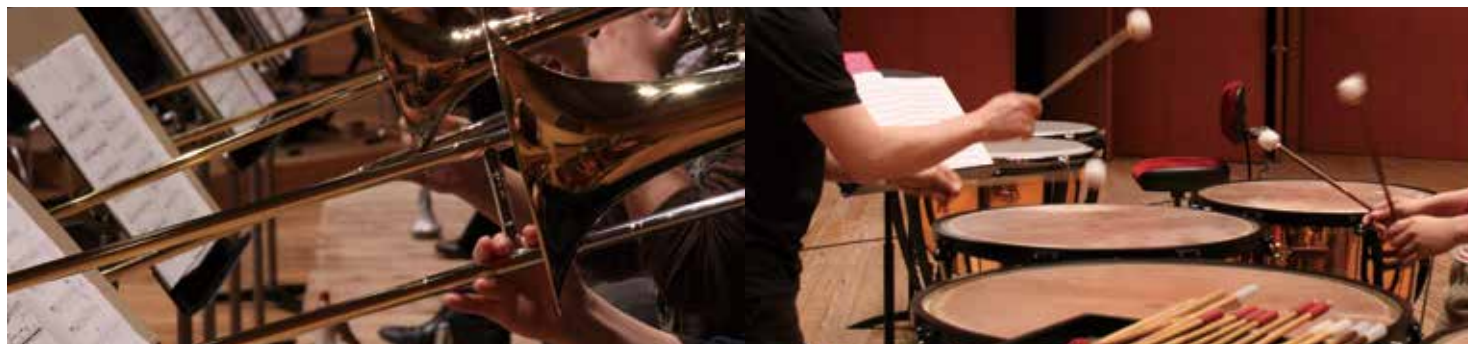
松尾 葉子	MATSUO, Yoko	客員教授	オーケストラ	2019年4月～2020年9月
高関 健	TAKASEKI, Ken	客員教授	オーケストラ	2019年10月～2020年3月
杉木 峯夫	SUGIKI, Mineo	特任教授	トランペット	
橋本 岳人	HASHIMOTO, Taketo	准教授	フルート	
ト・ブルックス・ノブオ	THON, Brooks, Nobuo	准教授	クラリネット	
井上 圭	INOUE, Kei	准教授	トランペット	
倉田 寛	KURATA, Hiroshi	教授	トロンボーン	
深町 浩司	FUKAMACHI, Koji	教授	打楽器	

## 非常勤講師

岡 北斗(オーボエ) / 杉原 由希子(オーボエ) /  
梶川 真歩(フルート) / 青谷 良明(ファゴット) /  
田中 靖人(サクソフォーン) / 西條 貴人(ホルン) /  
野々口 義典(ホルン) / 笠野 望(バス・トロンボーン) /  
露木 薫(ユーフォニアム) / 林 裕人(チューバ) /  
小森 邦彦(マリンバ・室内楽) / 小森 康弘(オーケストラ) /  
太田 弦(オーケストラ) / 杉浦 邦弘(管打学基礎) / 矢澤 定明(管楽合奏) /  
丹下 聡子(合奏・楽器研究) / ゲオルギ・シャシコフ(室内楽) /  
上田 仁(室内楽) / ロバート・ボルショス(室内楽)

## 専攻サイト

<http://wind-perc.aichi-fam-u.ac.jp>



# カリキュラム

## 教育課程の編成方針

一対一の個人レッスンによる充実した専門実技授業と室内楽からオーケストラまで大小様々な規模のアンサンブル実習授業により、あらゆる演奏形態に対応する演奏技術と表現方法を身につけられるようカリキュラムを編成します。

## 具体的なカリキュラム構成と特徴

- 個人レッスン形式の専門実技授業「管打楽器奏法の研究」、楽器の専門知識を学ぶ「管打学基礎」、アンサンブルを行う「室内楽」、ウィンドオーケストラの実習授業「管楽合奏」、弦楽器コースと共同で行う「オーケストラ」を5つの柱として、あらゆる演奏形態に対応する演奏技術・表現方法を修得します。
- 特に、本学最大の合奏授業である「オーケストラ」では、学部・大学院生全員で授業を行い、曲ごとの演奏者は年次に関りなく教員に

より指名され、下級生と上級生が混ざって合奏を行うことでお互いに大きな刺激を与え合います。また教員と一緒に演奏することで、その場で素早くアドバイスを受けられ、音楽を肌で感じ取り、多くのことを学んでいきます。

- また、外来のアーティストによるレッスンや特別講座、提携校への派遣留学制度などにより、国際的な学修経験を積む機会が設けられています。

音楽学部専門教育科目				基礎教育科目		教養教育科目		
専攻科目・関連科目								
一年次	管打楽器奏法の研究Ⅰ ・実技レッスン	管打学基礎Ⅰ ・自分の専門以外の楽器について、その歴史・構造・奏法や記譜法の特徴などを学び、4声体を素材として数種の楽器を含む曲にアレンジし、演奏を演奏します。	室内楽Ⅰ-Ⅳ ・アンサンブルの中において個々の役割を認識、ハーモニー感の習得、異なる楽器編成でのバランス感覚などを養います。木管・金管・打楽器に分かれて授業を行います。楽器の種類をまたいだ複合アンサンブルも実践しています。	管楽合奏Ⅰ-Ⅳ ・吹奏楽のためのオリジナル作品、オーケストラ曲のアレンジ作品、小編成の管楽合奏曲など幅広いジャンルを取り上げます。・楽器セッティング、舞台設営(ステージスタッフ)、楽譜管理(ライブラリアン)などは、教員のサポートのもと全て学生が行いながら、実際のプロオーケストラの仕事現場に即した経験を積んでいきます。	ピアノ奏法Ⅰ	ソルフェージュA、B	和声Ⅰ	
	管打楽器奏法の研究Ⅱ ・実技レッスン	管打学基礎Ⅱ ・さらに大きな編成(ウインドバンド)のアレンジを実践します。発表される曲について議論も行います。	○木管楽器 各楽器の特殊性を念頭に置き、アンサンブルのための基本的な能力を身につけるための合奏法を学びます。	○金管楽器 多様な編成のアンサンブルを取り上げ、個々の音楽表現を深めています。	ピアノ奏法Ⅱ	ソルフェージュC、D	和声Ⅱ	
	管打楽器奏法の研究Ⅲ ・実技レッスン		○打楽器 現代作品を中心に取り上げ、様々な奏法を身につけます。またオーケストラ曲の打楽器パートを取りあげ、奏法の研究を行います。	・11月に行われる定期演奏会を含め、年に4回の公演を通じて、数多くの楽曲を限られた時間で仕上げる実践を行います。・演奏パートは教員が決定し年功にとらわれることなく上級生・下級生が混ざりあい合奏を行っています。	キーボードハーモニー / スコアリーディング / コンピュータ音楽 / 日本音楽演習 / オペラ総論 / 音楽史特講 / 音楽心理学 / 音楽療法 / 音楽民族学 / 音楽概論 / ボビュラー音楽 / アート・マネジメント / 音楽芸術言語	ピアノ奏法Ⅲ / 指揮法 / 声楽 / 合唱 / 楽式論 / 対位法 / 音楽学特講 / 音楽特講 / 音声学 / 楽器学 / 管弦楽法 / 楽曲研究 / 楽書講読 / ピアノ指導法 / 楽器研究(鍵盤)Ⅰ / 楽器研究(弦)Ⅲ		
	管打楽器奏法の研究Ⅳ ・実技レッスン	学内発表 ・ソロコンサート形式の演奏会です。			ピアノ奏法Ⅳ / 楽器研究(鍵盤)Ⅱ / 楽器研究(弦)Ⅳ			
卒業演奏(管打楽器奏法の研究を含む「5つの柱」で学び得たことの集大成として、ソロ演奏を行います。)								
				西洋音楽史概説 A・B ・西洋音楽史の基礎を把握し、各時代の音楽を理解する。Aではバロック時代までの、Bでは古典派以降の音楽を取り上げる。		英語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 身体運動・健康科学 情報科学 心理学 芸術論 ほか		

## 卒業後の進路

世界的なソリストとして欧米の著名オーケストラや指揮者と共演し活躍、自己のアンサンブルを率い積極的な活動を展開、Jaza/Pops業界でライブ活動や独自のプロジェクトを展開するなど、個性豊かなアーティストを数多く輩出しています。

### [演奏団体]

新日本フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、山形交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団、藝大フィルハーモニア(東京藝術大学管弦楽研究部)、中部フィルハーモニー交響楽団、愛知室内オーケストラ、ドルトムント歌劇場管弦楽団、フィンランド放送交響楽団、ベルン交響楽団、香港フィルハーモニー交響楽団、香港シンフォニエッタ、中国広州シンフォニーオーケストラ、大阪市音楽団、愛知県警察音楽隊、静岡県警察音楽隊、神奈川県警察音楽隊、航空自衛隊中央音楽隊、海上自衛隊東京音楽隊

### [就職]

三井住友海上しらかわホール、ヤマハ株式会社、株式会社ヤマハミュージック名古屋、村松楽器販売株式会社、アカデミア・ミュージック株式会社、東京二期会マネジメント事業部、日本生命、慶應病院

### [教員]

愛知県立芸術大学、名古屋音楽大学、大阪音楽大学、相愛大学、その他各地の音楽大学、音楽高校、中学校、小学校教員多数

### [進学]

愛知県立芸術大学大学院、その他の国内外の芸術系、教育系大学院

### [留学等]

ミュンヘン・リヒャルト・シュトラウス音楽大学、リヒャルト・シュトラウス音楽院、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学、ワイマール・フランツ・リスト音楽大学、デトモルト音楽大学、パリ音楽院、アムステルダム音楽院、ボストン音楽院、ウィーン国立芸術大学、アントン・ブルックナー音楽大学

## 活躍する卒業生



竹生 桃 オーボエ奏者

本学音楽学部器楽科管打楽器専攻を最優秀で卒業。卒業演奏会出演。桑原賞受賞。桐朋学園大学研究科修了。2013年小澤征爾音楽塾オーケストラプロジェクトに参加。2014年日演連新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ オーディションに合格し札幌交響楽団とリヒャルト・シュトラウス作曲オーボエ協奏曲を協演。これまでにオーボエを高井明、和久井仁、浦丈彦、嶋崎耕三、各氏に師事。室内楽を村田四郎、原田綾子、磯部周平、青谷良明、岡本正之、亀井良信 各氏に師事。現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団オーボエ奏者。



小助川 大河 ホルン奏者

北海道札幌市出身。2004年愛知県立芸術大学音楽学部入学、2008年3月同大学を卒業し2009年4月渡独。その後ワイマール・フランツリスト音楽大学に入学、2014年9月卒業、ディプロムの称号を習得し帰国。シュターツカペレ・ワイマール元契約団員。2015年4月より愛知県を拠点にフリーランスとして国内での音楽活動を再開、同年セントラル愛知交響楽団に契約団員として入団。2017年12月より東京佼成ウインドオーケストラ団員。ホルンを橋本敦、大野良雄、Ralf Ludwig、Prof.Jörg Brückner、Eckhard Rungeの各氏に師事。講習会にてEngelbert Schmid、Philip Myers、Friedrich Ketschau、山岸博の各氏に指導を受ける。



鈴木 一成 ファゴット奏者

2009年本学音楽学部器楽専攻管打楽器コース卒業。第40回卒業演奏会出演。2011年桐朋学園大学研究生修了。第147回日演連主催新人演奏会出演、中日賞受賞。NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」出演。第30回日本管打楽器コンクールファゴット部門第5位入選。第33回同コンクール第4位入選。第13回東京音楽コンクール木管部門第1位。第29回宝塚ベガ音楽コンクール木管部門第1位、兵庫県知事賞受賞。ソリストとして名古屋フィル、神奈川フィル、新日本フィル、東京フィルと共演。ファゴットを青谷良明、岡本正之の各氏に師事。新日本フィルハーモニー交響楽団の契約団員を1年間務め、2013年5月より神奈川フィルハーモニー管弦楽団、2015年度よりTHE ORCHESTRA JAPAN各首席ファゴット奏者。



笠野 望 バストロンボーン奏者

本学卒業。ニューイングランド音楽院修了。Schleswig-Holstein Music Festival 2009, Tanglewood Music Center 2010に参加。ITF2008 in Arhus Bass Trombone Competition第1位、2015年第32回日本管打楽器コンクール第3位。2015年文化庁海外研修奨学生としてベルリンに派遣される。これまでに山田守、新田幹男、藤澤伸行、小幡芳久、ダグラス・ヨー、チャバ・ワグナーの各氏に師事。愛知県立芸術大学非常勤講師。2011年9月より日本センチュリー交響楽団バストロンボーン奏者。



©Shigeru Taniyama

大茂 絵里子 マリンバ奏者

本学卒業。2004年ベルギー国際マリンバコンクール優勝をはじめ、国内外で数多くの最高賞を受賞してきた大茂は、「素晴らしすぎる、5つ星の演奏!」(フィンランドAamulehti紙)、「実に桁違いの演奏家であることを痛感した」(The Irish Times紙)と絶賛を受ける等、現在世界で最も注目を集める若手演奏家の1人。これまでに20ヶ国以上で演奏活動を行っており、近年においては年間およそ10ヶ国で演奏。コンチェルトのソリストとして、アイルランド国立交響楽団、タンペレフィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、他、アメリカ、アジア、ヨーロッパの多数のオーケストラと共演。ニューヨーク、メキシコ、ドイツ、イタリア、フィンランド、ベルギーにて開催された国際打楽器コンクールの審査委員を務めた他、ウィーン国立音楽大学、パリ音楽院、コペンハーゲン王立音楽院、その他数多くの大学にてマスタークラスを行っている。2004年本学を首席で卒業、2005年ボストン音楽院入学、クラシックを学ぶ傍らパークリー音楽院にて即興音楽や編曲を学び2006年卒業。marimba one、Vic Firthアーティスト。2013年よりニューヨーク大学のゲストアーティスト。ジュリアード音楽院プレカレッジ客員講師more info:www.erikodaimo.com



学部定期でのプラス演奏



個人レッスン風景



エマニュエル・バユ氏のマスタークラス



学部定期でのサックス専攻生と教員の共演



音楽学部定期演奏会での教員と学生の共演



管打学基礎でのアレンジ発表。全員の前の演奏し全員で評価する



個人レッスン風景

## 入試

### 求める人物像

- 豊かな感受性、想像力、表現意欲を備えている人
- 人との関わりや思いやりを大切にし、協調性、適応能力に優れた人
- アンサンブルなど共同での演奏に関心のある人
- 物事への積極性があり、国際的な視野を持っている人

### 入学前に身につけてほしい学習成果

- 主要オーケストラ作品、室内楽など様々な作品に親しみ、知識を広げておくこと
- 高いレベルの演奏表現能力
- 音楽の基礎的能力(ソルフェージュ、ピアノ、楽典)
- 基礎的な学力、語学力

# 教養教育

Liberal Arts





# 教養教育

Liberal Arts

## 教育概要

教養教育では、生涯にわたって自らを高める努力を怠らず、卒業後は社会人としての責務を自覚できるような優れた人材を育てることを目指しています。学生の芸術表現活動が深い教養に裏打ちされたものとなり、また芸術家である以前に人間としての成長をも促すような授業科目を提供しています。

## 教養教育カリキュラム・ポリシー

### 教育課程の編成方針

- 芸術を専攻する学生に対して広い視野と多様な価値観への理解を育むことを目標とし、人文・社会・自然科学・情報・保健体育・外国語など専門課程以外の多様な価値観を教授する科目を展開しています。
- どの教科科目においても、時代に即した事例・応用とともに各学問分野の本質を教授することによって、学生の興味を引きつつ深い教養を育てます。

### 具体的なカリキュラム構成と特徴

- 多様な興味・関心と専門性を持つ学生が、一人ひとりの適性と必要性に応じた科目を主体的に選択し学修できるように、外国語も含めたすべての教養科目を在学4年間の間にいつどのように履修するかを、学生自らが決定することができます。
- 外国語科目では「読む、聞く、書く、話す」という言語リテラシーの基盤を育成することを目標とします。さらに中級および上級ではより高度な言語運用能力の養成に努めるとともに、多様化する国際社会で活躍できるような異文化理解力・コミュニケーション能力の向上にも配慮した指導をします。
- 教職課程では、芸術大学としての専門性を活かした教員養成を行います。個別教育重視の専門教育に加えて、実践を重視した教職科目群を用意することで、芸術家としての確かなアイデンティティーを持った教員を養成します。

### 教育課程の評価方針・方法

- 学修成績は、各科目の担当教員が学生の自律的学修態度(予復習・個人的な探究)を反映する評価方法をシラバスに明確に規定し、これに基づいた厳密な評価を行います。

## 教員

水野 留規	MIZUNO, Ruki	教 授	イタリア語・外国文化史・西洋の古典文芸
三宮 敦生	SANNOMIYA, Atsuo	教 授	心理学・教育心理学・教育実習
清道 正嗣	SEIDO, Masatsugu	教 授	コンピューター基礎・基礎生物学
石垣 享	ISHIGAKI, Toru	教 授	基本体育・スポーツ健康科学
大塚 直	OTSUKA, Sunao	准 教 授	ドイツ語・西洋演劇論・芸術と諸科学
数森 寛子	KAZUMORI, Hiroko	准 教 授	フランス語・外国文学
井上 彩	INOUE, Aya	准 教 授	英語・異文化コミュニケーション
中根 多恵	NAKANE, Tae	准 教 授	社会学・英語
三品 陽平	MISHINA, Yohei	准 教 授	教育原理・道徳教育指導論・教職入門

## 教養教育科目

哲学A・B / 美学A・B / 日本文化史A・B / 外国文化史 / 日本文学 / 日本の古典文芸 / 外国文学A・B / 西洋の古典文芸 / 言語学A・B / 異文化コミュニケーションA・B / 仏教学A・B / キリスト教学A・B / 美術論A・B / 音楽論A・B / 日本演劇論 / 日本の近現代演劇 / 西洋演劇論 / 日本史A・B / 西洋史A・B / 法学A・B / 日本国憲法 / 経済学A・B / 心理学A・B / 教育学A・B / 人類学A・B / 国際関係論A・B / 社会学IA-IIB / 数学A・B / 基礎生物学A・B / 自然科学史A・B / 基礎物理学A・B / 基礎化学A・B / コンピューター基礎 I・II a・II c・III / 芸術と諸科学 / 自由研究ゼミナール I・II / 英語初級IA-IIB / 英語中級IA-IIB / 英語上級IA-IIB / ドイツ語初級IA-IIB / ドイツ語中級IA-IIB / ドイツ語上級IA-IIB / フランス語初級IA-IIB / フランス語中級IA-IIB / フランス語上級IA-IIB / イタリア語初級IA-IIB / イタリア語中級IA-IIB / イタリア語上級IA-IIB / 基本体育A・B / 身体運動演習IA-IIB / スポーツ・健康科学A・B



- |   |   |
|---|---|
| 1 | 2 |
| 3 | 4 |
| 5 | 6 |

愛知芸大では「芸術大学にふさわしい教養教育」を展開している。

1. 体育の石垣享教授が担当する大学院「教養特殊研究」の授業風景。筋電図からピアニストの手の動きを探る。
2. ドイツ語の大塚直准教授が企画・翻訳・上演した戯曲『つく、きえる』。現代ドイツの劇作家R・シンメルプフェニヒが描いた〈フクシマ問題〉をめぐる問題作を、愛知県の演劇人の協力のもと、本学学生の生演奏を交えて上演した。
3. 同じく大塚准教授が企画したレクチャーコンサート「ブレヒト・詩と音楽の夕べ」。
4. 劇作家ブレヒトの政治的な詩を分かりやすくレクチャーで紹介し、彼の協力者でナチ時代に亡命したユダヤ系の音楽家たちの作品を本学卒業生・大学院生が演奏した。
5. イタリア語の水野教授が推進するイタリア語・イタリア文化研修では大学内で選抜された数名の学生が、約2週間にわたり海外協定校のサレルノ大学で現地関係者と交流し、学んでいる。
6. サレルノ大学におけるイタリア語研修の一コマ。



# 美術研究科

Graduate School of Fine Arts

博士前期課程 Master's Course

美術専攻 Division of Fine Arts

博士後期課程 Doctoral Course

美術専攻 Division of Fine Arts

# 音楽研究科

Graduate School of Music

博士前期課程 Master's Course

音楽専攻 Division of Music

博士後期課程 Doctoral Course

音楽専攻 Division of Music



# 美術研究科 博士前期課程

Graduate School of Fine Arts  
Master's Course

■大学院美術研究科 ■美術専攻

## 研究概要

博士前期課程は1専攻内の6研究領域が相互に研究協力できる体制となっています。芸術の学際的研究への対応を含め、従来の研究領域の更なる深化を目指します。また他領域を横断して受講することができます。領域を越えた2つ以上の研究室が企画立案する複合研究(プロジェクト研究)では、大学に望まれる地域貢献、社会貢献などを目的とするプロジェクトを設定し、学修成果と実践経験との融合を図っています。

取得できる学位は修士(美術)です。

## 教員

### 日本画領域

梅原 幸雄(日本画)  
北田 克己(日本画・模写)  
岡田 真治(日本画)  
井手 康人(日本画)  
吉村 佳洋(日本画・模写)  
岩永 てるみ(模写・保存修復)  
阪野 智啓(模写・保存修復)

### 油画・版画領域

馬場 駿吉(美術批評・医学・現代俳句評)  
寺内 曜子(立体・空間・インスタレーション)  
設楽 知昭(絵画・現代美術)  
阿野 義久(絵画表現)  
倉地 久(版画・版表現)  
額田 宣彦(絵画)  
井出 創太郎(版画)  
高橋 信行(絵画)  
白河 宗利(絵画・技法材料)  
岩間 賢(絵画表現・現代美術)  
大崎 のぶゆき(版画・現代美術)  
猪狩 雅則(絵画)  
安藤 正子(絵画)

### 彫刻領域

金井 直(西洋美術史・近現代美術史)  
土屋 公雄(環境芸術)  
神田 每実(複合表現)  
中谷 聡(彫刻(木彫・石彫))  
竹内 孝和(立体表現)  
森北 伸(彫刻・絵画)  
村尾 里奈(空間表現)

### 芸術学領域

南 雄介(キュレーター(近現代美術))  
中 敬夫(美学・芸術哲学)  
小西 信之(現代アート論)  
高梨 光正(西洋美術史・文化財学)  
本田 光子(日本美術史・文化財学)

### 複合芸術プロジェクト

芸術多領域:平面、立体、空間、映像、音楽、メディアなど芸術多領域の複合研究を行う。

### 美術プロジェクト

〈保存修復系プロジェクト(文化財の保存修復の継承)〉

芸術大学での専門性の高い豊富な知識、経験の蓄積を継承しながら、文化財保存修復を目的に、絵画から彫刻などの保存修復技術の高度化研究および実践を行う。

〈暮らしとデザイン系プロジェクト(21世紀の地域・文化創りと発信)〉

地域貢献や研究の高度化が望まれる中、21世紀のコンセプトでもあるサステイナブルな視点により、デザインに求められるものは、環境、モノ、人材育成まで多岐にわたる。これらのテーマに基づき総合的に研究・開発・実践を行う。

### デザイン領域

加藤 芳夫(視覚伝達デザイン)  
中島 聡(プロダクトデザイン)  
関口 敦仁(デザイン理論・環境デザイン)  
水津 功(環境デザイン)  
柴崎 幸次(メディアデザイン)  
石井 晴雄(メディアデザイン・メディアアート)  
今尾 泰三(視覚伝達デザイン・グラフィックアート)  
森 真弓(メディアデザイン)  
夏目 知道(環境デザイン)  
佐藤 直樹(視覚伝達デザイン)  
本田 敬(プロダクトデザイン)  
春田 登紀雄(視覚伝達デザイン)

### 陶磁領域

外館 和子(美術評論)  
友岡 秀秋(陶磁・セラミックデザイン)  
梅本 孝征(陶磁・陶芸研究)  
長井 千春(陶磁・セラミックデザイン)  
小枝 真人(陶磁・陶芸研究)  
田上 知之介(陶磁・セラミックデザイン)  
佐藤 文子(陶磁・陶芸研究)

# 美術研究科 博士後期課程

Graduate School of Fine Arts  
Doctoral Course

■大学院美術研究科 ■美術専攻

## 研究概要

博士後期課程は1専攻とし6研究分野で相互に複合する研究も可能な体制となっています。作品制作と論文による博士号取得に重点を置く研究プログラムを基本に、博士後期課程の担当資格を持つ教員が3年間研究指導を行います。また芸術の学際的研究への対応のほか、芸術やデザインの更なる高度化を図り、地域貢献、社会貢献などにも積極的に取り組んでいます。

取得できる学位は博士(美術)です。

## 教員

※主任指導教員として希望できるのは博士研究指導担当の教員のみです。

※学生を募集する研究分野については、学生募集要項(10月下旬公表予定)及び本学ウェブサイトでご確認ください。

### 日本画

北田 克己(日本画の創作研究・古典研究・技法材料研究) 博士研究指導担当

岡田 眞治(日本画の創作研究) 博士研究指導担当

井手 康人(日本画の創作研究) 博士研究指導担当

吉村 佳洋(日本画の創作研究・古典研究・技法材料研究)

岩永 てるみ(日本画古典絵画研究)

### 油画・版画

寺内 曜子(現代美術・インスタレーションに関する研究) 博士研究指導担当

設楽 知昭(絵画・現代美術に関する研究) 博士研究指導担当

阿野 義久(油彩画の創作研究) 博士研究指導担当

倉地 久(版画・版表現に関する研究) 博士研究指導担当

額田 宣彦(絵画に関する研究) 博士研究指導担当

高橋 信行(絵画に関する研究)

井出 創太郎(銅版画・版画に関する研究)

大崎 のぶゆき(版画・映像表現・現代美術に関する研究)

### 彫刻

土屋 公雄(環境美術・現代美術・空間インスタレーションに関する研究) 博士研究指導担当

神田 每実(立体造形表現・媒体を複合的に用いた表現に関する研究) 博士研究指導担当

竹内 孝和(彫刻・現代美術に関する研究)

### デザイン

中島 聡(プロダクトデザイン・ユニバーサルデザイン及びデザイン論に関する研究) 博士研究指導担当

関口 敦仁(情報デザイン・メディアアート・芸術情報学に関する研究) 博士研究指導担当

柴崎 幸次(メディアデザイン・環境デザインに関する研究) 博士研究指導担当

石井 晴雄(地域クロスメディアデザインに関する研究)

佐藤 直樹(視覚伝達デザインに関する研究)

### 陶磁

梅本 孝征(陶磁創作及び陶磁技法・陶磁史に関する研究) 博士研究指導担当

長井 千春(陶磁創作及びセラミックデザイン・陶磁器デザイン史に関する研究) 博士研究指導担当

### 芸術学

中 敬夫(美学・芸術哲学に関する研究) 博士研究指導担当

小西 信之(現代アート論に関する研究)

高梨 光正(西洋美術史に関する研究) 博士研究指導担当

本田 光子(日本美術史に関する研究)

## 指導体制

指導教員1名及び副指導教員1名以上の複数指導体制

# 音楽研究科 博士前期課程

Graduate School of Music  
Master's Course

■大学院音楽研究科 ■音楽専攻

## 研究概要

専攻・コースの枠を越えた、柔軟で横断的な研究教育システムの構築をめざして2007年度に実施された音楽研究科の修士課程の改組により、従来の3専攻6コース(作曲[作曲・音楽学]、声楽、器楽[ピアノ・弦楽器・管打楽器])の区分が見直されて単一専攻となり、そして2009年度博士後期課程の設置により、修士課程は博士前期課程となっています。これによって、研究科が学際的な研究に対応できる体制となっただけでなく、個々の学生にとっては、それまで培ってきた専門性をさらに高めるとともに、領域横断的な研究を行うことが可能になりました。

具体的には1専攻7研究領域(作曲・音楽学・声楽・鍵盤楽器・弦楽器・管楽器・打楽器)を擁し、さまざまな領域に属する研究室が美術研究科、さらに教養教育の研究室とも連携した授業を開講しています。そのように領

域を越えた2つ以上の研究室が共同で企画立案し、開設する授業は「プロジェクト」と呼ばれ、複合芸術プロジェクト(美術学部と連携して開設されるプロジェクトーオペラ、アートマネジメント)、音楽プロジェクト(室内楽、オーケストラ、ウィンドオーケストラ)が実施されています。音楽に対する社会の潜在的なニーズは大きく、それは地域貢献にも直接つながっているという観点に基づき、音楽研究科博士前期課程では真の意味での音楽芸術のプロとしての能力を磨くことを重視し、自らの才能と技術を生かしてニーズを掘り起こし、作り出すことができるような人材の育成を目指しており、アートマネジメントの講座を新設するなど、学生ひとりひとりの資質や興味を最大限伸ばす教育を「オーダーメイド」で行っています。

取得できる学位は修士(音楽)です。

## 教員

### 作曲領域

久留 智之(作曲)／小林 聡(作曲)／山本 裕之(作曲)／  
成本 理香(作曲)  
〈非常勤講師〉  
寺井 尚行(特殊研究)／長江 和哉(特殊研究)／  
北爪 道夫(現代の音楽)／坂田 直樹(特殊研究)／  
ジョン・コール(特殊研究)

### 音楽学領域

井上 さつき(音楽学・西洋音楽史)／  
安原 雅之(音楽学・西洋音楽史)／  
東谷 護(ポピュラー音楽・音楽社会学)  
〈非常勤講師〉  
七條 めぐみ(特殊研究)  
野間 晴久(アート・マネジメント)

### 声楽領域

戸山 俊樹(バス)／末吉 利行(バリトン)／  
中巻 寛子(メゾ・ソプラノ)／森川 栄子(ソプラノ)／  
川島 幸子(ソプラノ)／初鹿野 剛(バリトン)  
〈非常勤講師〉  
相可 佐代子／大槻 孝志／岡崎 智恵子／小泉 詠子／  
佐竹 由美／五月女 智恵／田島 茂代／升島 唯博／  
馬原 裕子／三崎 今日子／三輪 陽子／渡部 純子／  
佐藤 正浩(指揮)／辻 博之(指揮)／飯塚 励生(演出)／  
山本 敦子(コレペティートル)／  
石山 英明(コレペティートル)

### 鍵盤楽器領域

イリーナ・チュコフスカヤ(ピアノ)／  
熊谷 恵美子(ピアノ)／北住 淳(ピアノ)／  
掛谷 勇三(ピアノ)／内本 久美(ピアノ)／  
鈴木 謙一郎(ピアノ)／中尾 純(ピアノ)  
武内 俊之(ピアノ)  
〈非常勤講師〉  
安井 直子(チェンバロ)／吉田 恵(オルガン)／  
小坂 圭太(室内楽)

### 弦楽器領域

フェデリコ・アゴ스티ーニ(ヴァイオリン)  
福本 泰之(ヴァイオリン)／白石 禮子(ヴァイオリン)／  
桐山 建志(ヴァイオリン)／  
花崎 薫(チェロ)／  
渡邊 玲雄(コントラバス)  
〈非常勤講師〉  
沼田 園子(ヴァイオリン)／植村 太郎(ヴァイオリン)／  
百武 由紀(ヴィオラ)／  
木村 茉莉(ハープ)

### 管楽器領域

橋本 岳人(フルート)／  
トン・ブルックス・ノブオ(クラリネット)／  
井上 圭(トランペット)／倉田 寛(トロンボーン)  
〈非常勤講師〉  
田中 靖人(サクソフォーン)

### 打楽器領域

深町 浩司(打楽器)

### 教養教育等

水野 留規(特殊研究・原典研究・イタリア語)／  
井上 彩(原典研究・英語)／  
大塚 直(原典研究・ドイツ語)／  
数森 寛子(原典研究・フランス語)  
〈非常勤講師〉  
ロムアルド・バローネ(特殊研究)

### オーケストラ

松尾 葉子(オーケストラ)／  
高関 健(オーケストラ)  
〈非常勤講師〉  
小森 康弘(オーケストラ)／  
太田 弦(オーケストラ)

# 音楽研究科 博士後期課程

Graduate School of Music  
Doctoral Course

■大学院音楽研究科 ■音楽専攻

## 研究概要

充実した施設設備を備えた独立した博士棟において、各専門の研究を一層深化・高度化するとともに、創作・演奏研究と理論研究を高度に総合化し、領域横断的な研究にも対応する教育システムを編成、提供しています。音楽研究科博士後期課程の修了者には、大学等高等教育研究機関の教員・研究者、文化事業団体等の文化機関における中核的役割を担う人材やプロフェッショナルな演奏家等として、国内外で活躍が期待されます。

取得できる学位は博士(音楽)です。

## 教員

※主任指導教員として希望できるのは博士研究指導担当の教員のみです。

※学生を募集する研究分野については、学生募集要項(10月下旬公表予定)及び本学ウェブサイトでご確認ください。

### 作曲

久留智之(芸術音楽作品の創作についての実践的な指導) 博士研究指導担当

小林聡(芸術音楽作品の分析・創作ならびにオーケストレーションに関する研究の指導) 博士研究指導担当

山本裕之(芸術音楽作品の創作についての実践的な指導)

成本理香(芸術音楽作品の創作についての実践的指導と研究指導)

### 音楽学

井上さつき(音楽学一般ならびに西洋音楽史を中心とする研究の指導) 博士研究指導担当

安原雅之(音楽学一般ならびに西洋音楽史を中心とする研究の指導) 博士研究指導担当

東谷護(音楽学一般ならびにポピュラー音楽研究、音楽社会学を中心とする研究の指導)

### 声楽

戸山俊樹(声楽一般ならびにドイツロマン派歌曲演奏指導) 博士研究指導担当

末吉利行(声楽一般ならびにドイツロマン派歌曲および日本歌曲演奏指導) 博士研究指導担当

中巻寛子(声楽一般ならびにバロックから近代までの作品の解釈と演奏に関する研究指導) 博士研究指導担当

森川栄子(声楽一般ならびに現代声楽作品の演奏指導)

### 鍵盤楽器

熊谷恵美子(ピアノ奏法一般ならびにヨーロッパ音楽における古典派、ロマン派、近・現代のピアノ作品の解釈・奏法の研究指導) 博士研究指導担当

北住淳(ピアノ奏法一般ならびに鍵盤楽器を含む室内楽作品についての研究指導) 博士研究指導担当

掛谷勇三(ピアノ奏法一般)

### 弦楽器

福本泰之(ヴァイオリン奏法一般ならびにバロックから近・現代作品の解釈・奏法の研究指導) 博士研究指導担当

白石禮子(ヴァイオリン奏法一般ならびにバロックから近・現代作品の楽曲分析・奏法・演奏表現の研究指導)

桐山建志(弦楽器奏法一般ならびにバロックから現代に至る作品の解釈・演奏表現の研究指導)

花崎薫(チェロ奏法一般ならびにバロックから現代に至る作品の解釈・演奏表現の研究指導) 博士研究指導担当

### 管楽器

倉田寛(トロンボーン奏法一般ならびにルネッサンス・バロックから近・現代作品の解釈・奏法の研究指導)

橋本岳人(フルート奏法一般ならびにバロックから近・現代作品の楽曲分析、奏法、演奏表現の研究指導)

### 打楽器

深町浩司(打楽器奏法一般ならびに古典から現代のティンパニ奏法についての実践的な指導)

## 指導体制

各学生の研究テーマの中心となる内容の分野を専門とする指導教員1名と副指導教員1名以上により研究指導にあたります。

副指導教員の1名は、音楽理論研究を主専攻とする学生に対しては音楽創作・表現研究系の教員があたり、音楽創作・表現研究を主専攻とする学生に対しては、音楽理論系の教員があたります。

# 基本情報

Basic Information

施設・建物 Facilities

国際交流 International Exchange

入試情報 Admission Information

入試状況・資料請求 Admission Result / Request for Information

卒業後の進路状況 Career Path after Graduation

就職支援 Employment Support

教職課程・博物館学課程 Teacher Training Curriculum / Museology Curriculum

センター・事業 Center

学費・奨学金 Tuition Fees / Scholarships

主な年中行事 Main Annual Events

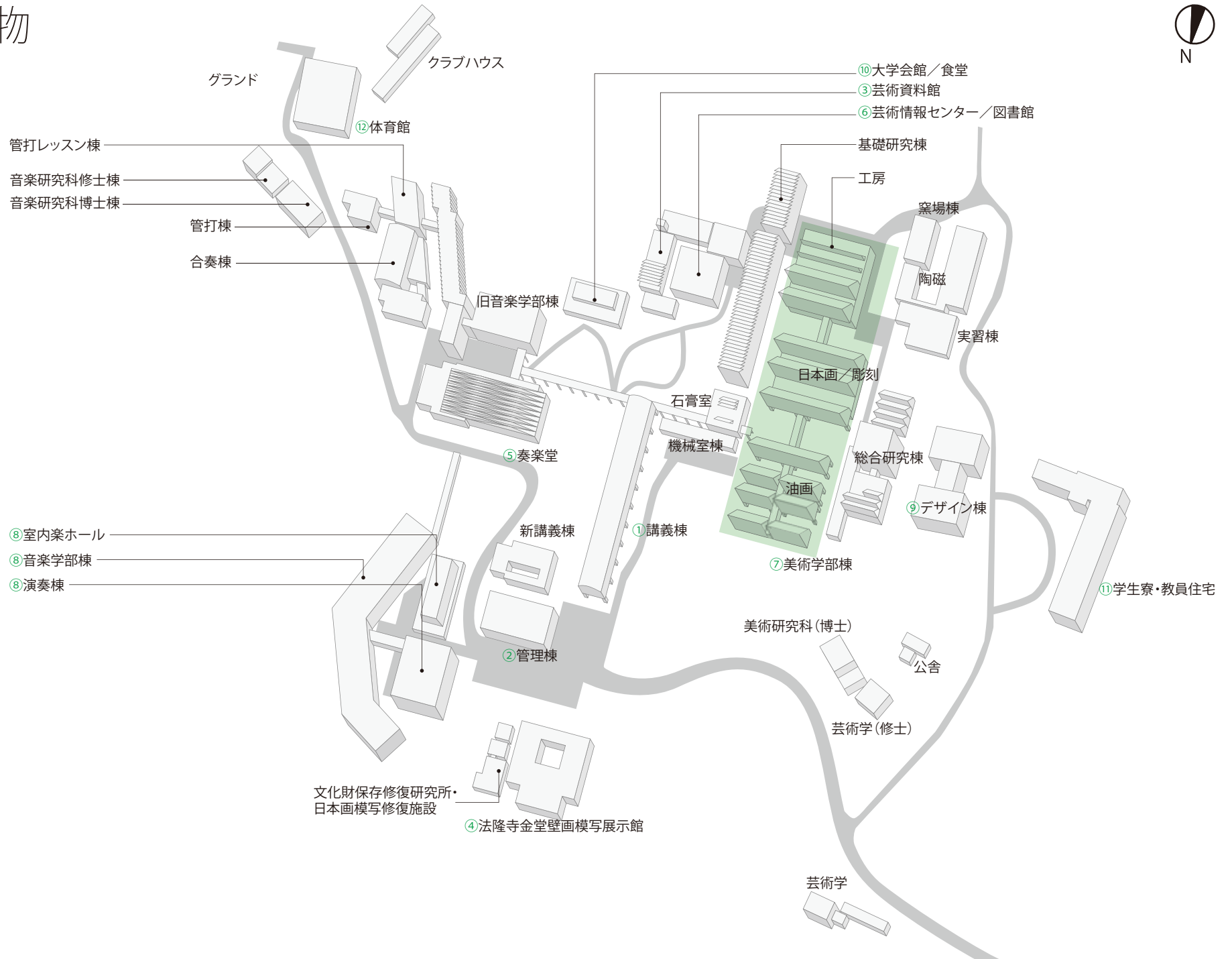
アクセス Access

お問合せ Contact



# 施設・建物

Facilities



①講義棟



④法隆寺金堂壁画模写展示館



⑦美術学部棟



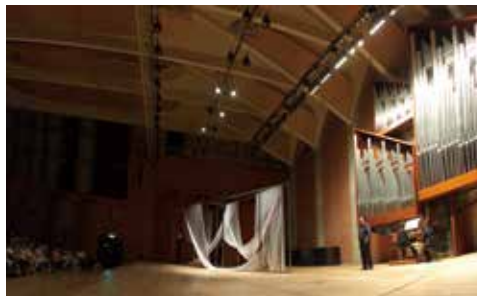
⑩大学会館/食堂



②管理棟



⑤奏楽堂



⑧音楽学部棟・演奏棟・室内楽ホール



⑪学生寮・教員住宅



③芸術資料館 (博物館相当施設)



⑥芸術情報センター／図書館



⑨デザイン棟



⑫体育館



MEGI HOUSE (香川県高松市女木島)



サテライトギャラリー (2019年初夏にオープン予定)



photo by Tamotsu Kido

学外施設  
Off Campus Facilities

## 協定校への留学

本学では、個性的で魅力ある大学として、また国際的にも開かれた芸術文化の発信地となることを目指し、その理念実現の一環として学生の留学事業を開始しました。留学を通じて異なる国の異なる文化、習慣等、様々

な違いに触れることにより、技術の向上のみにとどまらず、新たな創造の可能性を見いだして欲しいと願っています。今後も順次留学可能校を増やしていく予定です。

## 2018年度実施交流事業

### ■新たな交流協定の締結

- ウズベキスタン科学アカデミー東洋学研究所(ウズベキスタン)
- ウズベキスタン芸術アカデミー(ウズベキスタン)
- ウズベキスタン国際イスラムアカデミー(ウズベキスタン)
- ウズベキスタン国立図書館(ウズベキスタン)
- サマルカンド大学(ウズベキスタン)
- ソウル科学技術大学校(韓国)
- タンペレ応用科学大学(フィンランド)
- リムスキー・コルサコフ記念サンクトペテルブルク音楽院(ロシア)

### ■学生交流

- 「国際交流室」による留学や海外渡航を目指す学生のサポート
- 協定校への留学生派遣(ケルン音楽大学・ハンブルク音楽大学・リスト音楽院・ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校・チェンマイ大学・台南芸術大学)
- 協定校からの留学生受入れ(ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校・チェンマイ大学・台南芸術大学・タンペレ応用科学大学)
- デザイン専攻3年によるニューヨークでのグループ展およびニューヨーク市立大学ハンター校での学生交流の実施
- シラパコーン大学および武蔵野美術大学とともに、国際交流版画プロジェクト(国際交流展・シンポジウム・ワークショップ等)を実施
- イタリア語・イタリア文化研修(短期)をサレルノ大学にて実施

### ■研究交流

- 5月 ウズベキスタンにてサマルカンド紙に関する調査のため科学アカデミー東洋学研究所を始めとする主要研究機関と研究協力体制の構築を目的とした会議を開催、サマルカンド大学にて日本学術振興会拠点形成事業によるセミナー等を

### 実施

- 7月 協定校であるカリフォルニア大学サンディエゴ校よりアレック・カリス教授(ピアノ)、スーザン・ナルッキ教授(声楽)を招へいし、作曲家と演奏家のためのセミナーおよびピアノリサイタル、ソプラノリサイタルを開催
- 9月 国立ソウル科学技術大学校(韓国)へ陶磁専攻の教員3名を派遣し、芸術・デザインに関する交流および教育研究協力を目的とした協定を締結
- 10月 祥明大学校(韓国)より教授2名と学生が来日、ギム・ホンソック教授によるレクチャー、日韓の学生が混在したチームによるワークショップを開催
- 10月 協定校であるメキシコ国立自治大学より教員1名を招へいし、講演会を実施
- 10月 シラパコーン大学(タイ)、武蔵野美術大学および本学の3大学による国際交流版画展をシラパコーン大学にて実施
- 10月 大連民族大学(中国)において日本学術振興会拠点形成事業によるセミナーを実施、本学から教員2名を派遣したほかウズベキスタン国立美術工芸大学、檀国大学(韓国)の研究者も参加
- 12月 豊田市との共同研究による研究展を韓国・ソウルにて開催

### ■アーティスト・イン・レジデンス事業

- ケヴィン・ケナー(マイアミ大学フロスト音楽校教授) 公開レッスン、コンサート(本学室内楽ホールおよび名古屋大学豊田講堂)を実施
- ジュリー・カウフマン(宮廷歌手、元ベルリン芸術大学声楽科教授) 大学院生対象のレッスン、公開レッスン、修了コンサートを実施
- ヒヨナ・クオン(版画家) ※学外公募 アーティスト・トーク、成果発表展を実施
- ミョン・フェイエン、川松康徳(ともに作家) 滞在制作のほか、アートラボあいちにてフリートークイベントを開催



グループ展



ハンター校との交流

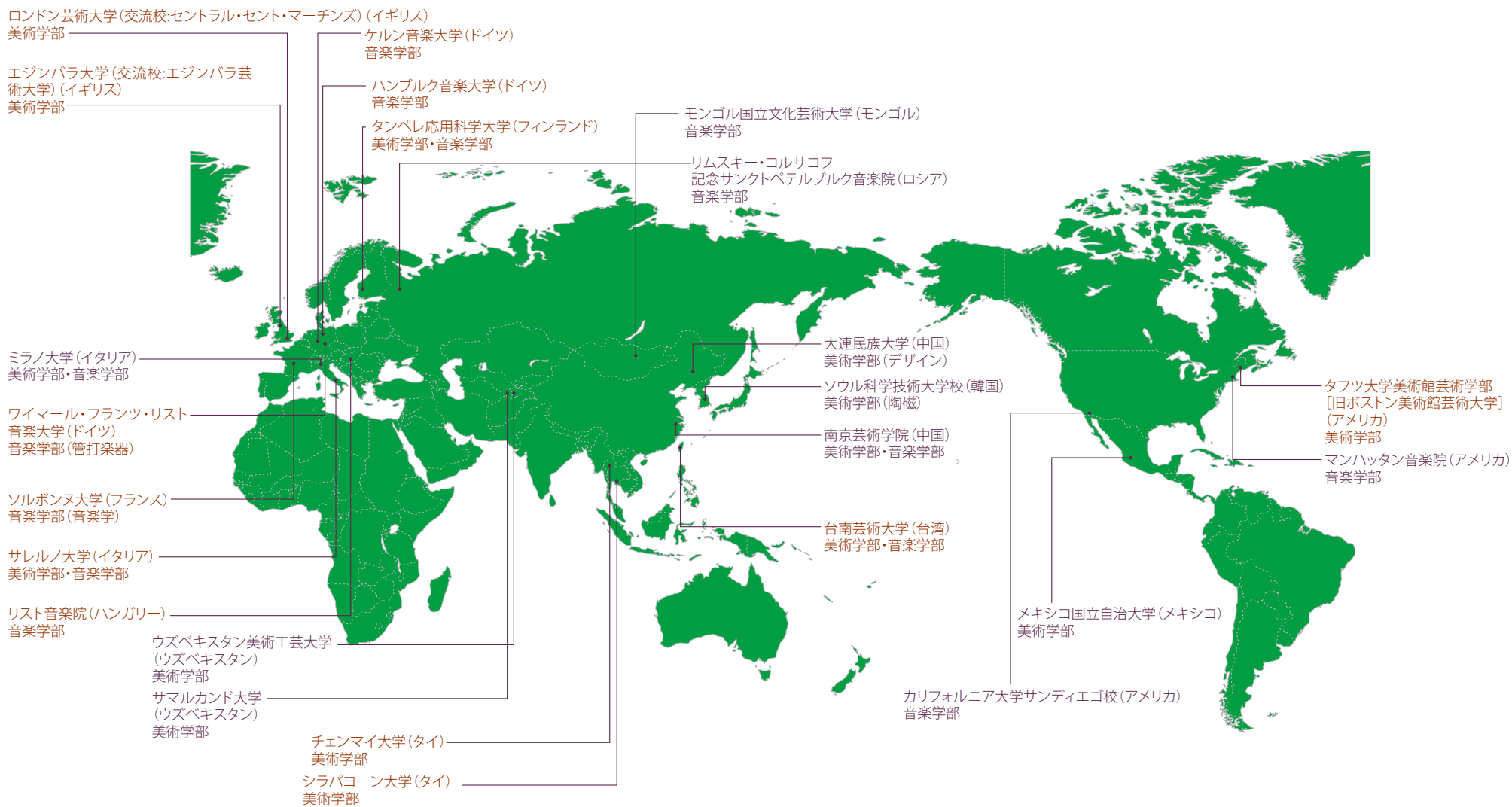


リムスキー・コルサコフ記念サンクトペテルブルク音楽院との協定調印



ジュリー・カウフマン氏による公開レッスンの様子(アーティスト・イン・レジデンス)

# 国際交流協定大学



- …留学実施校
- …その他協定校

## 1 一般入試

### 趣旨・内容

本学の理念と目的に合う人材の育成には、それぞれの専門分野にふさわしい資質に裏付けられた実技能力と学力とを欠かすことはできませんが、とりわけ実技能力は必須の要件です。そこで本学における一般入試の選抜方式は、実技試験と学力試験および調査書等により総合的に判断し、選抜を行っています。

### 対象

[美術学部]

全専攻

[音楽学部]

全専攻

## 3 社会人特別入試

### 趣旨

社会人経験を経た上で、デザインの芸術・学問諸分野に対して、強い意欲を持って学びたいと望む一般市民を対象に、大学の門戸を開き、芸術の生涯教育に資するべく社会人特別入試を実施します。社会での経験を生かした幅広い視野から、創作や研究に励み、自己の能力を磨き、再び社会の諸分野で活躍することを期待するものです。

### 内容

大学入試センター試験を免除し、自己推薦資料等の内容、小論文、実技及び面接等により総合的に判定します。

### 対象

[美術学部]

デザイン専攻

## 2 自己推薦特別入試

### 趣旨

芸術の分野が多様化する中、様々な可能性のある学生を従来の一般入試による選抜だけでなく、自己推薦特別入試という方法によって優秀で意欲的な人材の発掘を目的に実施しています。

### 内容

大学入試センター試験を免除し、調査書、自己推薦書及び自己アピール資料等による第1次選考後、面接や小論文等による第2次選考を行います。

### 対象

[美術学部]

彫刻専攻

デザイン専攻

[音楽学部]

作曲専攻(作曲コース)

## 4 推薦入試

### 趣旨

本学で学ぶことを志望する意志が強く、優秀で意欲的な人材の発掘を目的に、推薦入試を実施しています。

### 内容

大学入試センター試験を免除し、出身学校長の推薦書、調査書、音楽活動記録書等による第1次選考後、実技試験及び音楽に関する基礎的能力試験等による第2次選考を行います。

### 対象

[音楽学部]

作曲専攻(音楽学コース)

声乐専攻

器楽専攻(弦楽器コース、管打楽器コース)

# 入試状況

Admission Result

[学部] 2019年度入試(2019年4月入学)

学部	学科	専攻	試験区分	募集人員A	志願者数B	受験者数	合格者数	入学者数	倍率B/A
美術	美術	日本画	一般	10	111	92	12	12	11.1
		油画	一般	25	182	157	26	25	7.3
		彫刻	一般	10	64	57	10	8	6.4
			自己推薦	若干名	7	7	2	2	—
		芸術学	一般	5	9	8	6	6	1.8
	デザイン・ 工芸	デザイン	一般	25	262	201	25	22	10.5
			社会人	若干名	4	4	0	0	—
		自己推薦	10	71	71	14	14	7.1	
		陶磁	一般	10	29	25	12	10	2.9
美術学部合計				95	739	622	107	99	7.8

学部	学科	専攻(コース)	試験区分	募集人員A	志願者数B	受験者数	合格者数	入学者数	倍率B/A
音楽	音楽	作曲(作曲)	一般	8	7	7	4	3	0.9
			自己推薦	若干名	2	2	1	1	—
		作曲(音楽学)	一般	2	8	6	4	4	4.0
			推薦	若干名	3	3	1	1	—
		声乐	一般	30	53	47	25	25	1.8
			推薦	若干名	23	23	5	5	—
		器楽(ピアノ)	一般	25	72	68	25	24	2.9
		器楽(弦楽器)	一般	15	23	20	13	13	1.5
			推薦	若干名	7	7	4	4	—
		器楽(管打楽器)	一般	20	59	56	16	16	3.0
			推薦	若干名	22	22	6	6	—
		音楽学部合計				100	279	261	104

学部合計				195	1018	883	211	201	5.2
------	--	--	--	-----	------	-----	-----	-----	-----

[研究科] 2019年度入試(2019年4月入学)

研究科	専攻・課程	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
美術	美術・博士前期	40	127	109	45	41
	美術・博士後期	5	9	8	8	8
	美術研究科合計	45	136	117	53	49

研究科	専攻・課程	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
音楽	音楽・博士前期	30	57	55	30	29
	音楽・博士後期	3	2	2	2	2
	音楽研究科合計	33	59	57	32	31

研究科合計		78	195	174	85	80
-------	--	----	-----	-----	----	----

※美術学部の社会人特別入試募集人員(若干名)、美術学部彫刻専攻の自己推薦特別入試募集人員(若干名)及び音楽学部の推薦・自己推薦入試募集人員(若干名)は、一般入試の募集人員に含まれます。

# 資料請求

Request for Information



テレメールを利用して募集要項等の資料が請求できます。  
 パソコン、携帯電話またはスマートフォンから <http://telemail.jp> にアクセスしてください。  
 自動音声応答電話 050-8601-0101 (IP電話、24時間受付) から請求することができます。  
 なお、資料請求には送料が発生します。予めご了承ください。

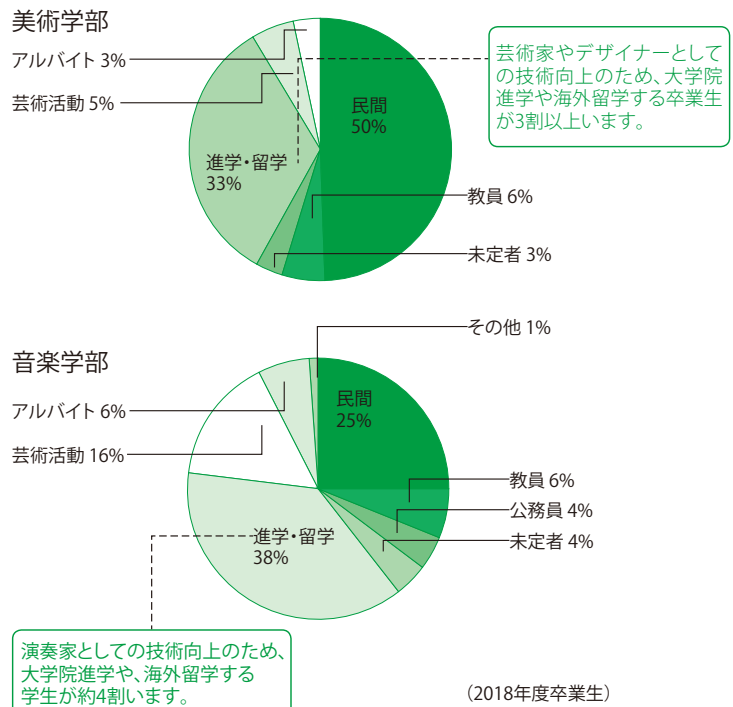


携帯電話アクセス用  
 バーコード

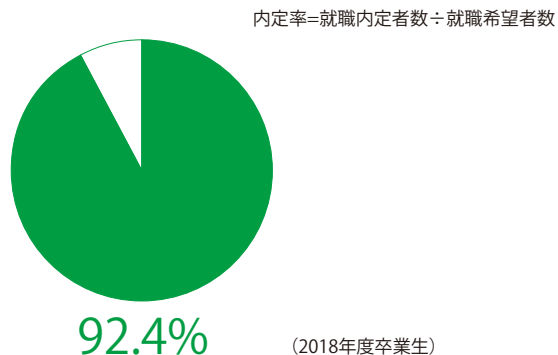
# 卒業後の進路状況

## Career Path after Graduation

本学卒業生の進路は、就職・進学・留学、芸術活動など様々です。就職だけでなく、芸術活動を志す学生にも、総合芸術大学ならではの知識とノウハウで、専任の職員を中心に、教職員が力強く丁寧にサポートしています。



## 就職内定率



## 主な就職先一覧(過去3年)

愛知県を中心とする中部圏には多くの産業や文化があり、就職や芸術活動の場が豊富です。

また、関東地方や、その他都道府県で就職する学生も増えており、活動の場は広がっています。

### 美術学部・美術研究科

株式会社日立製作所／パナソニック株式会社／株式会社朝日新聞社／株式会社中日新聞社／株式会社TBSテレビ／コクヨ株式会社／ヤフー株式会社／ダイハツ工業株式会社／株式会社ノリタケカンパニーリミテド／株式会社サンゲツ／株式会社学研教育出版／株式会社カプコン／株式会社エイチーム／株式会社セガゲームス／株式会社ダイソン／株式会社エポック社／株式会社バッファロー／鳴海製陶株式会社／株式会社スペース／石塚硝子株式会社／日本デコラックス株式会社／株式会社ニッコー／株式会社日東製陶所／林テレンプ株式会社／株式会社ジャクエツ／株式会社イー・ティ・イー／セキスイハイム中部株式会社／株式会社彩ユニオン／株式会社トーガン／株式会社電通クリエイティブX／株式会社リクルートコミュニケーションズ／株式会社デジタルガレージ／株式会社イマジカデジタルスケープ／株式会社角川大映スタジオ／株式会社たき工房／株式会社Cygames／TYOグループ／株式会社ムラヤマ／株式会社ブラビス・インターナショナル／株式会社グランゼーラ／株式会社モリサワ／兵庫県立美術館／愛知県陶磁美術館／瀬戸市文化振興財団／岐阜県美術館／愛知県立高等学校／岐阜県立高等学校／名古屋市立中学校／学校法人暁学園／学校法人大橋学園／学校法人河合塾学園 等

### 音楽学部

独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)／公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団／公益財団法人神戸市民文化執行財団／滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール／浜松市文化振興財団／自衛隊音楽隊／名古屋市消防音楽隊／一般財団法人ヤマハ音楽振興会／全日本ピアノ指導者協会／株式会社ZIP-FM／四季株式会社(劇団四季)／株式会社河合楽器製作所／株式会社東海サウンド／島村楽器株式会社／ヨモギヤ楽器株式会社／野村證券株式会社／日本生命保険相互会社／株式会社大垣共立銀行／東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社／ロクシタンジャパン株式会社／株式会社NTTデータビジネスシステムズ／株式会社ウェルカム／株式会社宮地商会／株式会社アルカンシエル／株式会社プルミエマリエ／株式会社ビースタイル／株式会社オリバー／株式会社BRI／株式会社エイネット／株式会社デリ・アート／羽島市役所／愛知淑徳大学／名古屋女子大学短期大学部／愛知県立高等学校／岐阜県立高等学校／名古屋市立中学校／栄徳高等学校／高田学苑高田高等学校／学校法人富田学園 等

※上記の他、卒業後、数年の留学等の研鑽を経て、大学の教員や著名な演奏団体等(びわ湖ホール声楽アンサンブル、横浜国立大学、ニューヨーク・マンハッタン音楽院(アメリカ)、NHK交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団等)へ就職し、活躍する学生もいます。

## 就職相談

専任の職員が、卒業生情報を始め、就職活動全般から、企業選びや履歴書の書き方、面接での応対等、さまざまな内容の相談を随時受付けています。また、卒業後にも就職活動を行う既卒の方からの就職相談も受けて

います。企業選びはどのようにしたらいい？履歴書はどう書けば？面接では何を聞かれるのか？先輩の就職先は？などなど…就職活動をしていく中でいただく、いろいろな疑問や不安などに一人ひとり個別に対応します。

## 就職支援コーナー

就職活動の進め方、エントリーシートや履歴書の書き方、面接対策講座、インターンシップについてなどをテーマに、年間約20回の就職ガイダンスを開催して、就職活動をサポートしています。

また、レッスンや制作などで忙しい学生については個別相談によってそれぞれの自己分析や面接対策指導などの支援を行っています。

就職支援コーナーでは、以下の情報・サービスを提供しています。コーナー内には自由に使用できるパソコンを4台設置しており、スムーズな情報収集が可能です。

- ・企業等の求人情報
- ・公務員(教員)募集要項
- ・合同企業説明会の案内
- ・先輩の就活報告書の閲覧
- ・就職関連書籍の閲覧
- ・インターンシップ情報

## 最近実施の主なキャリア出張講座一覧

- ・スタジオジブリ出張授業  
講師：西村由美子氏(スタジオジブリ 広報部)
- ・意匠制度説明会  
講師：菊地拓哉氏(経済産業省特許庁 意匠審査官)
- ・ポートフォリオワンポイントレッスン  
講師：赤堀聡平氏(ヤフー CTO クリエイター)
- ・音大生のキャリアデザイン  
講師：白鳥さゆり氏(音大卒業ライフスタイルアドバイザー)



## 2018年度実施の学内企業説明会一覧

中日新聞社/CBCテレビ/コクヨ/日立製作所/ソニー/シャープ/トヨタ車体/サイバーエージェント/日本デザインセンター/ブラビス・インターナショナル/ヤマハ音楽振興会

## 2018年度実施の教員採用試験説明会

- ・愛知県教育委員会
- ・名古屋市教育委員会
- ・愛知県私学協会

## 『芸術学生のための合同企業説明会』の開催

芸術職に特化した企業説明会を企画し、中部7芸術系大学が共同開催で、芸術学生のための合同企業説明会を開催しています。毎年多くの学生が参加し、多方面から高い評価を得ています。

[2020年卒向け 参加企業]

エイチーム/コナミグループ/Cygames/サイバーエージェント/DeNA/ティー・ワイ・オー/東京サウンド・プロダクション/日本放送協会(NHK)/博報堂プロダクツ/バンダイナムコグループ/Yahoo! JAPAN/ヤマハ音楽振興会など計65社



# 教職課程

Teacher Training Curriculum

## 授業科目

教職入門/教育原理/教育制度論/教育心理学/特別支援教育論/美術科教育法A・B・C / 工芸科教育法/音楽科教育法A・B・C /道徳教育指導論/教育課程論/特別活動論/教育方法・総合的な学習の時間の指導論/生徒・進路指導論/教育相談/教育実習Ⅰ-Ⅲ/教職実践演習(中・高)

## 免許状

美術学部 高等学校教諭一種免許状(美術・工芸)  
中学校教諭一種免許状(美術)  
音楽学部 高等学校教諭一種免許状(音楽)  
中学校教諭一種免許状(音楽)  
美術研究科 高等学校教諭専修免許状(美術 ※1・工芸 ※2)  
中学校教諭専修免許状(美術 ※1)  
音楽研究科 高等学校教諭専修免許状(音楽)  
中学校教諭専修免許状(音楽)

※1 陶磁領域を除く ※2 デザイン、陶磁領域に限る

ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

# 博物館学課程

Museology Curriculum

## 授業科目

生涯学習概論/博物館概論/博物館経営論/博物館資料論/博物館資料保存論/博物館展示論/博物館情報・メディア論/博物館教育論/博物館実習/考古学

## 資格

### 学芸員資格

※実際に学芸員となるには、それぞれの博物館や美術館に学芸員として採用されなければなりません。

※すべての学部・専攻(コース)において、学芸員資格を取得するための博物館学課程が開設されています。

## 人材育成目標

博物館学課程では、博物館(美術館などを含む。以下同じ)の専門的職員である学芸員を養成します。

文化財の価値に敬意を払い、作品に寄り添う姿勢と、作品を安全に取り扱う技術を身につけ、博物館をめぐる社会教育・マネージメント・文化財保護などの視点をもつ人材の育成を目指します。

## 卒業までに身につけるべき資質・能力

- 博物館が社会において担う多様かつ幅広い意義と役割への理解
- 博物館での業務に必要な、展示・教育普及・経営・情報メディアなどに関する知識と理論
- 文化財保護につながる作品・資料保存の理念と実践
- 基本的な作品取扱の技術(掛軸、卷子、額装油画、彫刻、工芸品など)

## 資格授与方針と評価方法

必要単位を全て取得し、大学卒業資格を得た学生に単位取得証明書が発行されます。

## 教育課程の編成方針

博物館法に基づき、学芸員資格取得に必要な科目を開講しています。博物館での勤務経験のある教員も多く、現場での理論と実践を具体的に修得してもらえるよう編成しています。

博物館学課程の諸科目とりわけ博物館実習においては、付属施設である芸術資料館および法隆寺金堂壁画模写展示館とその収蔵資料等を活用し、実用的な教育内容を実現しています。

## 具体的なカリキュラム構成と特徴

段階的に博物館関連の科目を履修する仕組みとなっています。まず博物館学概論と生涯学習概論を履修し、続いて博物館資料保存論や博物館展示論などの必修科目を履修します。また選択科目から美術史や音楽史、考古学などを履修します。

そのうえで博物館実習を履修し、それまで学んできた理論を実践の場でどのように活用するかを実体験として学びます。学内での実務実習は芸術資料館および法隆寺金堂壁画模写展示館で行ないます。作品取り扱いの倫理、作法、技術を習得した後、各自が申し込んだ博物館で1週間程度の館園実習に取り組みます。

## 教育課程の評価方針・方法

各理論講義は出席および試験、課題等による評価を行います。

博物館実習は文部科学省ガイドラインに則り、学内での実務実習の技術習得力、博物館での館園実習評価、博物館の見学課題などを総合的に判断して評価します。

# センター・事業

Center

## 芸術教育・学生支援センター

2007年4月の大学法人化を契機に設置されたこのセンターは、大学全体の教育に関する企画・立案機能や教育改革推進機能を有し、学生の学習、大学生活、就職活動におけるきめ細かい学生支援機能を集約した組織です。具体的には、授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み(ファカルティ・ディベロップメント)を行ったり、入学試験業務、成績管理・授業計画等教務に関わること、教育職員免許や学芸員等の資格取得に関すること、奨学金に関すること、学生の健康管理その他福利厚生に関すること、学生の団体活動や賞罰に関すること、学生相談に関すること、就職・進学などの進路指導等、学生に対するサービスの向上と充実を図るための活動を行なっています。

## 文化財保存修復研究所

2014年度に「文化財保存修復研究所」が設立され、2015年度に新施設が完成しました。本研究所は絵画を中心とした文化財の修復・模写・調査研究と、それに関わる人材の育成を行っています。専門の技術者・研究者の指導のもとで、中部地方の文化財修復の拠点となることを目指しています。



文化財の修復(穴埋め)



文化財の修復(障壁画清掃)



文化財の修復(屏風下貼)



## アーティスト・イン・レジデンス

教育や演奏・制作活動での連携を目的に、国内外のアーティストを本学に迎えています。ワークショップや創作等のほかに成果を発表する場が設けられており、芸術家と日常的な活動の場を共有することでより緊密に交流することができます。

## 社会連携センター

社会連携センターは、大学と社会をよりスムーズに結ぶことを目的として開設された窓口です。芸術文化で地域に貢献するために地域社会と共に取り組む「連携事業」や海外の大学や研究施設との交流を進める「国際交流」などを行っています。これまでも、本学の授業を体験できる「愛知芸大芸術講座」や、国内外で活躍するアーティストを招聘し、滞在期間中に特別授業や講演、ワークショップ、レッスン等を集中的に行う「アーティスト・イン・レジデンス」を企画・開催してきました。今後も、社会と連携し芸術文化の発展に貢献していくために様々な活動を展開していきます。

## 芸術情報センター

芸術情報センターは、芸術に関する図書や資料、電子情報等の収集・管理や企画調整を行い、教育研究活動に資することを目的として、2010年(平成22年)に設置されました。活動の中心となる図書館には、芸術に関する貴重書籍・美術書・音楽書・楽譜・視聴覚資料等を所蔵しており、こうした情報を活用するための検索システムが整備されています。さらに、芸術に関する種々の専門的なデータベースを利用して学術論文や雑誌記事を検索することもできます。教育研究活動に関する情報をネットワークと一体化して取り扱うことで、芸術資源の有効活用と利用者へのサービス向上を図るための活動を行なっています。

## 愛知芸大芸術講座

2012年度からサテライト講座と美術学部公開講座を一体化して、「愛知芸大芸術講座」としてリニューアルしました。会場は学内のほかサテライトギャラリーや県内の文化施設にも展開し、受講者と一体となって学ぶ「参加型」講座の充実を図っています。



# 学費・奨学金

Tuition Fees / Scholarships

## 学費

### 授業料・入学料等

	学部	大学院	研究生・研修生	科目等履修生
入学検定料	17,000円	30,000円	9,800円	9,800円
入学料	282,000円	282,000円	84,600円	28,200円
授業料	535,800円 (年額)	535,800円 (年額)	29,700円 (月額)	14,800円 (1単位につき)

### 授業料以外の学費について

[両学部共通]

- ・芸術祭・五芸祭費(4年間分)…30,000円
- ・学生教育研究災害障害保険料及び学研災付帯賠償責任保険料(4年間分)…4,660円※  
※在学期間により異なります(3年間:3,620円、2年間:2,430円、1年間:1,340円)
- ・愛知県立芸術大学後援会費…10,000円

[美術学部]入学時に要する経費の参考となります。

専攻	金額	内訳
日本画専攻 <sup>※1</sup>	120,000円	古美術研究旅行費
油画専攻 <sup>※2</sup>	70,000円	古美術研究旅行費
彫刻専攻	400,000円	古美術研究旅行費 100,000円 教材費 300,000円
芸術学専攻	100,000円	古美術研究旅行費
陶磁専攻 <sup>※3</sup>	360,000円	研修旅行費 250,000円 道具代 70,000円 原材料費(1年生分) 40,000円

※1 日本画専攻は、日本画材料費として別途250,000円程度徴収します。

※2 油画専攻は、基礎実技実習費として別途35,000円程度徴収します。

※3 陶磁専攻は、1年生分の原材料費を含みます。

- ・同窓会費(入会金及び終身会費)…20,000円

[音楽学部]

- ・同窓会費(入会金及び終身会費)…20,000円

### 免除制度

入学検定料、入学料、授業料について、免除制度が設けられています。

※授業料以外のその他の費用については、免除制度はありません。

## 奨学金

### 日本学生支援機構奨学金

独立行政法人日本学生支援機構が、優秀な学生で経済的理由のため修学困難な者に学資を貸与しています。申込みは大学を通じて行い、募集は原則として毎年4月に行います。

第一種(無利息)	20,000円/月～51,000円/月(条件あり)
第二種(利息付)	20,000円/月～120,000円/月から選択

### 大学独自の奨学金

個人からの寄附金により創設した基金等をもとに、学業優秀な者に対して奨学金や海外渡航費を給付しています。

(給付額は2018年度実績)

名称	対象	給付額	内容
片岡球子基金	美術学部、 美術研究科	400,000円	海外修学の助成
中村桃子基金	音楽研究科 (博士後期課程)	100,000円	奨学金
成績優秀者 奨学金事業	学部生、大学院生	250,000円	奨学金又は海外渡航費
兼松信子基金	音楽学部、 音楽研究科	500,000円	協定大学への海外留学奨学金

### その他の奨学金

財団法人の奨学金などを学務課が随時情報提供しています。

# 主な年中行事

## Main Annual Events

- 美術学部
- 音楽学部
- 大学院美術研究科
- 大学院音楽研究科

月	学事
4月	<b>入学式</b>
5月	<b>五芸祭(五芸術大学体育・文化交歓会)</b> <b>収蔵品展</b>
7月	<b>管弦楽団特別演奏会</b> <b>オープンキャンパス</b> 
9月	<b>管弦楽団ポピュラークラシックコンサート</b> <b>室内楽の楽しみ</b>
10月	<b>音楽学部定期演奏会</b> 音楽学部の全専攻・コースから選抜された学生によるソロ演奏や作曲作品の発表、専攻・コースを超えたコラボレーション演奏等を披露する、音楽学部の定期演奏会です。 <b>美術学部教員展</b>
11月	<b>芸術祭</b> 毎年11月上旬の3日間、すべて学生手作りの芸術祭を開催しています。学生の作品展示や演奏会・オペラ公演、講演会、クラブや有志参加による屋外ステージ、各専攻の伝統ある模擬店など、ユニークな催しが行われます。 

月	学事
11月	<b>管弦楽団定期演奏会</b> 1989年の器楽専攻管打楽器コース開設に伴い、翌1990年4月に誕生した管弦楽団による定期演奏会で、本学を代表する演奏会として定着しています。 
12月	<b>オペラ公演</b> 複合芸術プロジェクトとして、全学を挙げてオペラ公演を行っています。キャスト、合唱はもちろん、オーケストラの演奏、舞台美術の制作に至るまで、オペラ公演に関係する全てを音楽学部と美術学部の教員・学生が行います。 
1月	<b>ウィンドオーケストラ定期演奏会</b> <b>弦楽合奏定期演奏会</b>
2月	<b>ドクトラルコンサート</b> <b>卒業・修了制作展</b> <b>室内楽の夕べ</b> 
3月	<b>卒業演奏会</b> <b>大学院修了演奏会</b> <b>卒業式・修了式</b> <b>美術研究科博士学位論文作品展</b>

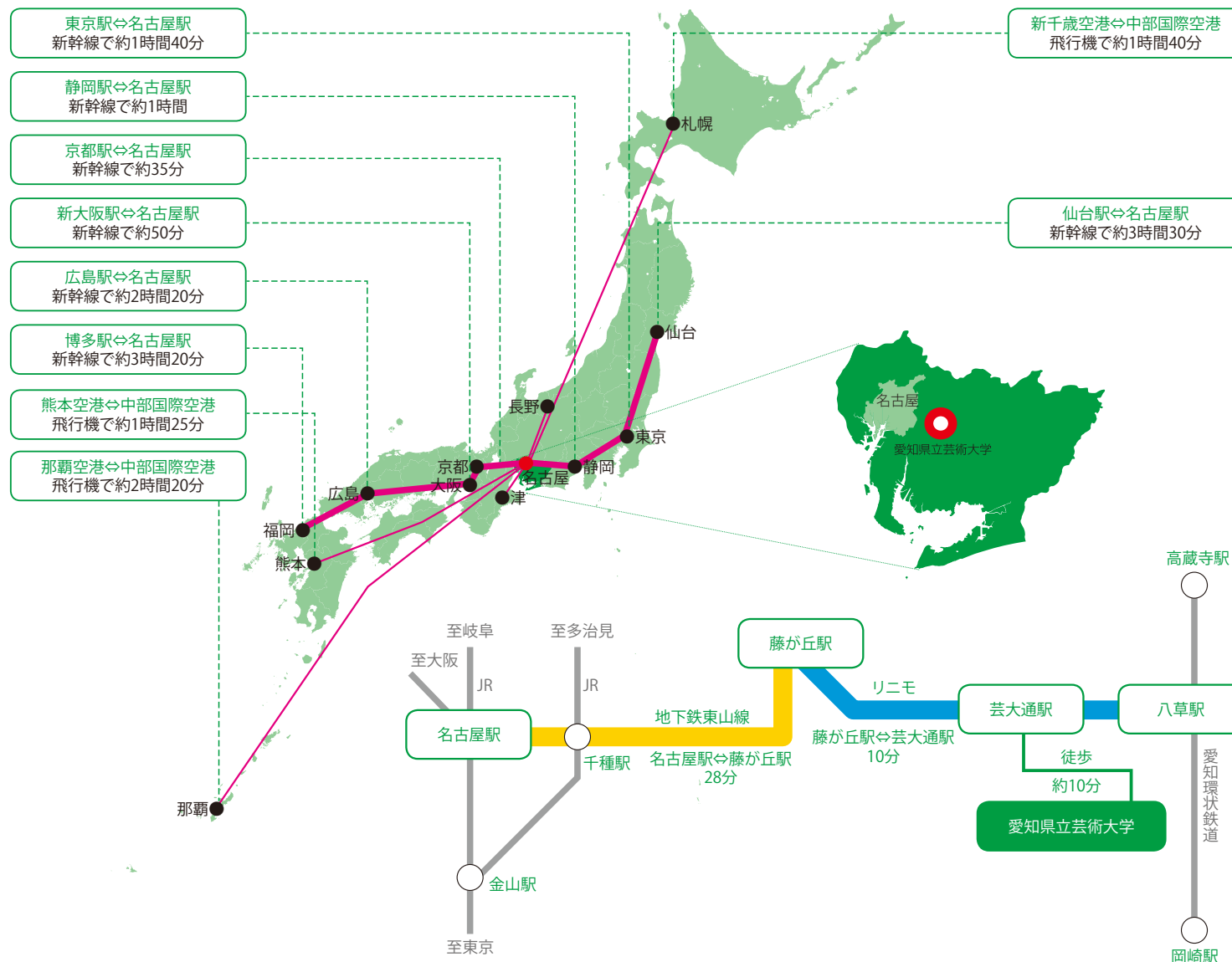
# アクセス

Access

## 愛知県は全国からアクセス良好

愛知芸大は日本のほぼ中央に位置し、東海道新幹線名古屋駅や中部国際空港、県営名古屋空港、東名高速道路名古屋インターにも近く、日本のどこからでもアクセスしやすくなっています。

名古屋駅からは、名古屋市営地下鉄東山線を乗り継いで、日本で唯一の「磁気浮上式リニアモーターカー」リニモ「芸大通」駅からすぐ。名古屋市街にもアクセスが良く、便利で快適な学生生活を送ることができます。



# お問合せ

Contact

## 愛知県立芸術大学

〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114

Aichi University of the Arts

1-114 Yazako, Sagamine, Nagakute, Aichi, #480-1194, Japan

## 事務部門

〈芸大総務課・施設設備課〉

課名	直通番号
芸大総務課	0561-76-2492
	0561-76-2408
施設設備課	0561-76-2415

〈入試課〉

課名	直通番号
入試課	0561-76-2603 (入試)
	0561-76-2683 (入試広報)

〈学務部〉

課名	係名	直通番号
学務課	教務係	0561-76-2749
		0561-76-2731
	学生支援・国際連携係	0561-76-2843 0561-76-2847 (就職支援) 0561-76-6499 (保健室)
芸術情報・広報課	地域連携・研究支援係	0561-76-2873
	広報担当	0561-76-2851
	図書情報係	0561-76-2963

## 愛知県立芸術大学 大学案内

2019年5月1日 発行

発行 愛知県立芸術大学

監修 愛知県立芸術大学広報(入試)委員会

デザイン グラーデ舎

扉写真 南部辰雄

オクムラ写真館

<http://www.aichi-fam-u.ac.jp/>

愛知芸大

検索





 愛知県立芸術大学